

日医総研ワーキングペーパー

有床診療所実態調査

-平成19年レセプト調査報告と方向性に関する考察-

No.149

2007年9月28日

日医総研

江口成美 野村真美 佐藤和孝 土橋邦夫

有床診療所実態調査 - 平成 19 年レセプト調査報告と方向性に関する考察 -
日本医師会総合政策研究機構 江口成美・野村真美・佐藤和孝・土橋邦夫

キーワード

有床診療所	診療報酬改定	レセプト調査
対前年度伸び率	移動年計	定点調査

ポイント

有床診療所は身近な病床として住民のニーズに細かく対応できるにもかかわらず、無床化による施設数の減少が続き、過去 25 年間で施設数が半数以下になっている。平成 18 年改定後も無床化が加速している。

レセプト調査からは、有床診の入院総点数の対前年度伸び率が 2005 年度の 0.1%から 2006 年度の 3.1%、外来総点数が 2005 年度の 1.3%から 2.1%、入院と外来の合計では、2005 年度の 1.0%から 2006 年度の 2.3%となり、2006 年度診療報酬改定の影響による保険収入の悪化が示された。本調査は定点調査であることが、厚生労働省のメディアスとは異なる。

入院点数への影響度は、主病床、診療科、病床規模、開設者による違いが大きく、例えば、主病床別で見ると療養病床を主とする施設では総点数 12.8%と大きなマイナス影響を受けた。診療科別では内科（ 7.1%）、外科（ 5.9%）での影響が大きかった。療養病床ならびに長期入院の入院基本料の引き下げが理由と推測される。

移動年計を用いて過去の月次推移を見ると、日数の減少傾向が過去 1 年間に顕著にみられ、保険収入の悪化につながっている。

有床診療所の入院医療の継続が可能となる報酬の検討が必要であると同時に、有床診療所の病床のあり方についての議論が必要とされている。小規模な病床の区分化や転換を行うのではなく、診療所病床として柔軟な活用形態を検討することで、高齢社会の中の地域住民のニーズに応えることが可能と思われる。

目次

はじめに	4
1. 有床診療所を巡る動き	5
2. 有床診療所平成 19 年実態調査 - レセプト調査	7
(1) 全体の傾向	8
前年度比較(入院、外来:全体)	8
移動年計(入院:全体)	12
(2) クロス分析	18
3. 有床診療所の機能と今後	24
4. 回答施設属性	32
5. 参考資料	40
(1) 概算医療費データベース(メディアス)との比較	40
(2) 移動年計(外来:全体)	41
(3) 移動年計(入院 + 外来:全体)	44
(4) 前年度比較(実数)	49
(5) 移動年計(クロス分析)	60
年齢別	60
開設者別	72
主病床別	84
診療科別	96

はじめに

わが国の医療機関は医療費抑制政策のもと、ますます厳しい経営に追いやられている。病床を有する有床診療所も例外ではなく、その施設数は平成 18 年の診療報酬改定や療養病床再編計画の影響を受けてさらに減少が加速している。そこで、本年 6 月に全国有床診療所連絡協議会の協力を得てレセプト調査を実施し、診療報酬改定後の保険収入への影響等を定点で把握した。

さらに、レセプト調査から現状を把握し、新たな局面を迎えている有床診療所の今後のあり方についても考察する¹。その背景として、医療提供体制の中で有床診療所をどのように位置付けるかについての本格的な議論が十分に行われていないという課題がある。

有床診療所は、地域事情に応じたきめ細かい医療提供を行っており、今後もその入院機能を十分に発揮できる環境を整えることが必要である。

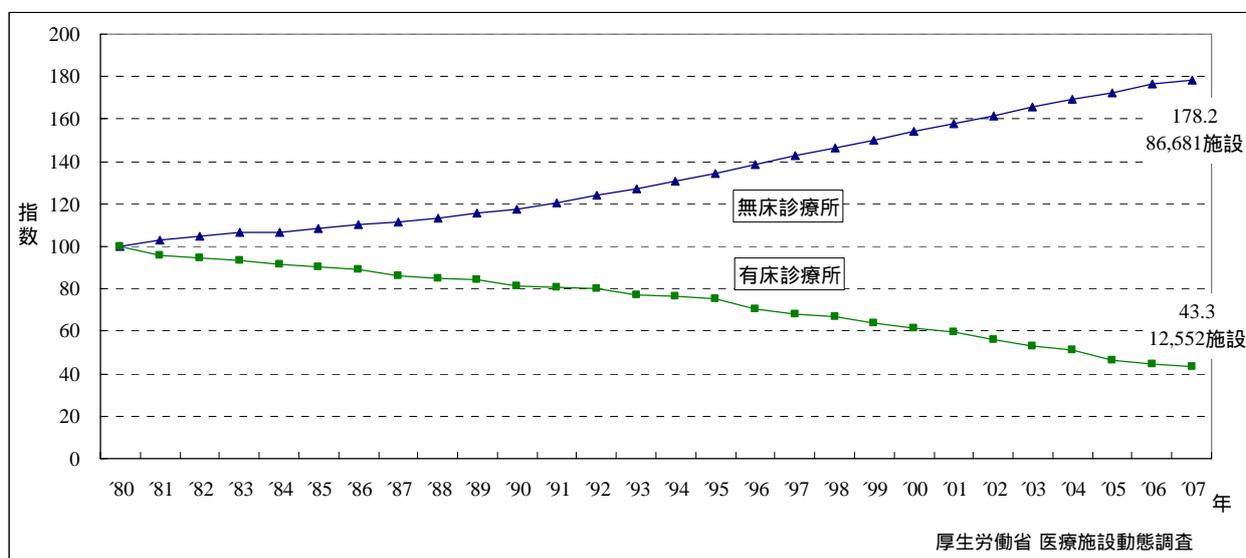
¹ 江口成美「制度改革の中で見直される有床診の機能と今後」、病院経営、2007 年 7 月 20 日号、産労総合研究所

1. 有床診療所を巡る動き

有床診療所は平成 18 年の医療法改正で 48 時間入院制限が撤廃され、病床の法的位置付けが確立された。しかしながら、施設数は減少の一途をたどっている。2007 年 6 月の医療施設動態調査によると、有床診療所の施設数は 12,552 施設で、過去 25 年間に半数以下に減少している。改定後の 1 年間には約 1,000 施設減少しており、その多くは無床診療所への転換である。現在の病床数は 156,776 床、うち療養病床が 19,418 床を占める。厚生労働省の療養病床再編案の影響で、療養病床数は過去 1 年間に約 3,700 床減少している。

有床診療所の施設数減少の背景には、24 時間体制で入院患者を診る負担に対して十分な対価が支払われていないと感じている現状がある。既存調査では、無床化する第一の理由は人件費の問題であった²。しかしながら、有床診療所は居住地に近い身近な場所で入院医療を提供することができ、患者やその家族にとって大きなメリットがある。地域によっては病院に代わる唯一の入院施設となっている。

図 1-1 施設数の推移(1980 年を 100 とする)



² 江口成美 「有床診療所の現状と課題 - 平成 18 年改正と平成 17 年実態調査報告」日医総研 WP No.125
2006 年 6 月

そもそも、わが国の医療提供体制の議論の中で、有床診療所のあり方について十分な議論が行われてきたとは言い難い。厚生労働省の「医療政策の経緯、現状および今後の課題について」(2007年4月)の中で、「有床診療所の病床は貴重な社会資源として活用する」という方向性は示されているが、具体的なあり方が示されていない。医療提供体制の中での位置付けを明確にした上で、入院医療への適切な対価を検討し、有床診療所の無床化に歯止めをかける必要がある。

「医療政策の経緯、現状及び今後の課題について」(厚生労働省 2007年4月)より抜粋

III. それぞれの問題点に対応した今後の医療政策の検討の方向性

(中小病院及び有床診療所の今後の位置づけ)

。。。 (中略) また、入院機能を有する診療所(有床診療所)について、看護等の職員体制が薄いといった課題もあるものの、地域における貴重な社会資源として有効な活用を図っていくべきである。こうした、個々の中小病院や有床診療所が地域において果たすべき機能・役割については、地域の様々な実情に応じて、医療計画においても可能な限り具体的に明記されるべきである。

2. 有床診療所平成 19 年実態調査 - レセプト調査

平成 18 年の診療報酬改定では、有床診療所の一般病床の 14 日以下の入院基本料は引き上げとなったが、15 日以上入院基本料は引き下げとなった。また、有床診療所の療養病床の大部分を占める医療区分 1 ならびに医療区分 2 の入院点数が引き下げとなった。その結果、長期入院患者が多くを占める施設に悪影響が及んでいる。保険収入等の現状を把握するために、実態調査の一環として定点のレセプト調査を実施した。

調査内容

- 保険診療収入（社保・国保）の推移を定点で把握する
- 点数、日数、件数の全体動向、1 日当たり点数・件数の動向から問題点を把握する
- 病床規模、療養病床数別などのクロス分析から現状の詳細把握を試みる

調査対象と回収数

- 調査対象 全国有床診療所連絡協議会会員全数 3,980 施設
- 回収数 回答施設数：1,107（27.8%）
有効回答数：1,059（26.6%）
- 調査時期 平成 19 年 5 月～6 月

用語の定義

本報告では、分析結果として主要 3 要素、主要 3 指標を示した。各用語の定義は以下の通りである。

主要 3 要素・・・総点数（医療費に相当）、総件数、総日数

主要 3 指標・・・1 件当たり点数、1 件当たり日数、1 日当たり点数

(1) 全体の傾向

前年度比較（入院、外来：全体）

有床診療所の入院と外来を合算した総点数の対前年度伸び率は、2005年度の1.0%から2006年度の2.3%に減少した。入院の総点数の対前年度伸び率は2005年度0.1%、2006年度3.1%であり、減少率が増大した。これは、改定の影響による1日当たり点数が微減している上に、1件当たり日数と総日数が減少していることによるものである。

外来の総点数の対前年度伸び率は、改定前の2005年度1.3%、改定後の2006年度2.1%であった。総件数は2005年度より引き続いての増加となっているが、改定の影響で1日当たり点数が減少した上、1件当たり日数と総日数の減少も相俟って、2005年度よりも大きく減少した。

表 2-1 主要3要素(総点数、総件数、総日数)の対前年伸び率

	n数	総点数		総件数		総日数	
		2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率
入院	579	-0.1%	-3.1%	-1.9%	-0.7%	-2.1%	-2.9%
外来	601	1.3%	-2.1%	0.8%	0.4%	-1.5%	-1.9%
入院+外来		1.0%	-2.3%	0.7%	0.3%	-1.6%	-2.0%

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のための集計とした。

表 2-2 主要3指標(1件当たり点数、1件当たり日数、1日当たり点数)の対前年伸び率

	n数	1件当たり点数		1件当たり日数		1日当たり点数	
		2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率
入院	579	1.9%	-2.4%	-0.1%	-2.2%	2.1%	-0.2%
外来	601	0.5%	-2.4%	-2.3%	-2.3%	2.8%	-0.2%
入院+外来		0.3%	-2.7%	-2.3%	-2.4%	2.6%	-0.3%

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のための集計とした。

対前年度からは、全体の平均としてマイナス傾向が強くなっていることが分かったが、さらに、2006年度の施設分布を見ると、大幅にマイナスになっている施設が多数あることが分かる。例えば、総点数、1日当たり点数、1日当たり件数について伸び率の施設分布を見ると、2006年度は全体の5割から6割の施設がマイナスで、うち、5%以上の施設が7割から8割を占めている。対前年度比率の平均は、比較的規模の大きい採算性の高い施設の影響を受けているが、施設分布からは、大幅にマイナスとなった施設の増加が確認できた。

入院総点数については、対前年度伸び率がマイナスとなった施設数が、2005年度では全体の51.3%であったが、2006年度には57.7%に増加している。2006年度では、20%未満が18.6%で全体の2割を占めている。

図 2-1 入院 総点数:対前年度伸び率の分布(2005年度)

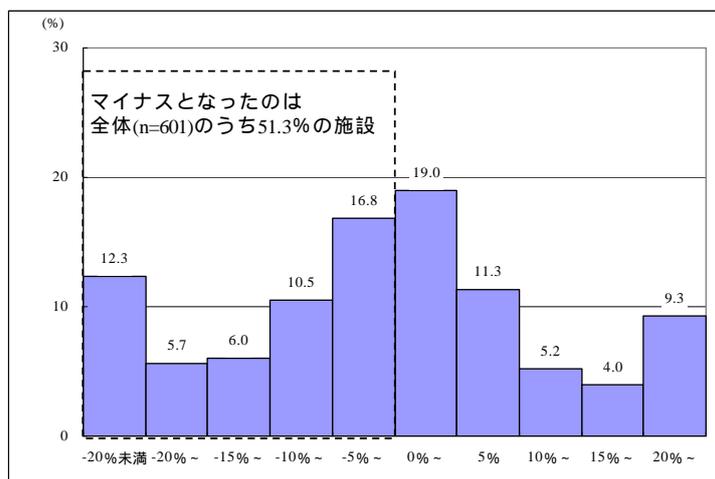
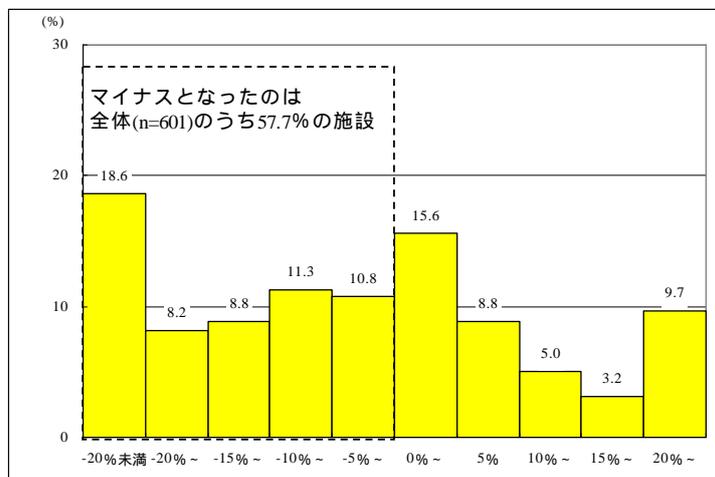


図 2-2 入院 総点数:対前年度伸び率の分布(2006年度)



次に、1日当たり入院点数の対前年度伸び率がマイナスとなった施設数は、2005年度では全体の44.3%であったが、2006年度には56.1%に増加している。

図 2-3 入院 1日当たり点数:対前年度伸び率の分布(2005年度)

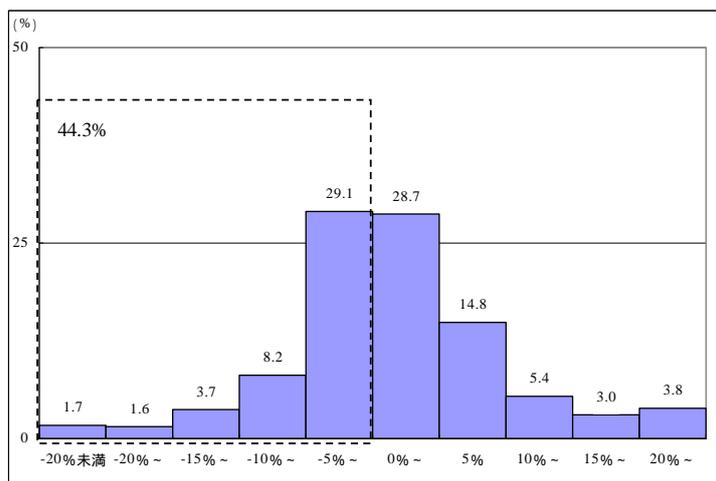
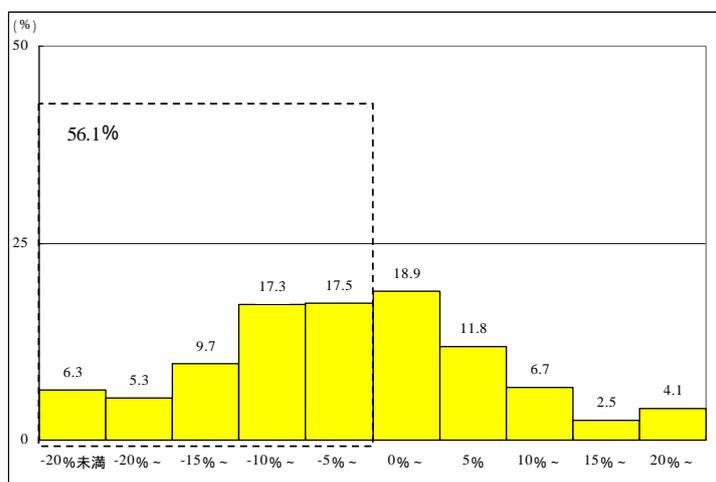


図 2-4 入院 1日当たり点数:対前年度伸び率の分布 (2006年度)



さらに、1 件当たり入院点数の対前年度伸び率がマイナスとなった施設数は、2005 年度では全体の 45.2%であったが、2006 年度には 60.9%に増加した。

図 2-5 入院 1 件当たり点数:対前年度伸び率の分布 (2005 年度)

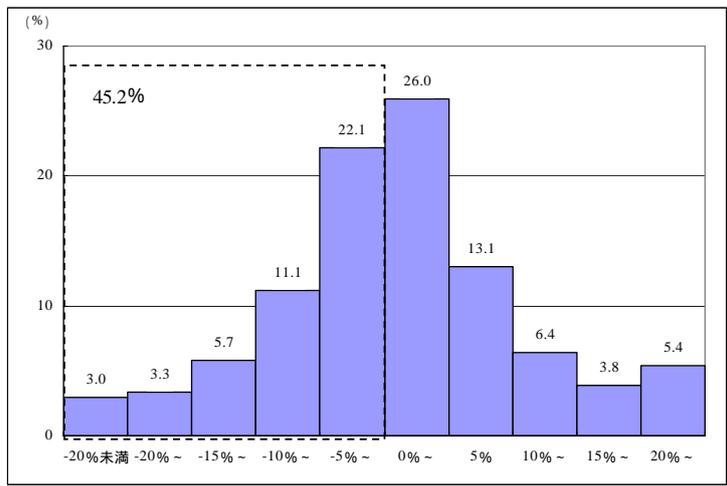
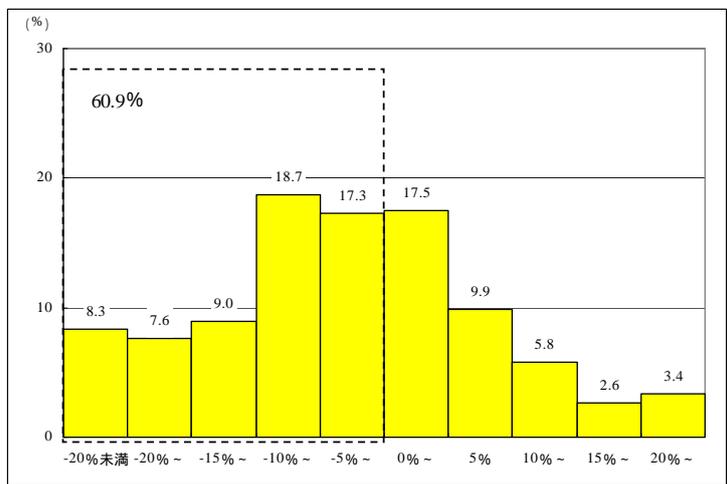


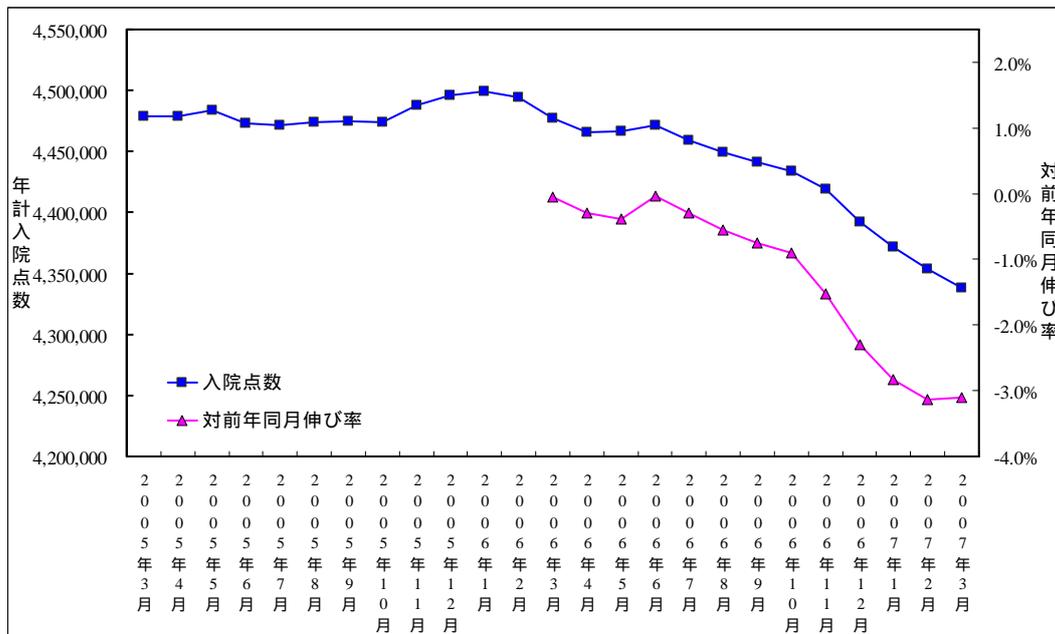
図 2-6 入院 1 件当たり点数:対前年度伸び率の分布 (2006 年度)



移動年計（入院：全体）

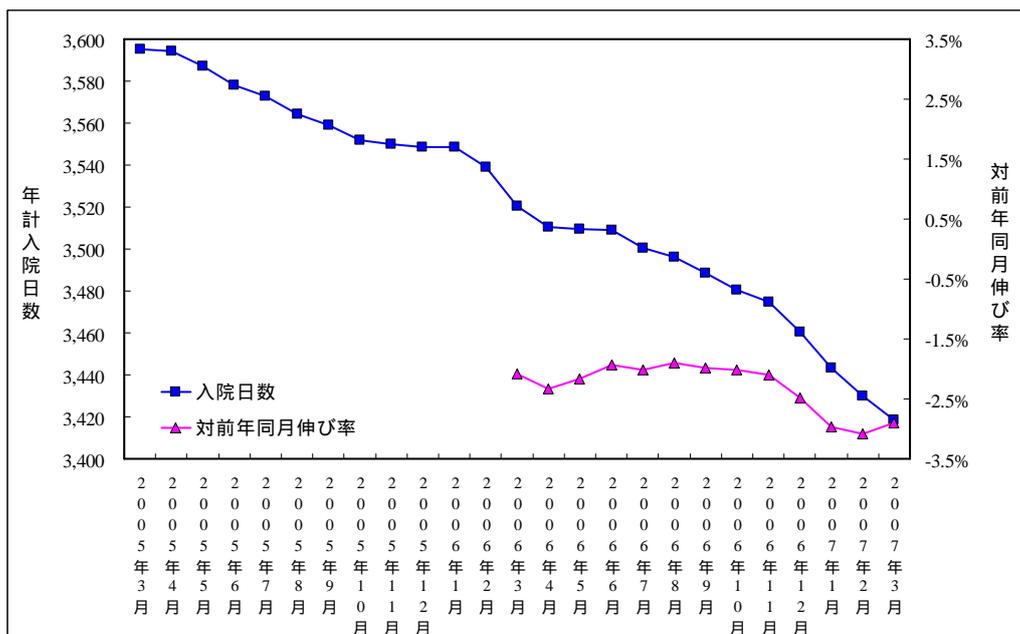
移動年計を用いると季節変動を取り除いた保険収入の推移を把握することができる。まず、年計入院点数は、2006年1月を境に2つの時期に区分できる。前半は、年計入院点数がほぼ横這いで推移し、2005年5月と2006年1月に2度のピークを示した比較的安定した期間である。後半は、2006年2月以降の時期であるが、この間は一貫して右肩下がりとなっている。後半は診療報酬マイナス改定の時期とほぼ一致する。2007年3月末時点では対前年比 3.1%の減少である。対前月比が引き続き 0.4%の減少を示しており、右肩下がり傾向に歯止めがかかっていない。

図 2-7 年計入院点数



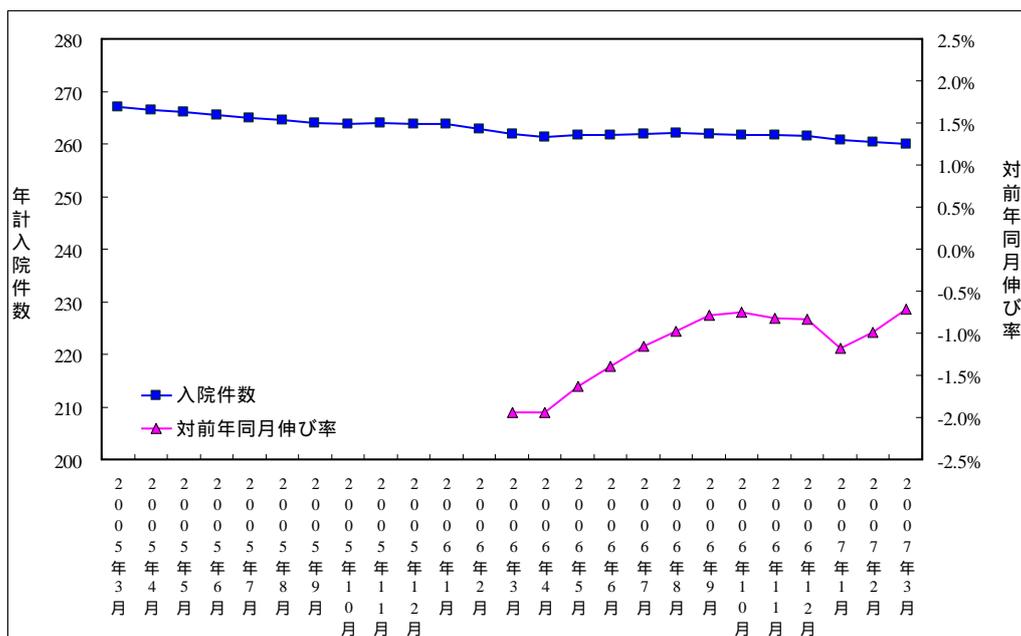
次に、入院延べ患者数を示す年計入院日数は一貫してほぼ右肩下がりの傾向にあり、2007年3月時点で対前年比 2.9%も減少した。また、2006年2月以降は、それ以前と比較して大きな減少傾向が観察できる。

図 2-8 年計入院日数



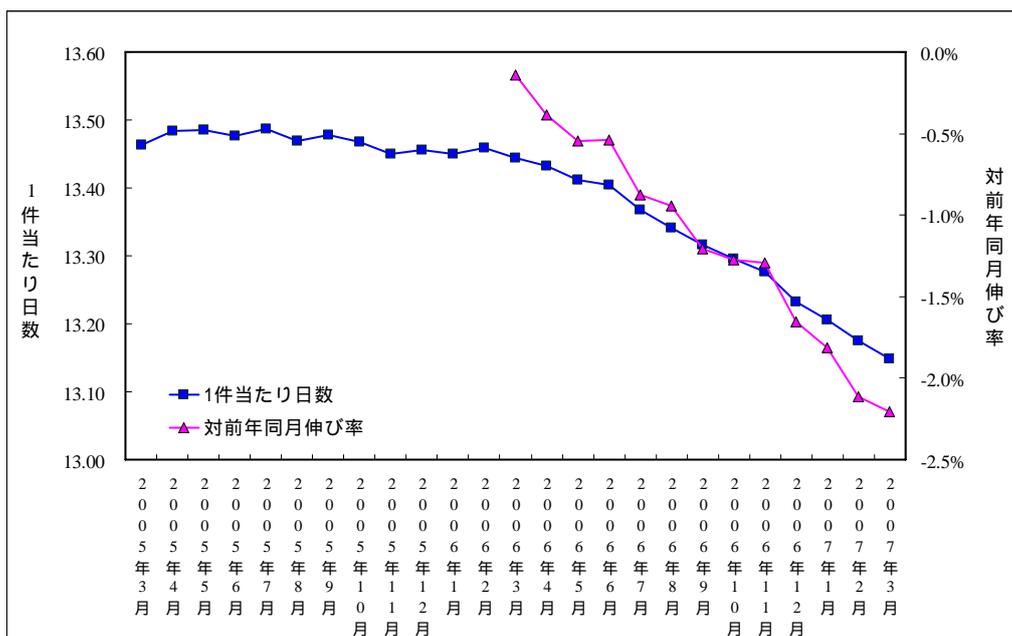
一方、実患者数を示す年計入院件数は、2005年10月から2006年1月の横這い期間を含んだ急降下の時期と後半に分けられる。後半は、比較的長い横這い期間の後のなだらかな減少傾向が観察できる。2007年3月末時点で見ると対前年比で0.7%の緩やかな減少となっている。

図 2-9 年計入院件数



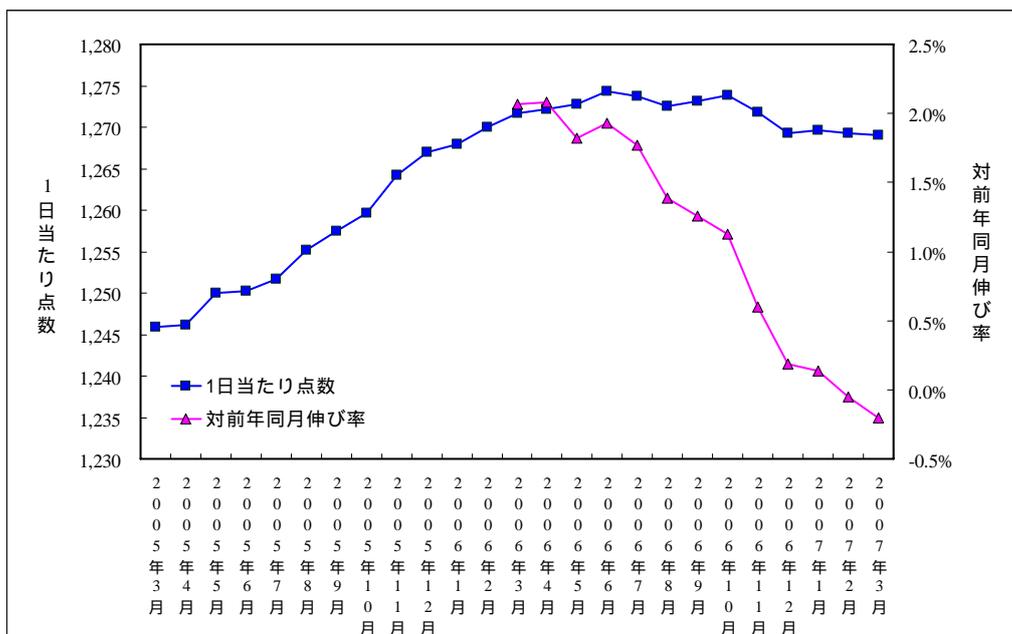
入院の1件当たり日数は、2006年3月から急激に減少し始め、2007年3月末時点で見ると対前年比 0.29日（ 2.2%）減少した。2006年3月末時点での対前年減少率が0.1%であったことを考慮すれば、急激に1件当たり日数が減少したことが分かる。1件当たり日数は入院期間と相関の高い指数であり、入院期間が大幅に減少していることが予想される。

図 2-10 1件当たり日数(入院)



1日当たり点数は、ほぼ一貫して増加傾向にあったが、2006年4月以降上昇のスピードにブレーキが掛かっている。2006年3月末時点では2.1%増を示していた対前年比は、2007年3月時点では0.2%とマイナスに転じた。

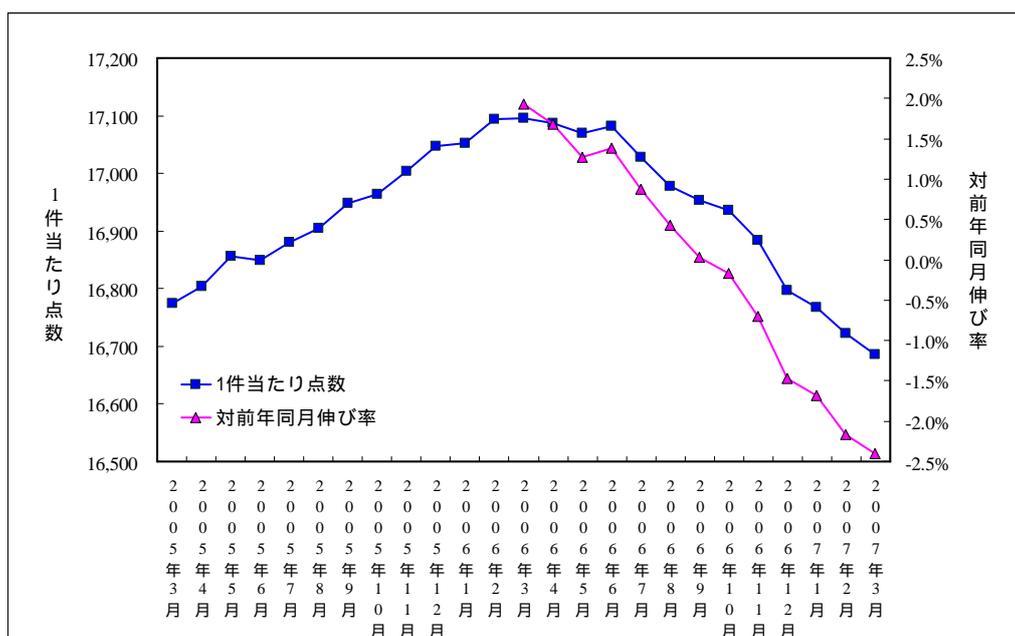
図 2-11 1日当たり点数(入院)



1 件当たり点数は、2006 年 4 月を境に 1 日当たり点数と全く逆の様相となった。前半の右肩上がりから一転し、診療報酬改定を境に、後半は右肩下がりへの展開となった。

1 件当たり点数は（1 日当たり点数×1 件当たり日数）で計算できる。前半は 1 日当たり点数の対前年伸び率（2006 年 3 月時点で +2.1%）が 1 件当たり日数の対前年比減少率（同 0.1%）を上回っていたが、後半は 1 日当たり点数の伸び率（2007 年 3 月末時点で 0.2%）が 1 件当たり日数の減少率（同 2.2%）を下回ったからである。早期退院を行うには 1 日当たりの処置量を増加させるケースが多いが、2006 年 4 月以降、早期退院のインセンティブがさらに高まったにもかかわらず、1 日当たりの入院料の減少が影響し、結果的に 1 件当たり点数の減少が加速していると推測される。

図 2-12 1 件当たり点数(入院)



最後に、この一年間の入院について考察すると、1 日当たり点数が微増しているが、それを上回る 1 件当たり日数の減少により単価面で苦しい展開となっている。それに患者数の減少、主に日数の大幅減が加わることで負の相乗効果が働き、点数の減少を招いているという実態にあるといえよう。

(2) クロス分析

対前年度比較

主病床別 - 療養病床 60%以上と未満の施設

有床診療所の病床の中で療養病床が占める割合が 60%未満の施設(「一般」と 60%以上の施設(「療養」)を分類してみると、療養の入院における総点数(12.8%)、総件数(3.3%)、総日数(5.2%)のすべてが大幅に減少となった。療養の 1 件当たり入院点数(9.9%)、1 日当たり入院点数(8.0%)の減少も顕著であった。平成 18 年の療養病床点数改定の影響と推測される。

表 2-3 主たる病床種類別にみた対前年伸び率: 主要 3 要素

		n数	総点数		総件数		総日数	
			2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率
一般	入院	470	-0.1%	-1.7%	-1.8%	-0.5%	-2.3%	-2.4%
	外来	482	1.3%	-2.0%	0.9%	0.4%	-1.5%	-1.8%
療養	入院	99	0.6%	-12.8%	-1.5%	-3.3%	-0.4%	-5.2%
	外来	101	-0.5%	-3.2%	-0.4%	-0.6%	-2.5%	-3.5%

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数 > 0の施設のみの集計とした。

表 2-4 主たる病床種類別にみた対前年伸び率: 主要 3 指標

		n数	1件当たり点数		1件当たり日数		1日当たり点数	
			2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率
一般	入院	470	1.7%	-1.3%	-0.5%	-1.9%	2.2%	0.7%
	外来	482	0.4%	-2.4%	-2.4%	-2.2%	2.8%	-0.2%
療養	入院	99	2.1%	-9.9%	1.1%	-2.1%	1.0%	-8.0%
	外来	101	-0.1%	-2.6%	-2.2%	-2.9%	2.1%	0.3%

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数 > 0の施設のみの集計とした。

病床数別

病床数別では、6～9床の2006年度入院総点数の減少率が最も大きく（7.3%）、総件数（5.8%）ならびに1日当たり入院点数（2.7%）の減少が影響していると推測できる。続いて15～18床（5.9%）、1～5床（5.2%）の順であった。1～5床は専門単科の施設が多く、1日当たり点数が増加したが、総日数の大幅減少が起こり、総点数が5.2%となっている。病床規模が大きい施設においても、1日当たり点数の伸び率を上回る総日数の減少率により、総点数のマイナスが生じている。

表 2-5 病床数区別にみた対前年伸び率:主要3要素

		n数	総点数		総件数		総日数	
			2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率
1～5床	入院	18	-1.8%	-5.2%	0.6%	-4.0%	-7.0%	-15.4%
	外来	20	1.4%	-0.8%	0.4%	-0.9%	-1.7%	-1.1%
6～9床	入院	19	-2.2%	-7.3%	-5.0%	-5.8%	-5.5%	-4.7%
	外来	21	2.4%	-2.8%	0.7%	-0.8%	-1.5%	-1.6%
10～14床	入院	65	-7.8%	-2.4%	-4.8%	0.4%	-7.5%	-6.5%
	外来	71	1.7%	-2.0%	1.0%	-0.7%	-1.5%	-3.4%
15～18床	入院	110	1.2%	-5.9%	0.1%	0.0%	0.6%	-4.8%
	外来	116	1.6%	-2.6%	0.6%	0.1%	-1.4%	-2.9%
19床	入院	367	0.4%	-2.6%	-2.0%	-0.8%	-2.2%	-2.3%
	外来	373	1.1%	-2.0%	0.9%	0.8%	-1.5%	-1.5%

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみの集計とした。

表 2-6 病床数区別にみた対前年伸び率:主要3指標

		n数	1件当たり点数		1件当たり日数		1日当たり点数	
			2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率
1～5床	入院	18	-2.3%	-1.3%	-7.5%	-11.9%	5.6%	12.1%
	外来	20	1.0%	0.1%	-2.1%	-0.3%	3.2%	0.3%
6～9床	入院	19	2.9%	-1.5%	-0.5%	1.2%	3.4%	-2.7%
	外来	21	1.7%	-1.9%	-2.1%	-0.7%	3.9%	-1.2%
10～14床	入院	65	-3.2%	-2.8%	-2.9%	-6.9%	-0.3%	4.4%
	外来	71	0.8%	-1.3%	-2.4%	-2.7%	3.3%	1.4%
15～18床	入院	110	1.1%	-5.9%	0.6%	-4.7%	0.5%	-1.2%
	外来	116	1.0%	-2.7%	-2.0%	-3.0%	3.1%	0.3%
19床	入院	367	2.5%	-1.7%	-0.2%	-1.4%	2.7%	-0.3%
	外来	373	0.3%	-2.8%	-2.3%	-2.3%	2.7%	-0.5%

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみの集計とした。

年齢別

すべての年齢区分で総点数が減少しているが、特に45歳未満の入院総点数(6.6%)、外来総点数(4.0%)の減少率が大きい。また、45歳未満の入院総件数(3.4%)、入院総日数(7.4%)の減少が、他の年齢区分と比べて顕著である。開業年数が浅い、比較的若い施設長の施設では、日数の減少と患者数の減少により、総点数の減少を余儀なくされている。

表 2-7 対前年伸び率:主要3要素

	n数	総点数		総件数		総日数		
		2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	
～45歳未満	入院	27	3.7%	-6.6%	3.9%	-3.4%	1.5%	-7.4%
	外来	28	4.8%	-4.0%	3.4%	2.5%	-0.3%	-1.4%
45～55歳未満	入院	99	2.4%	-3.3%	-2.2%	-1.2%	-1.6%	-2.0%
	外来	100	3.0%	-2.6%	2.3%	0.9%	-0.8%	-2.2%
55～65歳未満	入院	220	-0.7%	-2.7%	-1.9%	-1.0%	-2.8%	-2.7%
	外来	223	1.1%	-1.2%	0.7%	0.3%	-1.0%	-1.7%
65～75歳未満	入院	173	-1.0%	-3.0%	-2.9%	-0.7%	-2.4%	-3.4%
	外来	182	0.6%	-2.5%	-0.2%	-0.3%	-2.3%	-1.8%
75歳以上	入院	58	-1.4%	-2.8%	-1.0%	3.2%	-0.4%	-2.1%
	外来	65	-0.3%	-3.2%	-0.6%	0.1%	-3.5%	-3.2%

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみの集計とした。

表 2-8 対前年伸び率:主要3指標

	n数	1件当たり点数		1件当たり日数		1日当たり点数		
		2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	
～45歳未満	入院	27	-0.3%	-3.3%	-2.4%	-4.2%	2.2%	0.9%
	外来	28	1.3%	-6.4%	-3.6%	-3.8%	5.1%	-2.6%
45～55歳未満	入院	99	4.8%	-2.2%	0.6%	-0.8%	4.1%	-1.4%
	外来	100	0.7%	-3.4%	-3.0%	-3.1%	3.8%	-0.4%
55～65歳未満	入院	220	1.2%	-1.7%	-0.8%	-1.7%	2.1%	-0.1%
	外来	223	0.4%	-1.6%	-1.7%	-2.0%	2.2%	0.5%
65～75歳未満	入院	173	1.9%	-2.4%	0.4%	-2.7%	1.5%	0.4%
	外来	182	0.7%	-2.3%	-2.1%	-1.5%	2.9%	-0.8%
75歳以上	入院	58	-0.4%	-5.8%	0.7%	-5.2%	-1.1%	-0.7%
	外来	65	0.3%	-3.4%	-2.9%	-3.3%	3.3%	-0.1%

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみの集計とした。

診療科別

診療科別に見ると、2006年度の入院総点数は、内科が7.1%、外科が5.9%で、長期入院患者の多い診療科での大きな減少が目立った。内科では、長期入院基本料の低減によって1日当たり点数が3.4%となった上に、総日数が減少し(3.8%)総点数の大幅減少につながっていることが推測できる。一方、短期入院患者が多い専門単科の耳鼻咽喉科ならびに眼科では、1日当たり点数が増加し、入院総点数がそれぞれ6.0%、0.5%増加している。

2006年度の外来総点数については、全ての診療科で、2005年度と比べ、縮小している。同年度の外来点数が増加したのは、泌尿器科(2.6%)ならびに脳神経外科(0.2%)であり、それ以外の診療科は減少した。

表 2-9 診療科別にみた対前年伸び率:主要3要素

	n数	総点数		総件数		総日数		
		2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	
内科	入院	212	-0.6%	-7.1%	-2.5%	-1.8%	-1.6%	-3.8%
	外来	220	1.0%	-3.1%	0.1%	0.6%	-2.4%	-2.2%
小児科	入院	7	3.4%	-0.4%	-2.3%	-4.0%	5.6%	-2.8%
	外来	7	-3.6%	-4.5%	-1.8%	-3.8%	-2.3%	-4.4%
外科	入院	95	-2.6%	-5.9%	-3.3%	-1.4%	-3.4%	-3.1%
	外来	103	-0.6%	-3.4%	-0.3%	-0.8%	-3.2%	-3.2%
整形外科	入院	90	2.6%	-0.7%	-0.6%	-1.2%	-1.1%	-2.6%
	外来	93	1.5%	-0.9%	2.2%	0.8%	0.1%	-1.8%
脳神経外科	入院	13	-1.0%	-3.1%	-4.3%	0.3%	-1.5%	-5.7%
	外来	13	2.0%	0.2%	2.8%	3.0%	-0.9%	-2.4%
産科・婦人科	入院	87	2.0%	1.8%	-1.2%	1.6%	-2.1%	-0.1%
	外来	88	0.5%	-3.8%	0.6%	0.3%	-1.1%	-1.1%
眼科	入院	30	0.3%	0.5%	0.1%	-2.2%	-4.7%	-1.9%
	外来	31	3.1%	-2.0%	0.9%	-1.2%	-0.8%	-1.8%
耳鼻咽喉科	入院	4	-7.2%	6.0%	-11.7%	3.2%	-9.9%	1.7%
	外来	4	1.2%	-0.4%	4.6%	3.9%	2.2%	-0.1%
泌尿器科	入院	22	-1.6%	-2.1%	-0.9%	1.8%	-3.7%	-1.0%
	外来	22	4.7%	2.6%	2.3%	2.7%	1.3%	3.4%
その他	入院	19	-2.3%	0.4%	-2.0%	-1.5%	-5.7%	-0.1%
	外来	20	1.0%	-2.4%	3.0%	1.6%	-2.2%	-0.9%
(再掲) 人工透析あり	入院	40	-0.5%	-3.2%	-0.8%	-1.0%	-2.4%	-3.7%
	外来	42	3.4%	0.8%	1.2%	1.2%	1.0%	2.4%

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のための集計とした。
回答施設数が3未満の診療科は、その他に含めた。

表 2-10 診療科別にみた対前年伸び率:主要 3 指標

		n数	1件当たり点数		1件当たり日数		1日当たり点数	
			2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率
内科	入院	212	2.0%	-5.4%	1.0%	-2.0%	1.0%	-3.4%
	外来	220	0.8%	-3.7%	-2.5%	-2.8%	3.5%	-1.0%
小児科	入院	7	5.9%	3.8%	8.1%	1.3%	-2.1%	2.4%
	外来	7	-1.8%	-0.8%	-0.5%	-0.7%	-1.2%	-0.1%
外科	入院	95	0.7%	-4.5%	-0.1%	-1.7%	0.8%	-2.8%
	外来	103	-0.3%	-2.7%	-2.8%	-2.4%	2.6%	-0.2%
整形外科	入院	90	3.1%	0.5%	-0.6%	-1.4%	3.7%	2.0%
	外来	93	-0.6%	-1.7%	-2.0%	-2.6%	1.4%	1.0%
脳神経外科	入院	13	3.4%	-3.5%	2.9%	-6.0%	0.5%	2.7%
	外来	13	-0.8%	-2.7%	-3.6%	-5.3%	2.9%	2.7%
産科・婦人科	入院	87	3.3%	0.2%	-0.8%	-1.7%	4.1%	1.9%
	外来	88	-0.1%	-4.1%	-1.6%	-1.5%	1.6%	-2.6%
眼科	入院	30	0.2%	2.8%	-4.8%	0.3%	5.3%	2.4%
	外来	31	2.2%	-0.8%	-1.7%	-0.6%	4.0%	-0.2%
耳鼻咽喉科	入院	4	5.1%	2.7%	2.0%	-1.5%	3.1%	4.2%
	外来	4	-3.2%	-4.2%	-2.3%	-3.9%	-0.9%	-0.3%
泌尿器科	入院	22	-0.7%	-3.8%	-2.9%	-2.8%	2.2%	-1.1%
	外来	22	2.4%	-0.1%	-0.9%	0.7%	3.3%	-0.8%
その他	入院	19	-0.3%	1.9%	-3.7%	1.4%	3.6%	0.5%
	外来	20	-2.0%	-3.9%	-5.1%	-2.5%	3.3%	-1.5%
(再掲) 人工透析あり	入院	40	0.3%	-2.2%	-1.6%	-2.7%	1.9%	0.5%
	外来	42	2.2%	-0.4%	-0.2%	1.1%	2.3%	-1.5%

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数 > 0の施設のための集計とした。
回答施設数が3未満の診療科は、その他に含めた。

開設者別

2006年度の個人の総点数を見ると、入院が6.4%、外来が3.9%であり、法人に比べて減少幅が大きかった。これは、2005年度に引き続いて、総件数が法人を上回る減少を示したことから、改定の影響で2006年度の1日当たり点数が減少(入院3.0%、外来1.1%)したことによるものである。

表 2-11 開設者別にみた対前年伸び率:主要3要素

	n数	総点数		総件数		総日数		
		2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	
個人	入院	157	-1.2%	-6.4%	-3.7%	-2.1%	-2.0%	-3.5%
	外来	168	0.4%	-3.9%	0.2%	-0.2%	-2.4%	-2.8%
法人その他	入院	418	0.2%	-2.2%	-1.5%	-0.3%	-2.1%	-2.7%
	外来	429	1.5%	-1.6%	1.0%	0.5%	-1.2%	-1.7%

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のための集計とした。

表 2-12 開設者別にみた対前年伸び率:主要3指標

	n数	1件当たり点数		1件当たり日数		1日当たり点数		
		2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	
個人	入院	157	2.6%	-4.3%	1.8%	-1.4%	0.8%	-3.0%
	外来	168	0.2%	-3.7%	-2.6%	-2.6%	2.9%	-1.1%
法人その他	入院	418	1.7%	-1.9%	-0.7%	-2.4%	2.4%	0.5%
	外来	429	0.5%	-2.2%	-2.2%	-2.2%	2.8%	0.0%

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のための集計とした。

3. 有床診療所の機能と今後

平成 17 年実態調査²では、有床診療所の損益分岐点比率は 93.8%と算出されており、有床診療所の経営の厳しさが示された。上記のレセプト調査が示した改定による保険収入の大きな減少により、さらに厳しい経営を強いられている可能性が高い。物理的・精神的負担に見合わない入院報酬で希望を失い、病床を閉鎖する施設が増え、有床診療所の施設数が減少していることが想像できる。有床診療所はそれぞれの地域に応じて、さまざまな機能を発揮してきている。今後の地域ケア整備計画や後期高齢者医療制度の中で、有床診療の役割を再認識し、その位置付けを明確にすることで、地域の医療ニーズに応え地域医療の向上を図ることができる。以下では、有床診療所の特性と機能について概括する。

特性と機能

有床診療所の特性の 1 つは、患者の居住地との近接性である。平成 17 年実態調査²からは、約半数の患者は居住地から診療所までの時間が 15 分以内であった。居住地から入院施設までが近いことは、入院患者やその家族にとって大きなメリットである。特性の 2 つ目は夜間・休日を含めた 24 時間の医療看護体制が行われていることで、無床診療所との大きな違いでもある。特性の 3 つ目は、医師が身近な「かかりつけの医師」として、患者の身体的・社会的状況を踏まえた医療・介護サービスを提供できることである。有床診療所はこれらの特性を踏まえて、病院や無床診療所とは異なる位置付けで地域住民のニーズに細かく対応することができるはずである。

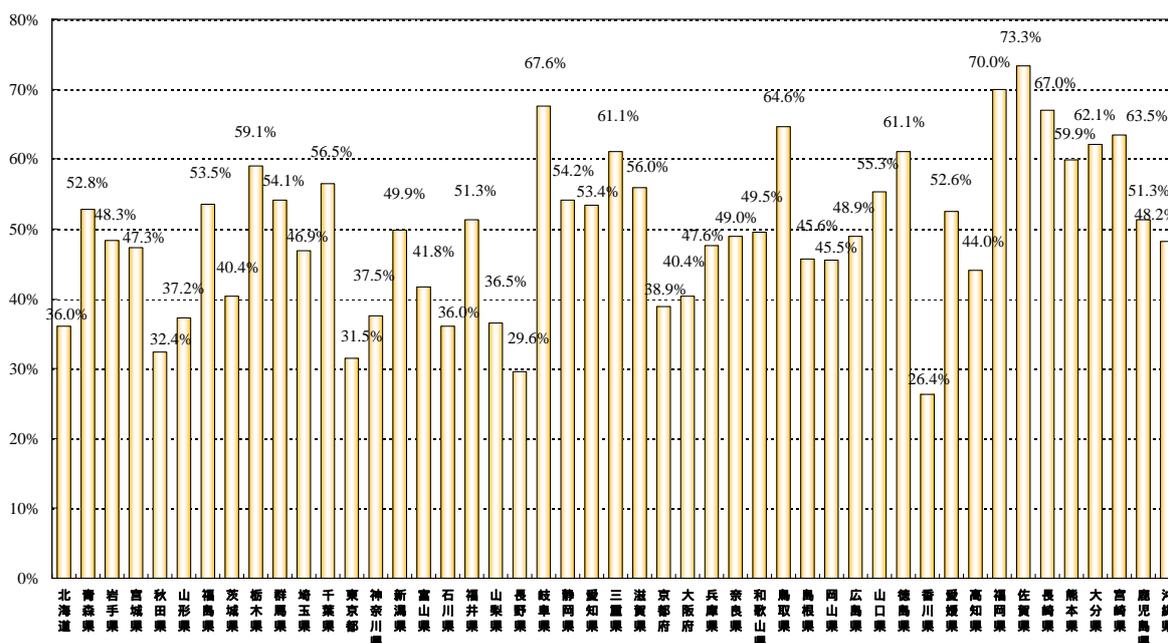
有床診療所の機能は、今までにも広く議論されてきた。有床診療所は、専門性の高い医療、病院からの早期退院患者の受け皿機能、在宅医療の後方支援、終末期医療・緩和医療など多岐の機能を持ち合わせている³。また、へき地など地域に病院がない地域では、病院に代わる入院施設として地域住民への医療提供において大きな役割を果たしている。さらに、介護療養病床や併設施設を用いて介護サービスを提供している施設も多い。これらは、今後も有床診療所に期待される機能である。

多くの有床診療所が、地域のニーズに応じて急性期から慢性期までの患者を受け入れ、複数の機能を持ち合わせる、いわゆるケアミックスの施設であることも注目すべき点である。

³ 江口成美 「平成 18 年度医療法改正・診療報酬改定と有床診療所の今後」病院経営 2006.5.20 産労総合研究所

第一に、専門性の高い医療であるが、有床診療所は病院と同等の医療を小規模な施設で提供している。眼科、耳鼻咽喉科、外科や人工透析などの専門単科では、高度な手術を含む専門性の高い医療を提供している。産婦人科については、全国の分娩の47.4%が有床診療所で実施されている。県別に見ると地域差が大きい。最も高い佐賀県では出生の73.3%が診療所で行われている。

図 3-1 診療所での出生割合(都道府県別)



厚生労働省 人口動態調査(2005)

第二に、病院からの患者の受け皿機能である。これは有床診療所の重要な機能の一つであり、今後も必要度が増すことが予想される。例えば、病院の医療区分1の患者の割合は、2006年改定の医療区分導入前は5割であったが、導入後は3~4割に減少している⁴。ところが、有床診療所では導入前後で区分1の患者の割合に大きな変化がなく、依然、5~6割を占めている⁵。つまり、病院は、医療必要度が高く報酬が高い区分2の患者を多く入院させたが、有床診療所は地域のニーズに応じて、引き続き区分1の患者を受け入れ続けていることが想像できる。高齢化と療養病床再編案に伴う混乱の中で、有床診療所のこのような受け皿機能は今後いっそう重要度が増すであろう。

⁴ 厚生労働省 「慢性期入院医療実態調査に基づく患者分類」(2005年11月)では、医療区分1に分類される患者の割合は50.2%であった(病院のみ)。「都道府県における療養病床アンケート調査結果」(2007年3月)では、医療区分1の患者の割合は病院が35.9%、有床診療所が53.5%

⁵ 日本医師会 「療養病床の再編に関する緊急調査報告」(2006年10月)医療区分1の患者の割合は病院が41.0%、有床診療所が59.9% (2006年7月時点)

第三に、夜間の看護職配置が行われている有床診療所は、職員の 24 時間体制を確保でき、後方支援としての病床を有効に用いることができる。救急医療や電話相談への対応が可能であり、在宅医療の拠点としての機能を果たすこともできる。在宅医療については、今回のレセプト調査からは、全体の 32.7% が在宅療養支援診療所の届出を行っていた。

ただし、一人医師が多数を占める有床診療所にとって、担当医の 24 時間確保は必ずしも容易でなく今後の課題も多い⁶。レセプト調査からも、在宅療養支援診療所の届出を行っている施設のうち、1 ヶ月当たりの算定が 0 件であった施設が 35.1% を占めた。1 件もしくは 2 件の施設は 17.2% である。一人医師の場合は自院を空けることができないなどの課題も抱えており、今後は、在宅医療の地域連携をどのように進めるかが鍵であろう。

第四に、終末期医療・緩和ケアについてであるが、既存調査では、有床診療所全体の中で、終末期の患者が 1 人以上いる施設は全体の約 17% を占めている³。また、在宅療養支援診療所の届出を行っている施設で、終末期医療を実施していると回答した施設は 60.4% と高く、無床診療所の 50.9% を上回っていた⁶。患者の居住地に近い有床診療所は、終末期医療においても患者やその家族に安心感を与え、連続性のあるケアの提供が可能である。

最後に、有床診療所の介護療養病床は 8,521 床であり、療養病床の約 3 分の 1 を占める。現在、厚生労働省の病床転換支援策が次々と公表されているが、介護病床を今後どのように運営するかは喫緊の課題である。地域差は大きく、それぞれの地域での介護ニーズに即した病床の利用が行われてきた。例えば、長崎県や大分県のように 600 床以上ある県や、埼玉県のように診療所の介護療養病床がない地域もある。今後は、短期入所生活介護（ショートステイ）としての活用を積極的に取り入れるべきであろう。一方、介護については、併設施設として、従来から老健やグループホームなどの介護施設や福祉施設を所有している有床診療所もある。併設施設を持つ施設の割合は全体の 11%（2005 年で 1,539 施設）にのぼっており、多角経営を行う余力がある施設は、介護サービスを行ってきている。

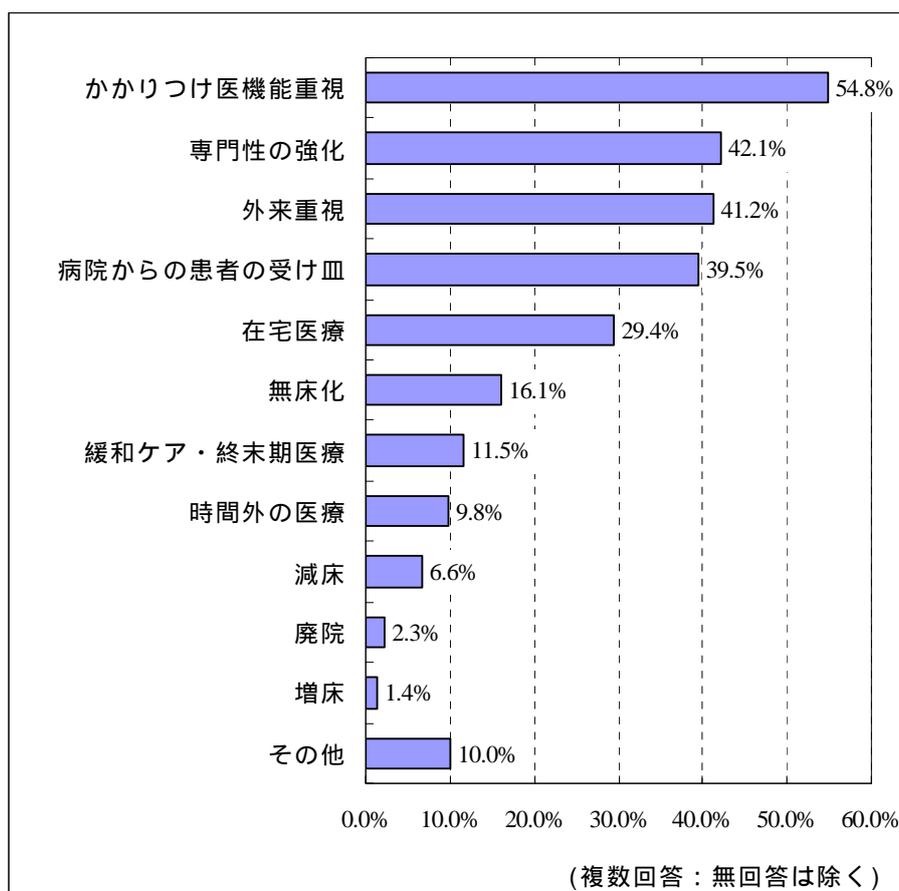
⁶ 福岡県医師会、福岡県メディカルセンター保健・医療・福祉機構、日医総研「在宅療養支援診療所実態調査」日医総研 WP No.142 2007 年 5 月

今後の方向性(調査回答)

レセプト調査の中で今後の方向性ならびに病床についての質問を行ったところ、複数回答で最も回答が多かったのは「かかりつけ医機能重視(54.8%)」で、第二が「専門性の強化(42.1%)」、第三が「外来重視(41.2%)」、第四が「病院からの患者の受け皿(39.5%)」、第五が「在宅医療(29.4%)」であった。一方、「無床化」を将来方向とする施設が全体の16.1%にのぼり、「廃院」と合わせると18.4%を占める。無床化を望む施設は平成17年の調査では全体の13.4%であり、今回は2.7ポイント増加している。

全般に、かかりつけの医師としての機能を今後も重視しつつ、専門機能や受け皿機能を果たしていく方向性であるが、外来重視や在宅医療へのシフト、また無床化などの方向転換を検討している施設が多いことが分かる。

図 3-2 今後の方向性ならびに病床について



将来方向についても、診療科や主たる病床の種類、病床規模によって大きく異なる。診療科別では、内科、外科では、かかりつけ医機能の重視、病院受け皿、在宅医療の重視が高いのに対し、眼科、産婦人科、耳鼻咽喉科では、専門性の強化を重視している。また、療養病床を主とする施設では、在宅医療を強化するとした施設が51.4%で、一般病床を主とする施設の25.5%を大きく上回っている。

表 3-1 今後の方向性ならびに病床について(主たる診療科別)

主たる診療科	内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	産科・婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	泌尿器科	精神科 神経科	その他
n数	379	14	189	151	23	167	60	8	3	32	6	26
専門性の強化	29.0%	28.6%	31.7%	51.7%	56.5%	54.5%	61.7%	62.5%	33.3%	81.3%	50.0%	65.4%
病院からの 患者の受け皿	45.4%	28.6%	55.6%	53.6%	26.1%	12.6%	10.0%	25.0%	0.0%	28.1%	0.0%	42.3%
かかりつけ医 機能重視	72.3%	50.0%	72.0%	49.0%	43.5%	26.3%	15.0%	37.5%	0.0%	28.1%	33.3%	42.3%
外来重視	50.1%	50.0%	39.2%	39.7%	39.1%	24.0%	38.3%	75.0%	66.7%	37.5%	66.7%	30.8%
時間外の医療	12.9%	7.1%	8.5%	10.6%	8.7%	6.6%	1.7%	25.0%	0.0%	9.4%	33.3%	3.8%
在宅医療	46.2%	28.6%	40.7%	17.9%	13.0%	3.6%	1.7%	12.5%	0.0%	31.3%	16.7%	19.2%
緩和ケア 終末期医療	19.3%	7.1%	16.9%	3.3%	0.0%	1.2%	0.0%	12.5%	0.0%	15.6%	0.0%	11.5%
無床化	18.2%	28.6%	16.4%	16.6%	13.0%	13.8%	10.0%	12.5%	0.0%	12.5%	50.0%	7.7%
廃院	2.6%	7.1%	1.1%	0.7%	0.0%	5.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%

表 3-2 今後の方向性ならびに病床について(主たる病床別)

主たる病床	一般	療養
n数	838	177
専門性の強化	47.0%	21.5%
病院からの 患者の受け皿	38.5%	49.7%
かかりつけ医 機能重視	51.9%	72.9%
外来重視	40.8%	42.4%
時間外の医療	9.9%	10.7%
在宅医療	25.5%	51.4%
緩和ケア 終末期医療	9.2%	25.4%
無床化	16.1%	15.8%
廃院	1.8%	2.3%

さらに、病床規模別に見ると、19床の施設では病院からの受け皿と在宅医療の強化が他の区分に比べて多く、無床化の希望も12.5%で最も低い水準であった。

表 3-3 今後の方向性ならびに病床について(病床数別)

病床数	1～5床	6～9床	10～14床	15～18床	19床
n数	49	67	149	216	578
専門性の強化	30.6%	47.8%	42.3%	39.4%	43.4%
病院からの患者の受け皿	8.2%	23.9%	28.2%	39.8%	46.7%
かかりつけ機能重視	30.6%	32.8%	43.6%	60.2%	60.2%
外来重視	55.1%	40.3%	36.9%	41.2%	41.2%
時間外の医療	2.0%	3.0%	7.4%	10.2%	11.8%
在宅医療	12.2%	13.4%	24.2%	26.9%	34.9%
緩和ケア 終末期医療	2.0%	6.0%	9.4%	10.6%	13.8%
無床化	34.7%	22.4%	20.8%	16.7%	12.5%
廃院	6.1%	7.5%	5.4%	1.4%	0.9%

病床の将来について

厚生労働省は有床診療所の療養病床についても、転換を奨励し、さまざまな転換支援策を提供し始めている。しかしながら、小規模の有床診療所が、その一部あるいは全部を介護施設に転換することは、たとえ緩和措置や優遇措置があっても経営者にとって投資は必ずしも容易でない。また、小規模の介護施設の収益性は必ずしも高いとはいえない。

病床の転換によって地域ニーズに応えることも選択肢の一つであるが、小規模施設であることを考えると、むしろ現行の病床をそのまま柔軟に活用する方策も将来方向として検討してはどうであろうか。

まず、有床診療所の病床については、一般病床と療養病床の区分をはずし、一括りで運営することが望ましいであろう。19床以下という小規模の施設の中で一般病床と療養病床の区別を行い、その上で療養病床の中の区分を行うことは、運用面から見ると必ずしも効率的ではない。また、もともと療養病床の入院料が一般病床のそれより高く設定されていたため、療養病床に患者を入院させる経済的なインセンティブが強かった。そのため、一般病床と療養病床の区別が曖昧なケースもある。

平成17年の日医総研の調査では、療養病床の入院患者の6割が慢性期であったが、急性期や亜急性期の患者も含んでいた⁷。療養病床についてのみ看護職配置基準が設置されていることも、一般病床と療養病床の運営面での非効率を生み出してきた。これらを一体化したうえで、患者のニーズに応じて、急性期、亜急性期、慢性期などの分類を診療報酬上で行うことが一案である。診療所病床という枠の中でより柔軟な運営を行い、効率性を高めることが目標である。

次に、医療保険と介護保険の適用を、病室単位でなく患者単位にすることの検討である。現在、有床診療所にはいわゆる「2室8床ルール」があり、事前に届出をしておけば2室8床まで医療保険からの給付を受けることができる。つまり、既存ルールにおいても介護療養病床に医療保険を適用するという、病床の柔軟な利用が可能である。この考え方を拡大して、患者単位に保険を選択適用することが一案である。患者やその家族への負担減、有床診療所という小規模医療機関の運営向上、さらには、医療資源の効率的な活用という3つの観点から、大きなメリットがあると考えられる。

⁷ 病床すべてが療養病床の施設（n=49）について患者の内訳を見ると、平均で慢性期61.0%、急性期+亜急性期が19.8%であった。

まとめ

今回のレセプト調査からも明らかになったように、改定により有床診療所は厳しい経営を強いられている。特に、病院からの受け皿となっている療養病床を主とする診療所や、長期入院患者が多い内科、外科が大きな影響を受けている。有床診療所の地域の中での役割を理解した上で、その病床が有効に活用される環境を整えるべきである。

近接性という病院に対する優位性と、24時間体制を確保できるという無床診療所に対する優位性の両方を生かし、連続性のあるケアを居住地の身近で提供できることは、住民へ大きな安心感を与え、地域住民へのメリットは多大である。これらの機能を今後も発揮するには、財政的基盤が適切に整備されることが条件となるであろう。

4. 回答施設属性

図 4-1 地域別 (n=1,059)

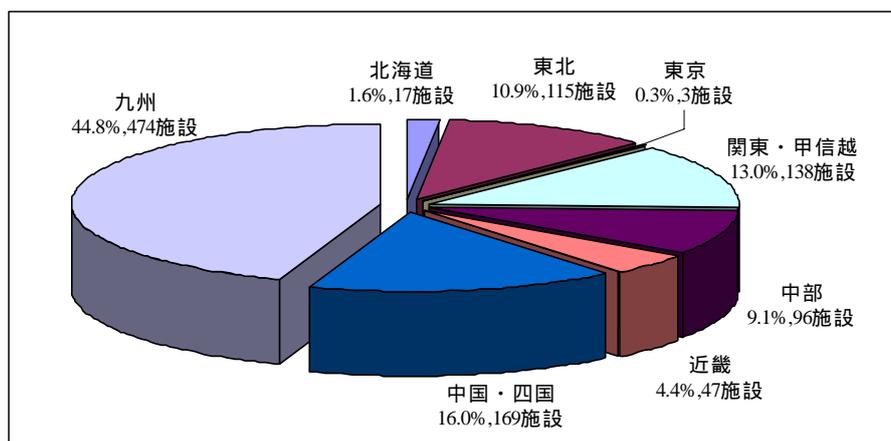


表 4-1 診療科別

診療科	施設数	構成比
内科	379	35.8%
小児科	14	1.3%
皮膚科	3	0.3%
外科	189	17.8%
整形外科	151	14.3%
脳神経外科	23	2.2%
精神科・神経科	6	0.6%
産科・婦人科	167	15.8%
眼科	60	5.7%
耳鼻咽喉科	8	0.8%
泌尿器科	32	3.0%
リハビリテーション科	1	0.1%
その他	26	2.5%

図 4-2 開設者別 (n=1,049)

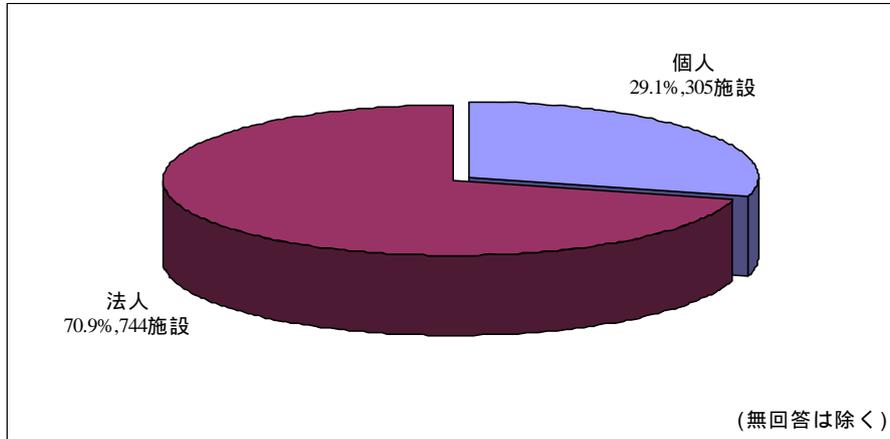


図 4-3 病床数別 (n=1059 平均:16.1 床)

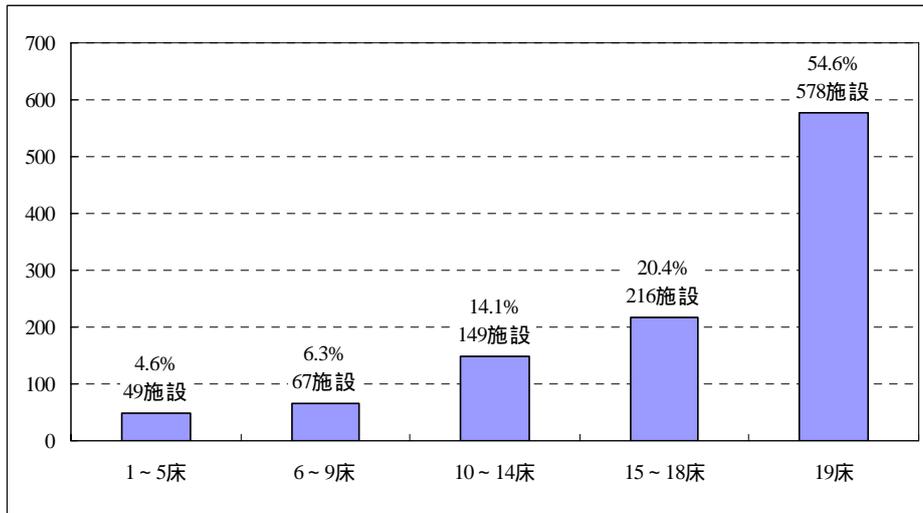


図 4-4 開業年数別 (n=1,035 平均:26.1 年)

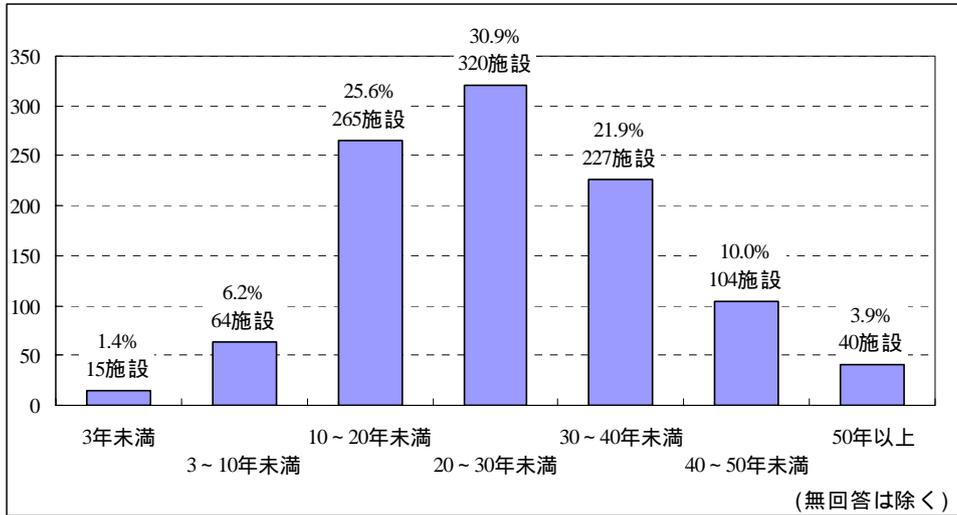


図 4-5 院長(理事長)の年齢別 (n=1,051 平均:63.1 歳)

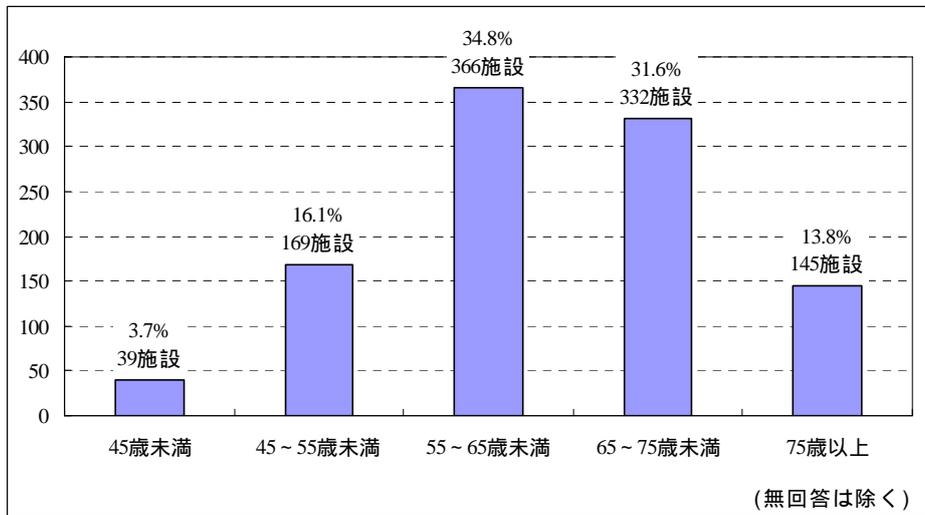


図 4-6 主要病床別 (n=1,015)

(療養病床が60%以上であれば療養病床、60%未満であれば一般病床)

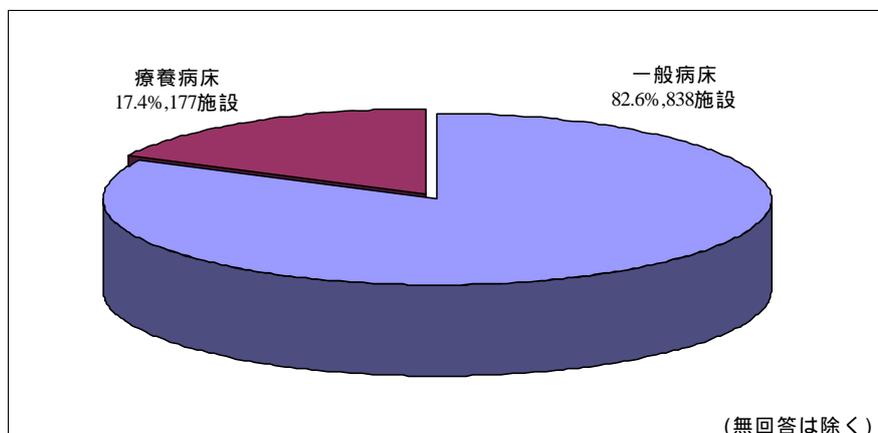


図 4-7 救急告示の有無(n=1,043)

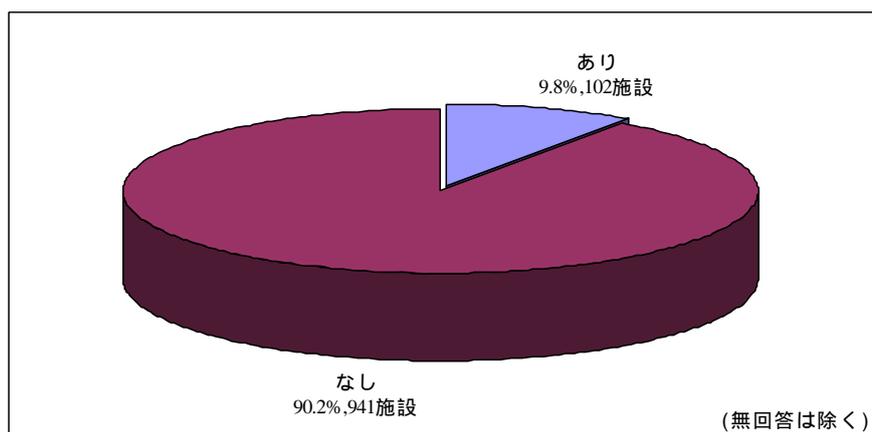


図 4-8 「在宅療養支援診療所」の届出 (n=1,041)

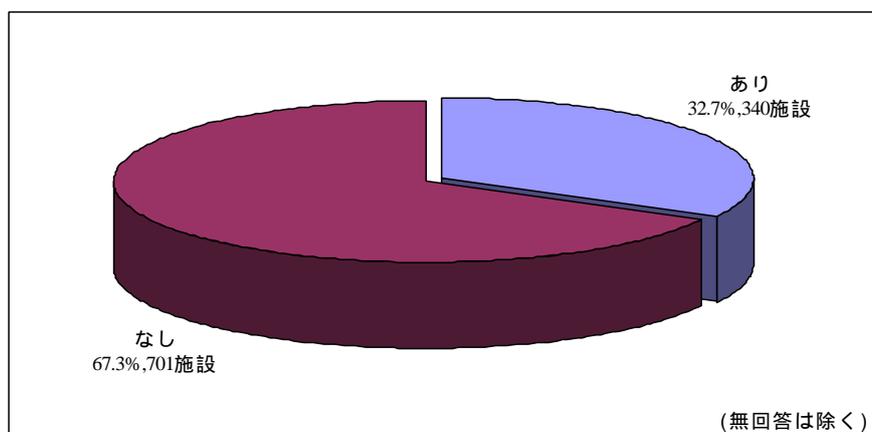


図 4-9 「在宅療養支援診療所」の算定状況(n=291)

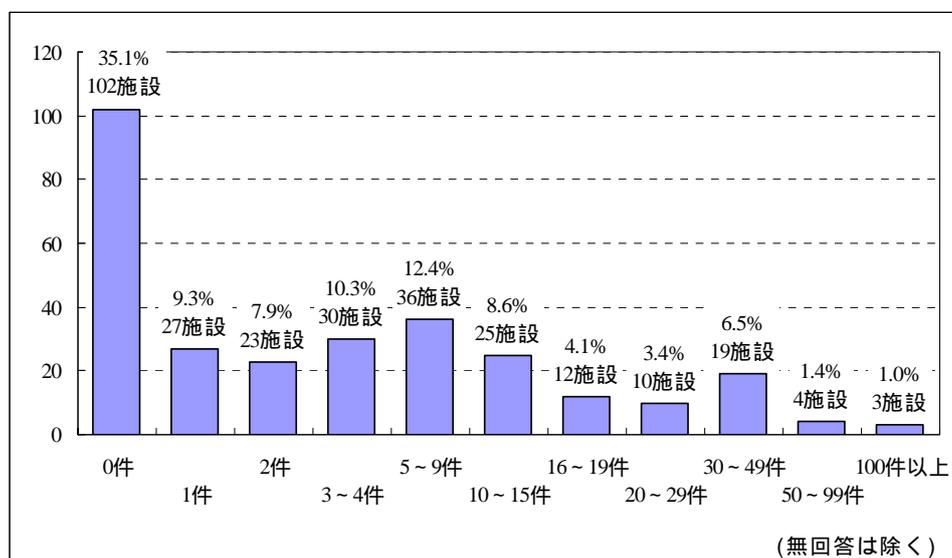
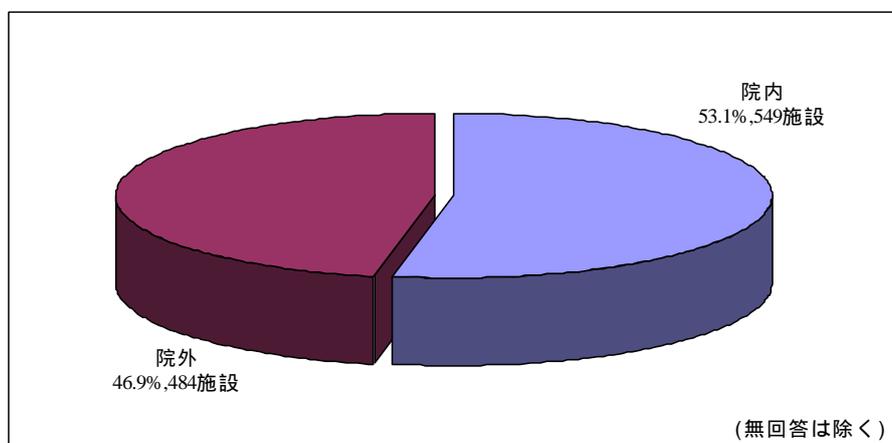


図 4-10 外来の院内・院外処方方の別(n=1,033)



< 医師・看護職 >

図 4-11 常勤医師の数 (n=1,054 平均:1.4 人)

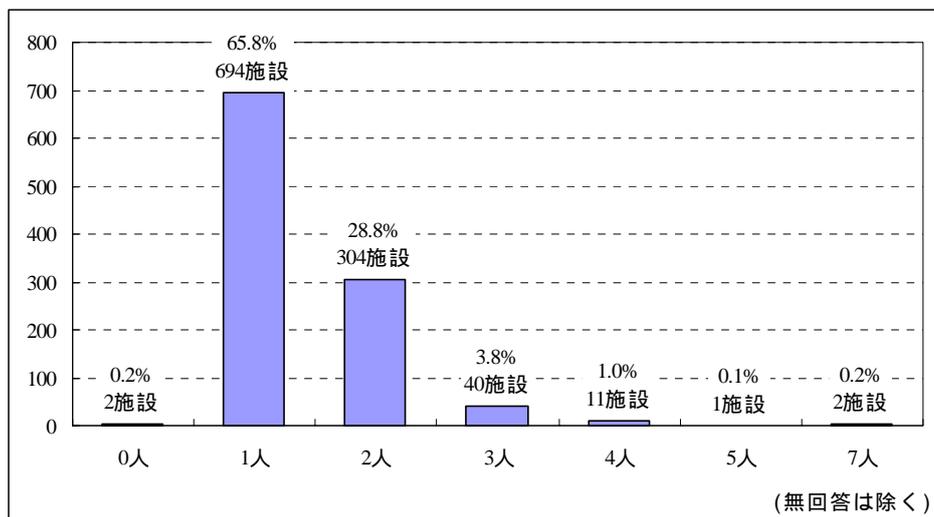


図 4-12 非常勤医師の数 (n=1,032 平均 1.0 人)

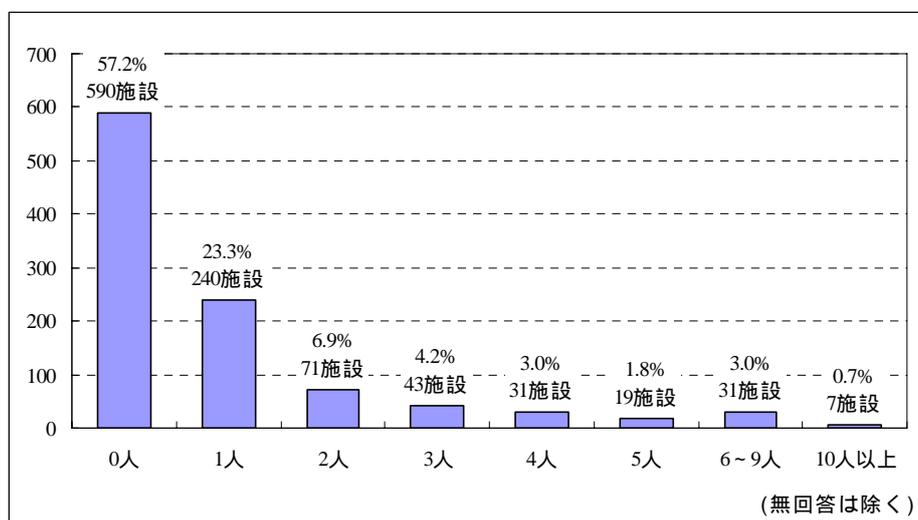


図 4-13 常勤看護師の数 (n=1,032 平均:2.4人)

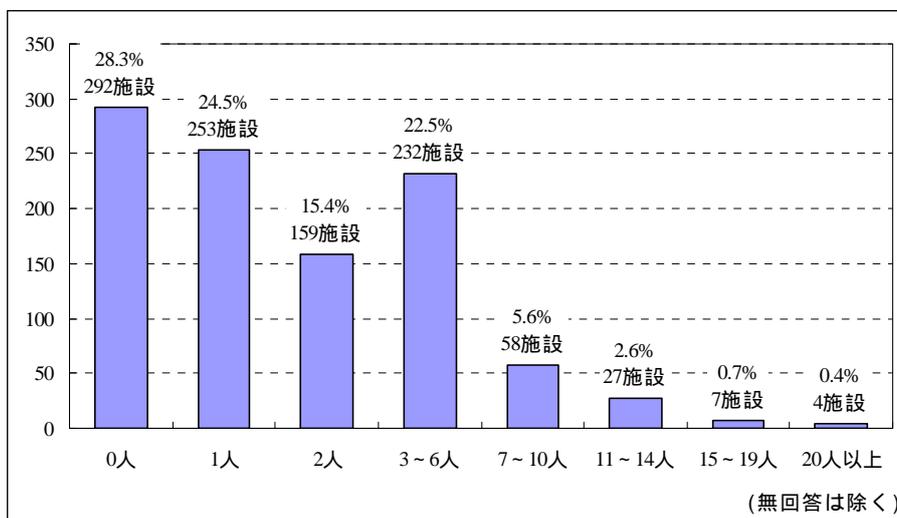


図 4-14 常勤准看護師の数 (n=1,038 平均 5.1人)

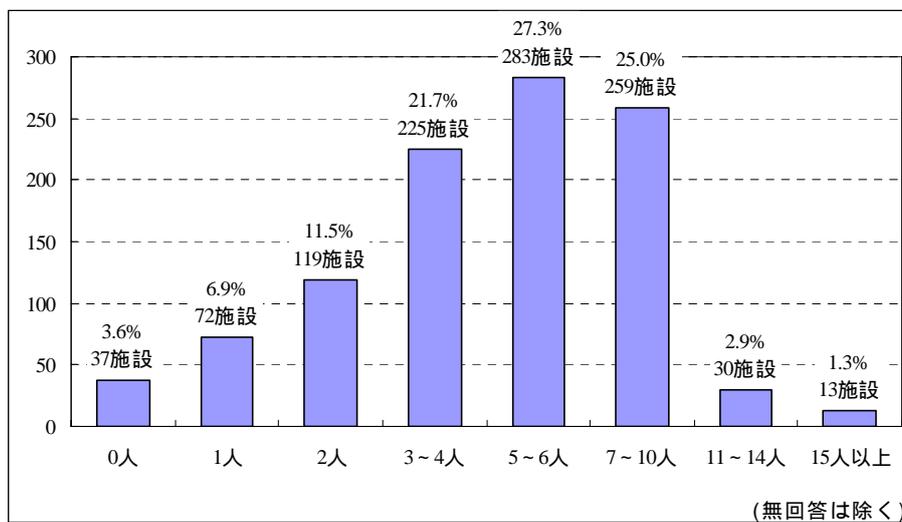


図 4-15 非常勤看護師の数 (n=1,025 平均:0.7 人)

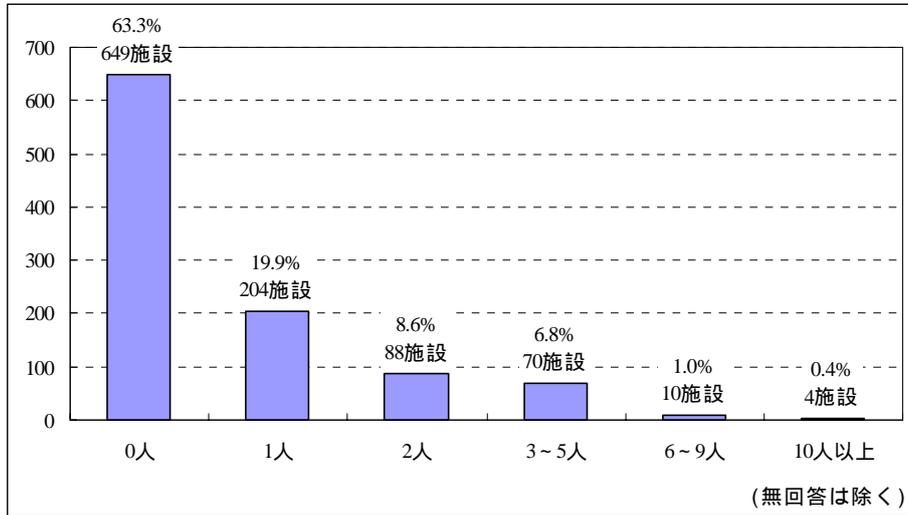
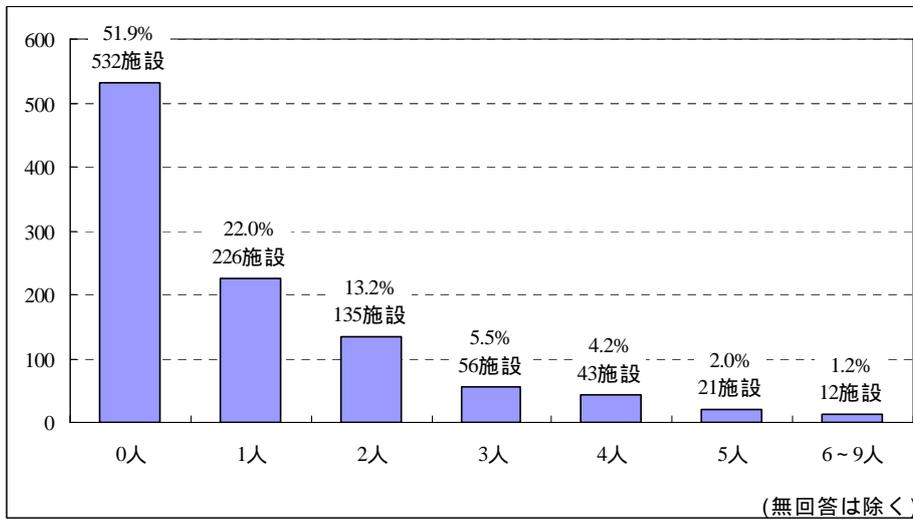


図 4-16 非常勤准看護師の数 (n=1,025 平均:1.0 人)



5. 参考資料

(1) 概算医療費データベース（メディアス）との比較

厚生労働省 概算医療費データベース

表 5-1 主要 3 指標 総医療費

	総点数		総件数		総日数	
	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率
入院	-0.6%	-2.8%	-2.3%	-1.3%	-3.7%	-4.8%
外来	-1.5%	-5.8%	-2.1%	-4.3%	-4.4%	-6.8%
入院+外来	-1.3%	-5.2%	-2.1%	-4.3%	-4.4%	-6.6%

表 5-2 主要 3 指標

	1件当たり点数		1件当たり日数		1日当たり点数	
	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率
入院	1.8%	-1.5%	-1.4%	-3.6%	3.3%	2.1%
外来	0.6%	-1.5%	-2.4%	-2.6%	3.0%	1.1%
入院+外来	0.8%	-1.0%	-2.3%	-2.4%	3.2%	1.5%

本調査(定点調査)

表 5-3 主要 3 要素 定点

	n数	総点数		総件数		総日数	
		2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率
入院	579	-0.1%	-3.1%	-1.9%	-0.7%	-2.1%	-2.9%
外来	601	1.3%	-2.1%	0.8%	0.4%	-1.5%	-1.9%
入院+外来		1.0%	-2.3%	0.7%	0.3%	-1.6%	-2.0%

表 5-4 主要 3 指標

	n数	1件当たり点数		1件当たり日数		1日当たり点数	
		2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率	2005年度 対前年伸び率	2006年度 対前年伸び率
入院	579	1.9%	-2.4%	-0.1%	-2.2%	2.1%	-0.2%
外来	601	0.5%	-2.4%	-2.3%	-2.3%	2.8%	-0.2%
入院+外来		0.3%	-2.7%	-2.3%	-2.4%	2.6%	-0.3%

(2) 移動年計（外来：全体）

年計外来点数は、2006年1月を境に、2つの時期に区分できる。前半はほぼ右肩上がりの傾向を示し、後半は一転して右肩下がりとなった。後半の下降期は、診療報酬マイナス改定の時期とほぼ一致する。2006年3月末では対前年比+1.3%の伸びを示していたものが、2007年3月末時点での対前年比は一転して2.1%の減である。

次に、外来延べ患者数を示す年計外来日数は、2005年11月までは横這いの傾向が続き、それ以降は、ほぼ一貫した減少傾向にある。2007年3月末時点では、対前年比1.9%の減少であった。

さらに、外来実患者数に相当する年計外来件数は、2006年1月を境にそれまでの右肩上がりの傾向が減少に転じた。その後2006年4月の診療報酬改定と時期を同じくして再び上昇に転じたものの、2007年1月には一度減少し、3月に再度持ち直した。この上下動は、特定の疾患(例えばインフルエンザ)の流行に影響していると考えられ、外来件数は緩やかな上昇傾向にあると思われる。2007年3月末の対前年比は+0.4%である。

図 5-1 年計外来点数

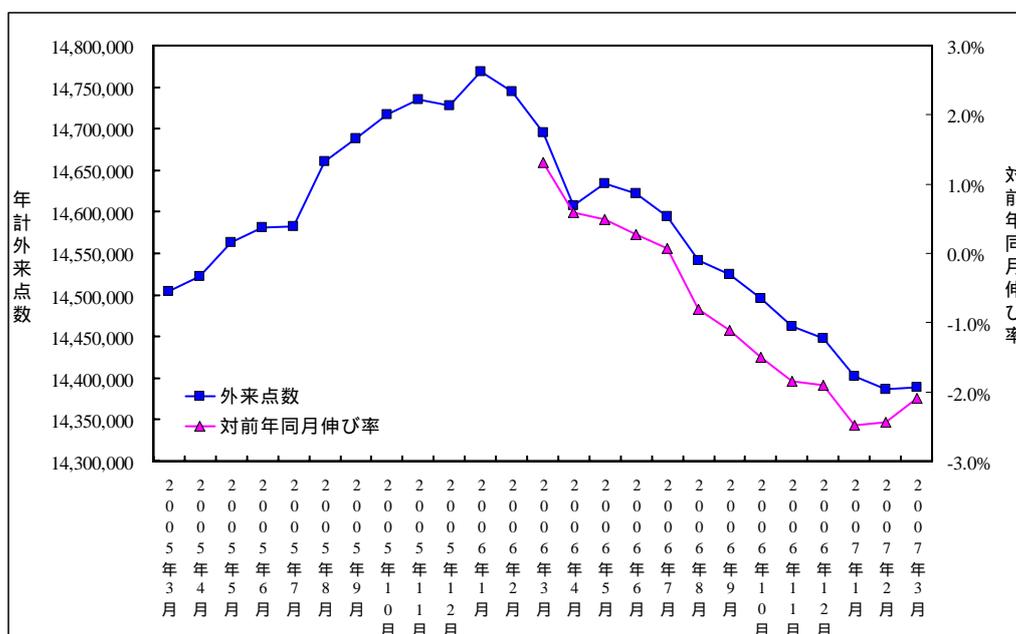


図 5-2 年計外来日数

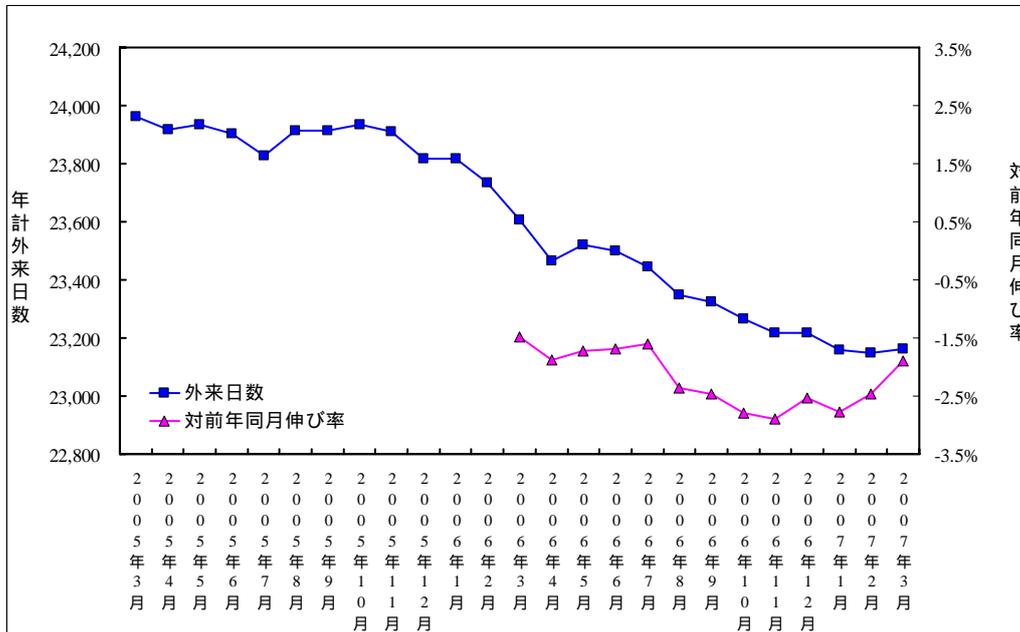
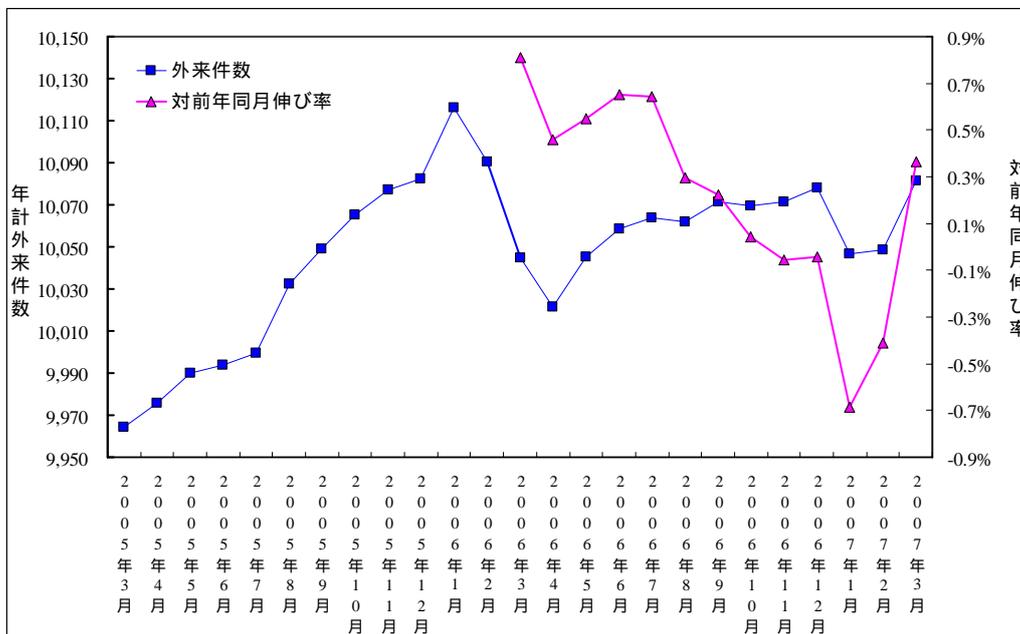


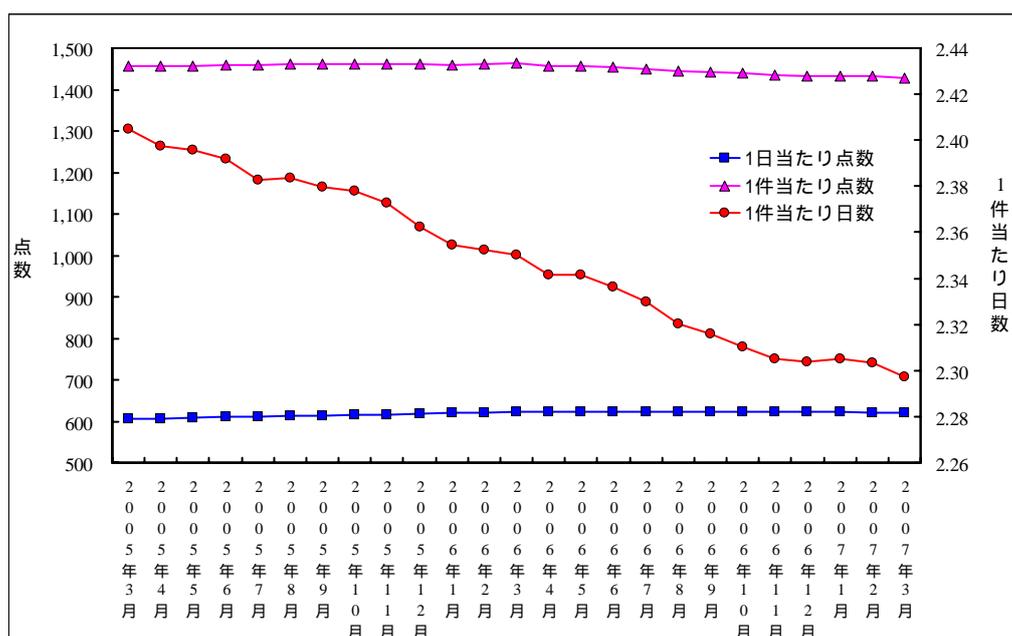
図 5-3 年計外来件数



1件当たり日数は、ほぼ一貫して右肩下がりの傾向にある。調査開始の2005年3月と2007年3月とを比較すると、2.40日 2.30日となっており、調査期間中で4.2%の減少となった。年計外来件数が2006年4月を境に一定期間上昇傾向に転じたものの、年計外来日数の減少傾向を食い止めるに至らなかったのは、1件当たり日数の一貫した減少傾向に原因している。

単価の面を見てみると、1日当たり点数は、2005年3月から2006年11月までの緩やかな上昇傾向（605点 623点）とそれ以降の横這いから微減の傾向（622点 621点）が見てとれる。一方、1件当たり点数は、2006年3月を境に、2つの時期に区分できる。前半の緩やかな右肩上がり傾向と後半の急激な減少傾向である。2006年3月時点の対前年比が+2.8%だったのに対し、2007年3月時点での対前年比は0.2%となっており、その差は如実である。

図 5-4 外来主要3指標



分析を通じてこの一年の外来について考察すると、実患者数に相当する件数は微増しているものの、1件当たり日数の減少傾向を止めることができず、延べ患者数に当たる年計日数の減少につながった。さらに診療報酬マイナス改定に伴う単価面での苦戦の影響が加わり、点数が増加傾向からマイナスに転じたといった状況である。

(3) 移動年計（入院 + 外来：全体）

全有床診療所の入院と外来の合計年計点数は、2006年1月を境にして2つの時期に大別できる。前半はほぼ一貫して右肩上がりで推移し、後半は逆にほぼ一貫して右肩下がりに展開している。後半は、診療報酬マイナス改定の時期とほぼ重なり、2007年3月末時点での対前年比は 2.3%に達している。

患者数の面では、年計日数がほぼ一貫して減少傾向にあることが観察され、前半より後半の方の減少が急になっている。2007年3月末時点での減少率は、対前年比 2.0%である。年計件数は、前半は一貫して上昇傾向にあったが、後半は長い横這い傾向を挟んで、上下動の激しい展開となっている。2007年3月末時点での対前年比は、+0.3%となっている。

図 5-5 年計点数(入院 + 外来)

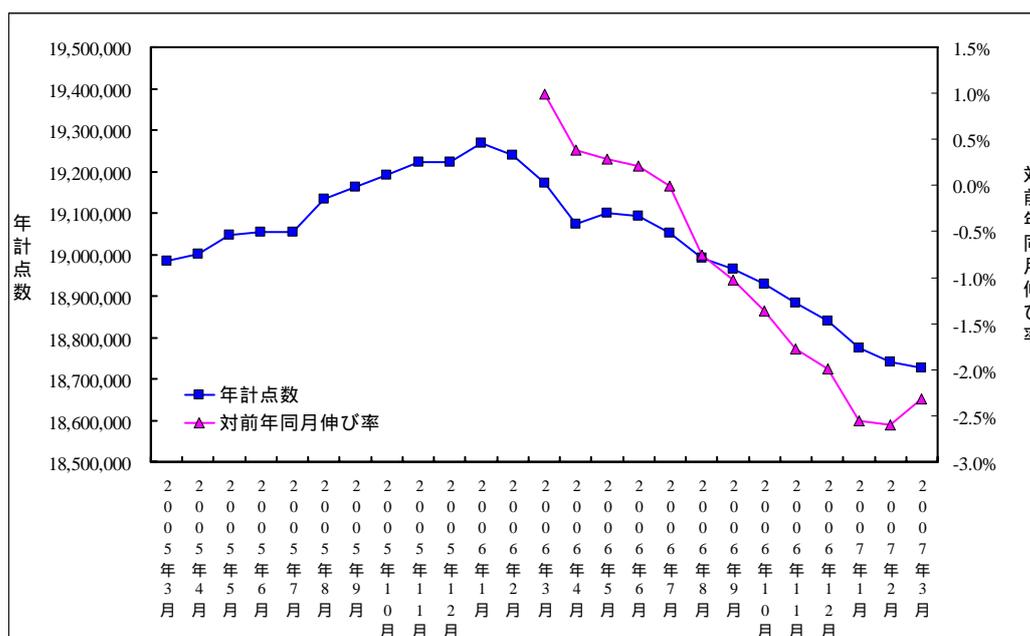


図 5-6 年計日数(入院 + 外来)

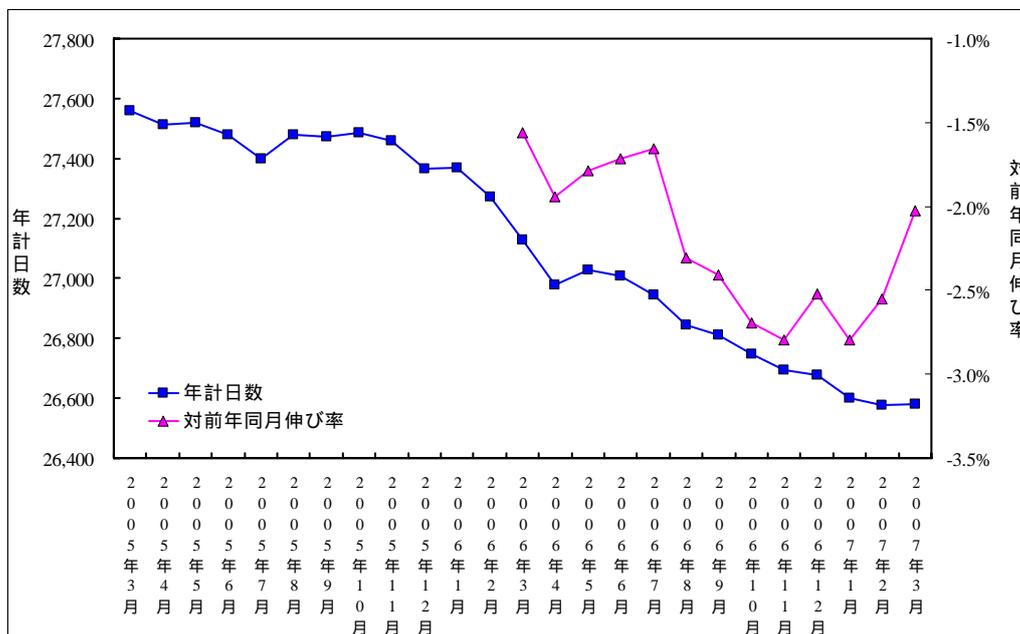
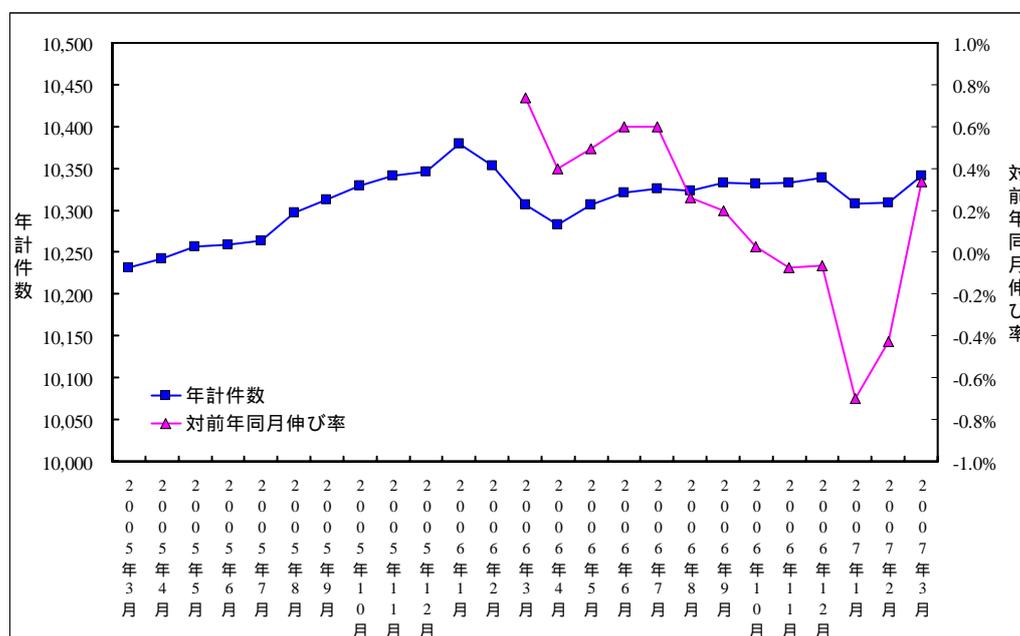


図 5-7 年計件数(入院 + 外来)



1 件当たり日数は、ほぼ一貫して減少しているのが分かる。2007 年 3 月時点での対前年比は 0.06 日で、これが点数に与えた影響は 2.4%であった。単価の面では、2006 年 3 月を境に 2 つの時期に大別できる。1 日当たり点数は、前半はほぼ一貫して上昇傾向にあるが、後半は横這いに転じた。2007 年 3 月時点での対前年比は 2 点(0.3%)であった。

1 件当たり点数は、2006 年 3 月までは何とか横ばい傾向を維持してきたが、診療報酬改定でバランスを崩して一気に下降に転じ、いまだにその勢いは止まっていない。2007 年 3 月時点での対前年比は 49 点(2.7%)であった。このように 1 日当たり点数と 1 件当たり点数は全く逆の動きとなった。

図 5-8 1 件当たり日数(入院 + 外来)

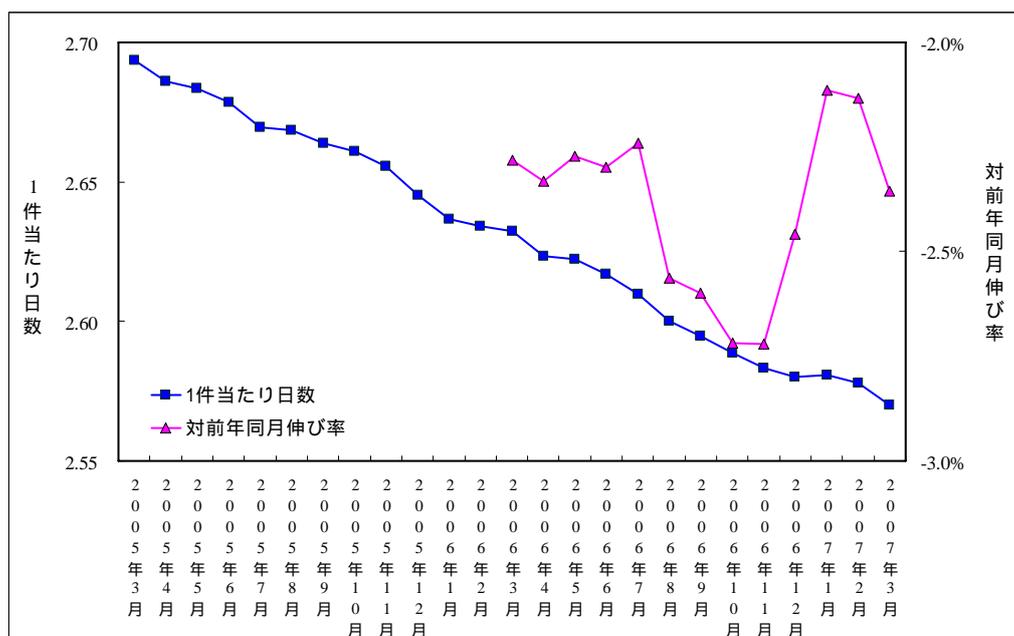


図 5-9 1 件当たり点数(入院 + 外来)

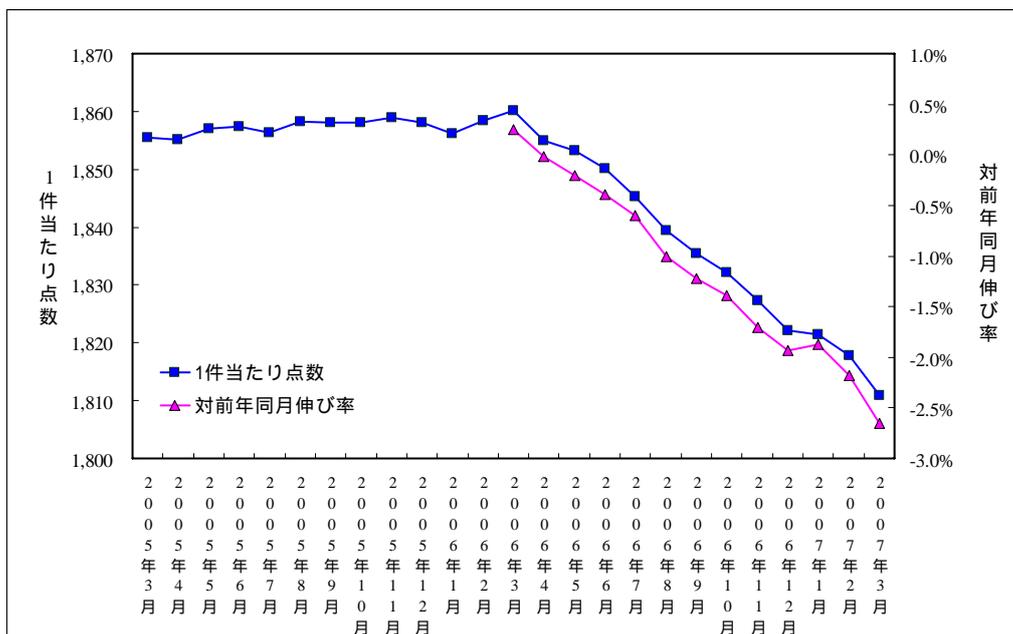
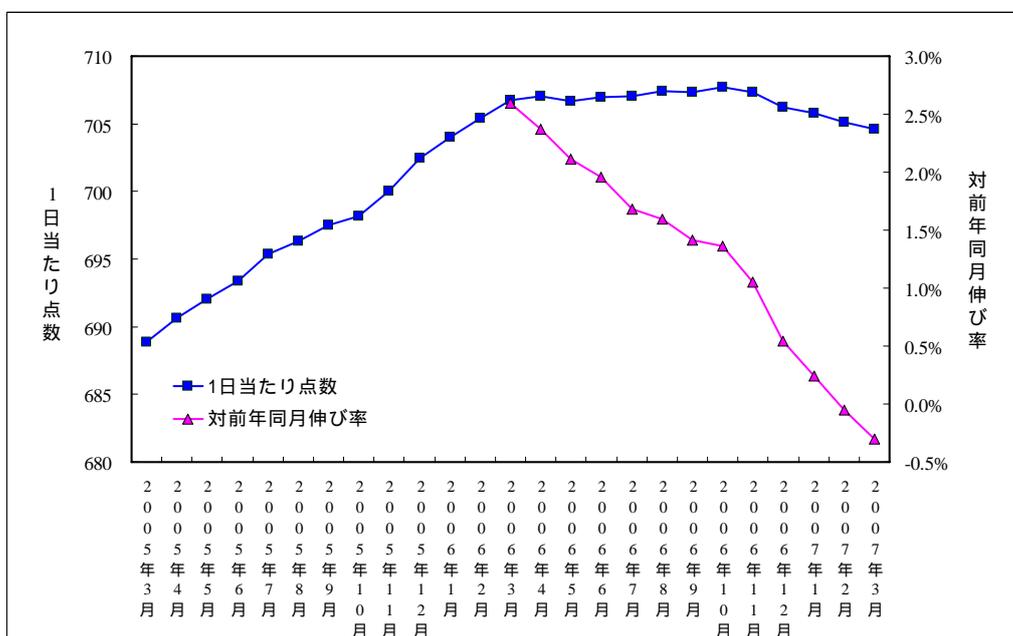


図 5-10 1 日当たり点数(入院 + 外来)



入院と外来の合計で見ると、実患者数は横這いであるが、1件当たり日数が減少しているため、延べ患者数に相当な減少が見られる。1日当たり点数は、全体で見ると、ほぼ横這いであるが、こちらも1件当たり日数の減少が影響し、1件当たり点数の減少が大きい。患者面、単価面とも1件当たり日数の減少が悪影響を及ぼし、その結果、総点数のマイナスを招いたというのが2007年3月末の現状である。

なお、入院・外来のシェアを見ると、日数、点数ともほとんど前年と同じである。日数シェアは入院が12.9%(対前年比-0.1ポイント)、外来が87.1%(対前年比+0.1ポイント)、点数シェアは入院が23.2%(対前年比-0.2ポイント)、外来が76.8%(対前年比+0.2ポイント)であった。今回の調査結果で見ると、外来シフトが進んでいるわけではない。

(4) 前年度比較(実数)

表 5-5 全体:主要3要素

	n数	総点数			総件数			総日数		
		2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度
入院	579	2,692,035,949	2,690,650,081	2,607,241,005	160,491	157,381	156,260	2,160,729	2,115,863	2,054,478
外来	601	8,717,329,750	8,832,114,035	8,647,979,103	5,988,437	6,036,936	6,059,008	14,402,167	14,188,686	13,919,681
入院+外来		11,409,365,699	11,522,764,116	11,255,220,108	6,148,928	6,194,317	6,215,268	16,562,896	16,304,549	15,974,159

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみの集計とした。

表 5-6 全体:主要3指標

	n数	1件当たり点数			1件当たり日数			1日当たり点数		
		2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度
入院	579	16,774	17,096	16,685	13.5	13.4	13.1	1,246	1,272	1,269
外来	601	1,456	1,463	1,427	2.4	2.4	2.3	605	622	621
入院+外来		1,856	1,860	1,811	2.7	2.6	2.6	689	707	705

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみの集計とした。

表 5-7 地域別:主要3要素

	n数	総点数			総件数			総日数			
		2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	
北海道	入院	10	62,376,797	67,823,020	71,266,729	3,117	3,202	3,325	47,591	49,212	47,287
	外来	10	158,789,811	169,172,205	169,251,868	102,224	106,778	110,803	220,655	227,799	232,401
東北	入院	74	377,278,783	377,217,244	367,287,860	19,844	19,386	19,027	260,585	245,571	239,239
	外来	75	1,331,086,815	1,362,518,134	1,334,606,686	912,402	923,212	933,540	2,079,539	2,060,055	2,040,498
関東・甲信越・東京	入院	69	373,011,356	368,208,373	380,121,862	25,139	24,711	25,403	205,643	200,353	201,268
	外来	72	1,252,233,855	1,275,432,875	1,273,077,907	799,217	814,400	827,276	1,639,358	1,647,193	1,637,369
中部	入院	59	332,325,901	343,136,026	325,137,502	19,413	18,824	18,078	232,751	227,904	210,588
	外来	63	1,076,643,229	1,093,098,252	1,058,796,345	671,880	671,858	670,682	1,537,845	1,503,964	1,473,505
近畿	入院	17	73,197,058	74,228,263	75,043,501	3,625	3,368	3,227	54,788	50,346	50,097
	外来	19	256,540,737	261,414,506	253,823,758	174,416	175,545	173,906	493,159	478,143	474,179
中国・四国	入院	92	419,389,115	414,923,304	388,935,197	24,294	23,920	23,611	360,481	354,179	345,383
	外来	95	1,346,141,053	1,369,468,456	1,322,555,874	963,226	976,116	969,573	2,458,994	2,438,333	2,364,414
九州	入院	258	1,054,456,939	1,045,113,851	999,448,354	65,059	63,970	63,589	998,890	988,298	960,616
	外来	267	3,295,894,250	3,301,009,607	3,235,866,665	2,365,072	2,369,027	2,373,228	5,972,617	5,833,199	5,697,315

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみの集計とした。
 回答施設数が3未満の東京ブロックは、関東・甲信越に含めた。

表 5-8 地域別:主要3指標

	n数	1件当たり点数			1件当たり日数			1日当たり点数			
		2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	
北海道	入院	10	20,012	21,181	21,434	15.3	15.4	14.2	1,311	1,378	1,507
	外来	10	1,553	1,584	1,528	2.2	2.1	2.1	720	743	728
東北	入院	74	19,012	19,458	19,304	13.1	12.7	12.6	1,448	1,536	1,535
	外来	75	1,459	1,476	1,430	2.3	2.2	2.2	640	661	654
関東・甲信越・東京	入院	69	14,838	14,901	14,964	8.2	8.1	7.9	1,814	1,838	1,889
	外来	72	1,567	1,566	1,539	2.1	2.0	2.0	764	774	778
中部	入院	59	17,119	18,229	17,985	12.0	12.1	11.6	1,428	1,506	1,544
	外来	63	1,602	1,627	1,579	2.3	2.2	2.2	700	727	719
近畿	入院	17	20,192	22,039	23,255	15.1	14.9	15.5	1,336	1,474	1,498
	外来	19	1,471	1,489	1,460	2.8	2.7	2.7	520	547	535
中国・四国	入院	92	17,263	17,346	16,473	14.8	14.8	14.6	1,163	1,172	1,126
	外来	95	1,398	1,403	1,364	2.6	2.5	2.4	547	562	559
九州	入院	258	16,208	16,338	15,717	15.4	15.4	15.1	1,056	1,057	1,040
	外来	267	1,394	1,393	1,363	2.5	2.5	2.4	552	566	568

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみの集計とした。
 回答施設数が3未満の東京ブロックは、関東・甲信越に含めた。

表 5-9 年齢別:主要3要素

		n数	総点数			総件数			総日数		
			2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度
～45歳未満	入院	27	105,056,649	108,921,689	101,727,329	5,762	5,989	5,787	80,796	81,975	75,905
	外来	28	291,876,393	305,964,564	293,720,524	211,916	219,201	224,725	492,292	490,914	483,922
45～55歳未満	入院	99	522,643,772	535,331,711	517,788,435	30,374	29,693	29,351	371,480	365,439	358,310
	外来	100	1,481,455,652	1,525,965,744	1,486,924,689	1,101,584	1,126,880	1,137,081	2,522,419	2,502,364	2,447,943
55～65歳未満	入院	220	1,107,375,651	1,099,314,573	1,069,394,089	66,615	65,332	64,668	859,833	836,134	813,892
	外来	223	3,791,989,730	3,834,582,853	3,787,135,545	2,642,852	2,661,774	2,670,562	6,143,590	6,080,935	5,978,090
65～75歳未満	入院	173	754,859,329	747,155,834	724,699,159	44,899	43,616	43,325	663,230	647,019	625,235
	外来	182	2,494,147,604	2,508,162,212	2,444,456,501	1,550,184	1,547,694	1,543,283	4,063,402	3,971,409	3,901,555
75歳以上	入院	58	195,033,936	192,241,085	186,906,533	12,175	12,053	12,440	178,543	177,908	174,155
	外来	65	638,372,259	636,621,326	616,033,181	462,409	459,812	460,378	1,141,215	1,101,490	1,066,432

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみの集計とした。

表 5-10 年齢別:主要3指標

		n数	1件当たり点数			1件当たり日数			1日当たり点数		
			2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度
～45歳未満	入院	27	18,233	18,187	17,579	14.0	13.7	13.1	1,300	1,329	1,340
	外来	28	1,377	1,396	1,307	2.3	2.2	2.2	593	623	607
45～55歳未満	入院	99	17,207	18,029	17,641	12.2	12.3	12.2	1,407	1,465	1,445
	外来	100	1,345	1,354	1,308	2.3	2.2	2.2	587	610	607
55～65歳未満	入院	220	16,624	16,827	16,537	12.9	12.8	12.6	1,288	1,315	1,314
	外来	223	1,435	1,441	1,418	2.3	2.3	2.2	617	631	634
65～75歳未満	入院	173	16,812	17,130	16,727	14.8	14.8	14.4	1,138	1,155	1,159
	外来	182	1,609	1,621	1,584	2.6	2.6	2.5	614	632	627
75歳以上	入院	58	16,019	15,950	15,025	14.7	14.8	14.0	1,092	1,081	1,073
	外来	65	1,381	1,385	1,338	2.5	2.4	2.3	559	578	578

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみの集計とした。

表 5-11 開業年数別:主要 3 要素

	n数	総点数			総件数			総日数			
		2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	
3年未満	入院	4	13,902,587	12,554,259	10,656,673	919	993	883	13,166	12,597	10,927
	外来	4	44,398,122	44,122,536	42,802,954	40,799	39,700	39,782	106,019	98,294	95,425
3年以上 10年未満	入院	43	248,671,104	250,387,222	253,208,777	14,710	14,722	14,683	159,609	158,312	155,245
	外来	43	676,684,001	728,688,419	753,912,019	404,067	428,466	449,686	893,104	918,885	924,785
10年以上 20年未満	入院	157	889,744,643	898,932,601	878,698,602	49,448	48,386	47,895	605,710	592,910	582,876
	外来	158	2,733,024,936	2,744,758,470	2,673,254,472	1,945,090	1,952,204	1,950,776	4,486,375	4,422,997	4,339,125
20年以上 30年未満	入院	187	800,570,450	792,145,712	758,738,257	49,623	48,135	47,750	703,672	681,219	660,680
	外来	194	2,796,979,048	2,819,788,487	2,725,112,862	1,955,751	1,956,057	1,948,069	4,554,964	4,471,952	4,369,776
30年以上 40年未満	入院	116	467,340,589	468,011,921	450,238,010	27,063	26,554	26,602	450,520	446,645	430,459
	外来	128	1,518,414,632	1,528,874,543	1,517,572,227	972,650	973,011	979,983	2,821,562	2,747,973	2,700,192
40年以上 50年未満	入院	47	183,682,888	178,675,757	166,508,928	10,629	10,333	9,932	154,471	149,802	141,353
	外来	47	586,087,654	601,604,818	579,293,911	417,161	425,429	424,853	988,907	968,212	940,872
50年以上	入院	18	49,932,518	52,368,419	51,861,193	4,961	5,146	5,404	45,697	47,465	46,810
	外来	19	178,687,762	182,042,952	176,969,149	162,823	167,904	167,670	341,986	346,255	336,477

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数 > 0の施設のみを集計とした。

表 5-12 開業年数別:主要3指標

		n数	1件当たり点数			1件当たり日数			1日当たり点数		
			2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度
3年未満	入院	4	15,128	12,643	12,069	14.3	12.7	12.4	1,056	997	975
	外来	4	1,088	1,111	1,076	2.6	2.5	2.4	419	449	449
3年以上 10年未満	入院	43	16,905	17,008	17,245	10.9	10.8	10.6	1,558	1,582	1,631
	外来	43	1,675	1,701	1,677	2.2	2.1	2.1	758	793	815
10年以上 20年未満	入院	157	17,994	18,578	18,346	12.2	12.3	12.2	1,469	1,516	1,508
	外来	158	1,405	1,406	1,370	2.3	2.3	2.2	609	621	616
20年以上 30年未満	入院	187	16,133	16,457	15,890	14.2	14.2	13.8	1,138	1,163	1,148
	外来	194	1,430	1,442	1,399	2.3	2.3	2.2	614	631	624
30年以上 40年未満	入院	116	17,269	17,625	16,925	16.6	16.8	16.2	1,037	1,048	1,046
	外来	128	1,561	1,571	1,549	2.9	2.8	2.8	538	556	562
40年以上 50年未満	入院	47	17,281	17,292	16,765	14.5	14.5	14.2	1,189	1,193	1,178
	外来	47	1,405	1,414	1,364	2.4	2.3	2.2	593	621	616
50年以上	入院	18	10,065	10,177	9,597	9.2	9.2	8.7	1,093	1,103	1,108
	外来	19	1,097	1,084	1,055	2.1	2.1	2.0	523	526	526

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のための集計とした。

表 5-13 開設者別:主要3要素

	n数	総点数			総件数			総日数			
		2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	
個人	入院	157	584,554,665	577,634,502	540,942,949	36,469	35,135	34,397	531,457	521,054	502,960
	外来	168	1,824,534,329	1,832,258,414	1,760,261,547	1,340,243	1,343,155	1,339,879	3,149,653	3,072,918	2,985,805
法人その他	入院	418	2,080,422,270	2,085,184,077	2,039,079,120	122,612	120,828	120,437	1,605,617	1,571,254	1,528,960
	外来	429	6,799,543,782	6,903,810,645	6,791,578,838	4,602,507	4,649,124	4,674,078	11,126,420	10,991,378	10,807,548

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数 > 0の施設のみの集計とした。

表 5-14 開設者別:主要3指標

	n数	1件当たり点数			1件当たり日数			1日当たり点数			
		2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	
個人	入院	157	16,029	16,440	15,726	14.6	14.8	14.6	1,100	1,109	1,076
	外来	168	1,361	1,364	1,314	2.4	2.3	2.2	579	596	590
法人その他	入院	418	16,968	17,257	16,931	13.1	13.0	12.7	1,296	1,327	1,334
	外来	429	1,477	1,485	1,453	2.4	2.4	2.3	611	628	628

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数 > 0の施設のみの集計とした。

表 5-15 主たる病床別:主要3要素

	n数	総点数			総件数			総日数			
		2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	
一般	入院	470	2,317,798,825	2,314,523,571	2,274,750,698	140,736	138,237	137,588	1,755,651	1,715,621	1,674,282
	外来	482	7,370,691,724	7,466,161,282	7,314,765,277	5,061,833	5,107,885	5,129,874	12,083,046	11,905,338	11,690,670
療養	入院	99	349,569,902	351,630,269	306,608,255	17,991	17,722	17,145	388,176	386,538	366,264
	外来	101	1,090,234,165	1,085,271,956	1,051,009,651	811,915	808,743	803,787	2,043,800	1,991,709	1,922,692

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみの集計とした。

表 5-16 主たる病床別:主要3指標

	n数	1件当たり点数			1件当たり日数			1日当たり点数			
		2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	
一般	入院	470	16,469	16,743	16,533	12.5	12.4	12.2	1,320	1,349	1,359
	外来	482	1,456	1,462	1,426	2.4	2.3	2.3	610	627	626
療養	入院	99	19,430	19,841	17,883	21.6	21.8	21.4	901	910	837
	外来	101	1,343	1,342	1,308	2.5	2.5	2.4	533	545	547

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみの集計とした。

表 5-17 病床数別:主要 3 要素

		n数	総点数			総件数			総日数		
			2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度
1～5床	入院	18	18,703,824	18,374,376	17,417,948	1,193	1,200	1,152	3,569	3,320	2,808
	外来	20	287,327,415	291,421,401	289,083,368	237,683	238,618	236,544	368,876	362,563	358,493
6～9床	入院	19	43,803,841	42,835,548	39,714,688	3,286	3,123	2,941	19,554	18,485	17,615
	外来	21	233,135,438	238,742,308	232,165,476	254,729	256,433	254,322	419,382	413,199	406,728
10～14床	入院	65	170,980,578	157,583,029	153,794,625	13,688	13,032	13,090	105,277	97,355	91,050
	外来	71	845,431,381	860,097,917	842,675,798	628,696	634,693	629,944	1,304,964	1,285,426	1,241,758
15～18床	入院	110	365,030,485	369,237,572	347,359,366	27,504	27,521	27,508	330,921	332,947	316,988
	外来	116	1,407,888,961	1,430,849,623	1,394,127,142	1,005,013	1,011,369	1,012,813	2,292,817	2,260,974	2,195,273
19床	入院	367	2,093,517,221	2,102,619,556	2,048,954,378	114,820	112,505	111,569	1,701,408	1,663,756	1,626,017
	外来	373	5,943,546,555	6,011,002,786	5,889,927,319	3,862,316	3,895,823	3,925,385	10,016,128	9,866,524	9,717,429

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみの集計とした。

表 5-18 病床数別:主要 3 指標

		n数	1件当たり点数			1件当たり日数			1日当たり点数		
			2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度
1～5床	入院	18	15,678	15,312	15,120	3.0	2.8	2.4	5,241	5,534	6,203
	外来	20	1,209	1,221	1,222	1.6	1.5	1.5	779	804	806
6～9床	入院	19	13,330	13,716	13,504	6.0	5.9	6.0	2,240	2,317	2,255
	外来	21	915	931	913	1.6	1.6	1.6	556	578	571
10～14床	入院	65	12,491	12,092	11,749	7.7	7.5	7.0	1,624	1,619	1,689
	外来	71	1,345	1,355	1,338	2.1	2.0	2.0	648	669	679
15～18床	入院	110	13,272	13,417	12,628	12.0	12.1	11.5	1,103	1,109	1,096
	外来	116	1,401	1,415	1,376	2.3	2.2	2.2	614	633	635
19床	入院	367	18,233	18,689	18,365	14.8	14.8	14.6	1,230	1,264	1,260
	外来	373	1,539	1,543	1,500	2.6	2.5	2.5	593	609	606

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみの集計とした。

表 5-19 主たる診療科別:主要3要素

		n数	総点数			総件数			総日数		
			2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度
内科	入院	212	834,093,252	828,936,771	770,282,662	47,764	46,548	45,720	854,781	841,217	809,449
	外来	220	3,496,440,680	3,530,276,627	3,419,352,047	2,107,094	2,109,612	2,122,202	4,954,751	4,835,737	4,729,466
小児科	入院	7	21,082,082	21,808,721	21,712,668	2,200	2,150	2,063	19,328	20,415	19,847
	外来	7	99,221,392	95,697,903	91,353,307	92,579	90,893	87,469	207,928	203,064	194,066
外科	入院	95	382,724,857	372,679,477	350,831,910	22,981	22,214	21,897	388,630	375,321	363,572
	外来	103	1,115,265,248	1,108,323,647	1,070,430,754	741,856	739,290	733,497	2,179,495	2,110,334	2,043,025
整形外科	入院	90	548,681,481	562,766,229	558,896,902	24,705	24,566	24,264	438,974	434,092	422,597
	外来	93	1,239,492,068	1,258,105,608	1,247,255,015	948,102	968,539	976,347	3,551,999	3,555,607	3,491,196
脳神経外科	入院	13	134,974,738	133,635,489	129,436,524	5,114	4,895	4,911	75,571	74,447	70,216
	外来	13	247,274,613	252,235,216	252,691,844	167,126	171,810	176,924	327,609	324,790	316,862
産科・婦人科	入院	87	310,540,144	316,716,906	322,466,665	35,009	34,574	35,121	198,193	194,119	193,869
	外来	88	722,717,449	726,009,040	698,701,500	641,492	645,058	647,114	1,132,319	1,119,868	1,107,010
眼科	入院	30	176,236,696	176,760,195	177,725,585	8,149	8,159	7,980	36,835	35,100	34,450
	外来	31	590,191,507	608,704,337	596,674,713	762,850	770,038	760,945	969,216	961,372	944,020
耳鼻咽喉科	入院	4	20,541,404	19,068,269	20,212,835	772	682	704	3,627	3,267	3,323
	外来	4	27,368,540	27,701,393	27,587,178	33,545	35,093	36,472	57,173	58,421	58,344
泌尿器科	入院	22	151,341,553	148,985,190	145,921,683	6,368	6,313	6,428	66,166	63,724	63,078
	外来	22	919,213,507	962,323,850	987,466,498	282,718	289,128	297,036	579,407	587,052	607,264
その他	入院	19	111,819,742	109,292,834	109,753,571	7,429	7,280	7,172	78,624	74,161	74,077
	外来	20	260,144,746	262,736,414	256,466,247	211,075	217,475	221,002	442,270	432,441	428,428
(再掲) 人工透析あり	入院	40	278,441,193	277,057,534	268,254,607	10,622	10,539	10,431	153,413	149,743	144,273
	外来	42	1,881,821,078	1,945,900,613	1,962,423,001	430,146	435,311	440,615	1,094,885	1,106,299	1,132,347

入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみの集計とした。
 回答施設数が3未満の診療科は、その他に含めた。

表 5-20 主たる診療科別:主要3指標

		n数	1件当たり点数			1件当たり日数			1日当たり点数		
			2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度	2004年度	2005年度	2006年度
内科	入院	212	17,463	17,808	16,848	17.9	18.1	17.7	976	985	952
	外来	220	1,659	1,673	1,611	2.4	2.3	2.2	706	730	723
小児科	入院	7	9,583	10,144	10,525	8.8	9.5	9.6	1,091	1,068	1,094
	外来	7	1,072	1,053	1,044	2.2	2.2	2.2	477	471	471
外科	入院	95	16,654	16,777	16,022	16.9	16.9	16.6	985	993	965
	外来	103	1,503	1,499	1,459	2.9	2.9	2.8	512	525	524
整形外科	入院	90	22,209	22,908	23,034	17.8	17.7	17.4	1,250	1,296	1,323
	外来	93	1,307	1,299	1,277	3.7	3.7	3.6	349	354	357
脳神経外科	入院	13	26,393	27,300	26,356	14.8	15.2	14.3	1,786	1,795	1,843
	外来	13	1,480	1,468	1,428	2.0	1.9	1.8	755	777	797
産科・婦人科	入院	87	8,870	9,161	9,182	5.7	5.6	5.5	1,567	1,632	1,663
	外来	88	1,127	1,125	1,080	1.8	1.7	1.7	638	648	631
眼科	入院	30	21,627	21,664	22,271	4.5	4.3	4.3	4,784	5,036	5,159
	外来	31	774	790	784	1.3	1.2	1.2	609	633	632
耳鼻咽喉科	入院	4	26,608	27,959	28,711	4.7	4.8	4.7	5,663	5,837	6,083
	外来	4	816	789	756	1.7	1.7	1.6	479	474	473
泌尿器科	入院	22	23,766	23,600	22,701	10.4	10.1	9.8	2,287	2,338	2,313
	外来	22	3,251	3,328	3,324	2.0	2.0	2.0	1,586	1,639	1,626
その他	入院	19	15,052	15,013	15,303	10.6	10.2	10.3	1,422	1,474	1,482
	外来	20	1,232	1,208	1,160	2.1	2.0	1.9	588	608	599
(再掲) 人工透析あり	入院	40	26,214	26,289	25,717	14.4	14.2	13.8	1,815	1,850	1,859
	外来	42	4,375	4,470	4,454	2.5	2.5	2.6	1,719	1,759	1,733

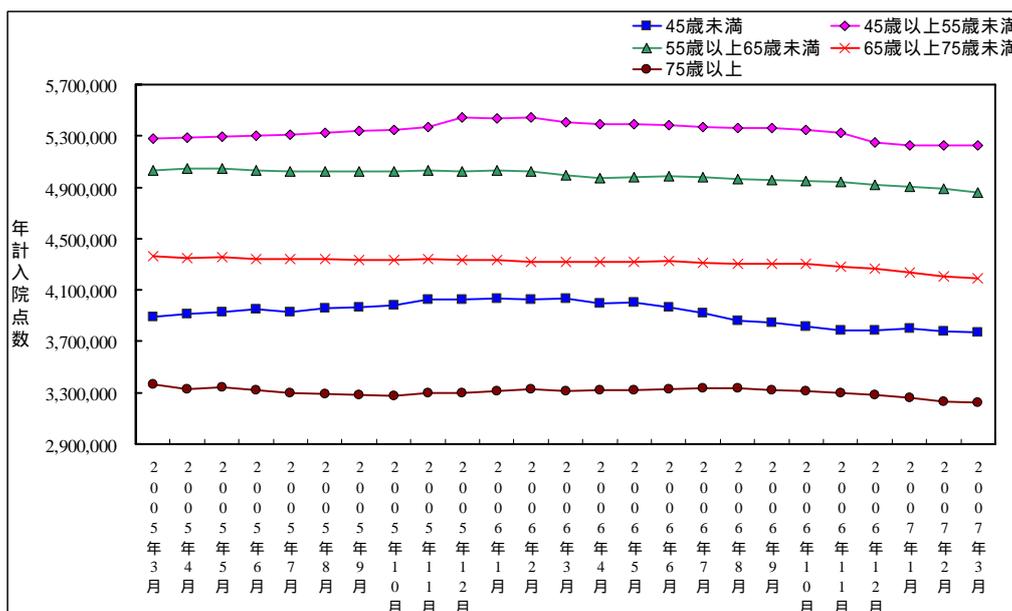
入院は、2004年度から2006年度までの間に、入院件数>0の施設のみを集計とした。
 回答施設数が3未満の診療科は、その他に含めた。

(5) 移動年計 (クロス分析)

年齢別 入院

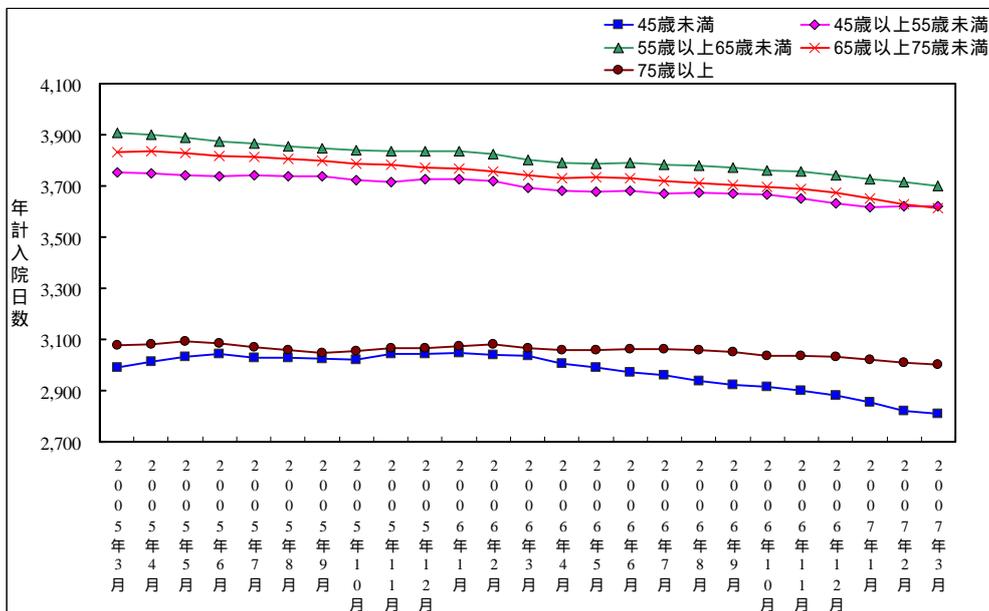
入院点数を見ると、55歳以上65歳未満、65歳以上75歳未満、75歳以上では期間を通じて減少傾向であった。45歳未満と45歳以上55歳未満では増加傾向から減少傾向に転じた。

図 5-11 年計入院点数



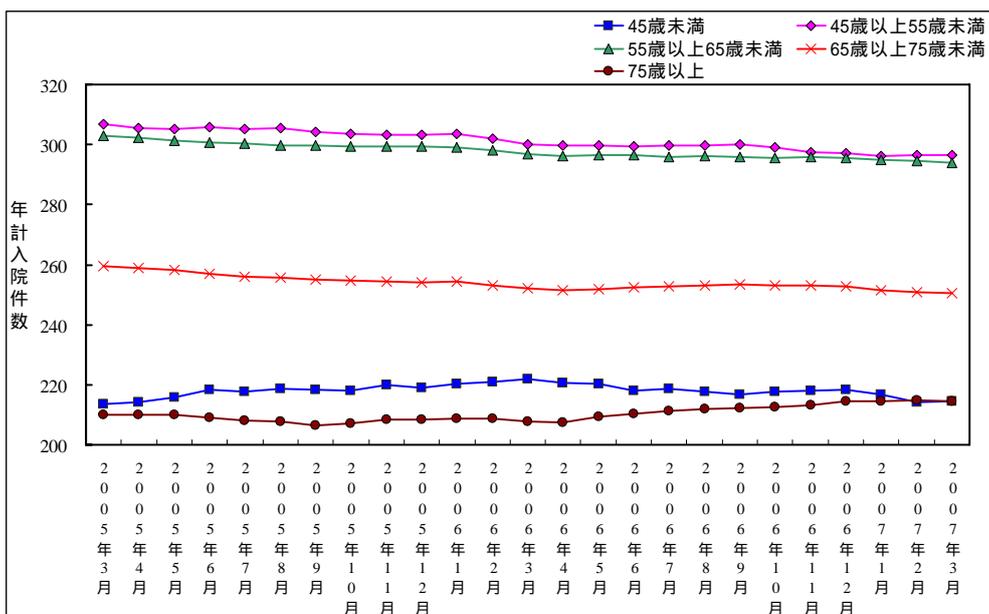
入院日数を見ると、45 歳未満では増加傾向から減少傾向に転じた。その他の年齢階級では期間を通じて減少傾向であった。

図 5-12 年計入院日数



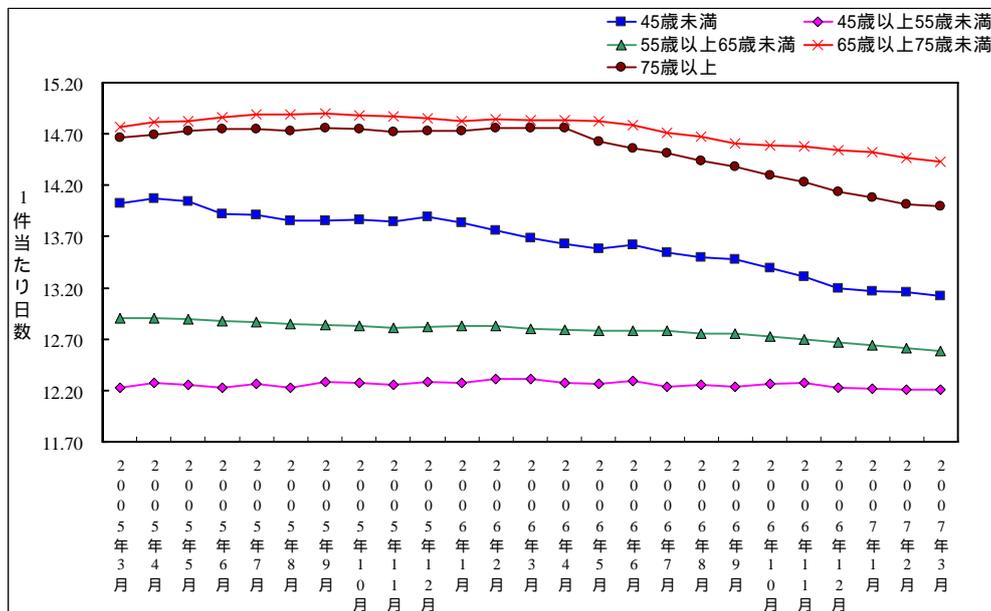
入院件数は、増加傾向から減少傾向に転じた 45 歳未満と減少傾向から増加傾向に転じた 75 歳以上を除き、期間を通じて減少傾向であった。

図 5-13 年計入院件数



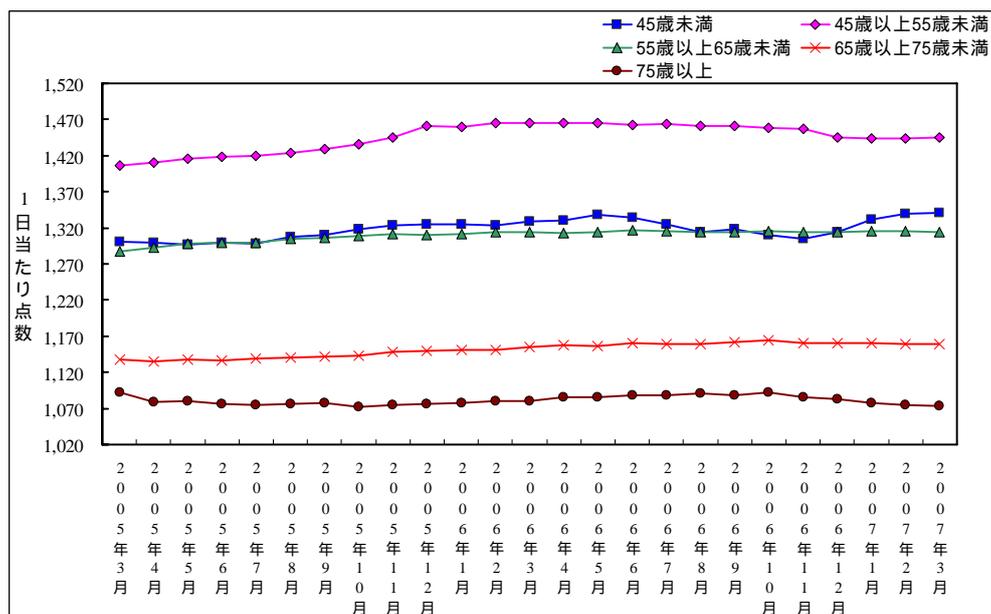
1件当たり日数は、45歳未満と55歳以上65歳未満では期間を通じて減少傾向であった。その他の年齢階級では増加傾向から減少傾向に転じた。

図 5-14 1件当たり日数



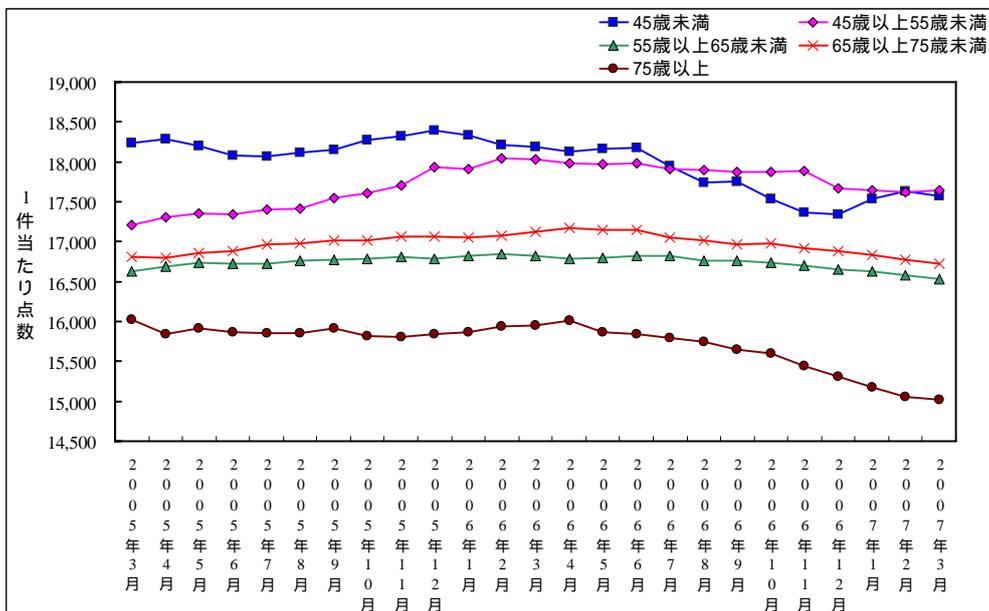
1日当たり点数を見ると、45歳未満と65歳以上75歳未満では期間を通じて増加傾向、75歳以上では期間を通じて減少傾向であった。45歳以上55歳未満と55歳以上65歳未満では増加傾向から減少傾向に転じた。

図 5-15 1日当たり点数



45歳未満と75歳以上の1件当たり点数は期間を通じて減少傾向であった。その他の年齢階級では増加傾向から減少傾向に転じた。

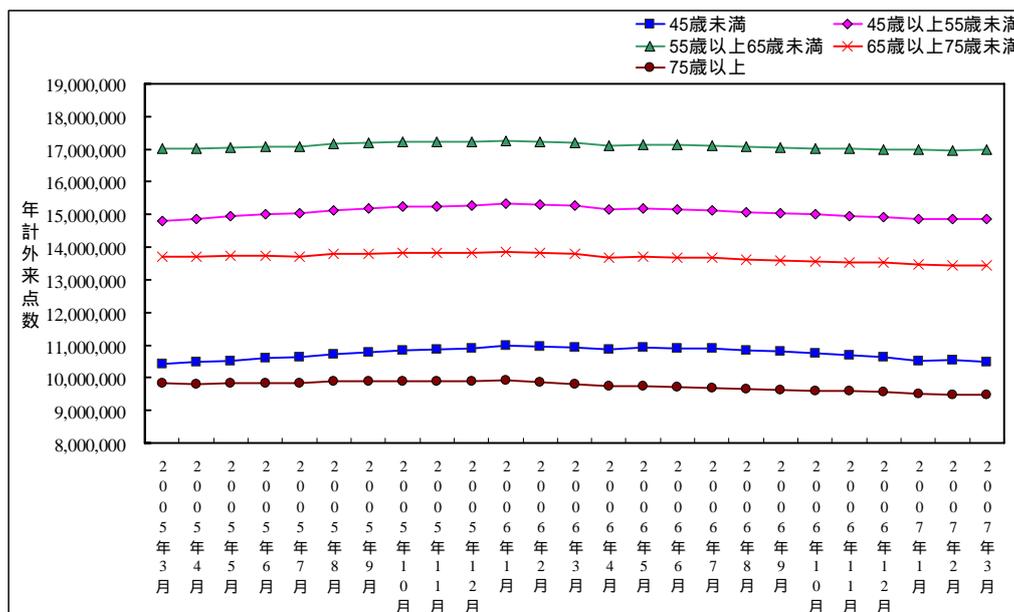
図 5-16 1件当たり点数



外来

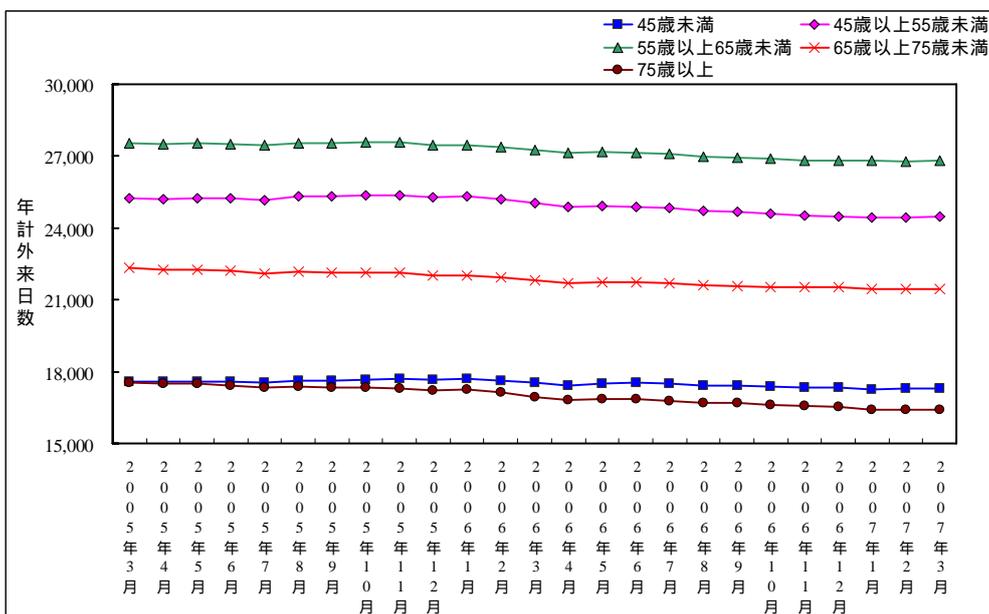
外来点数を見ると、75歳以上では期間を通じて減少傾向であった。その他の年齢階級では増加傾向から減少傾向に転じた。

図 5-17 年計外来点数



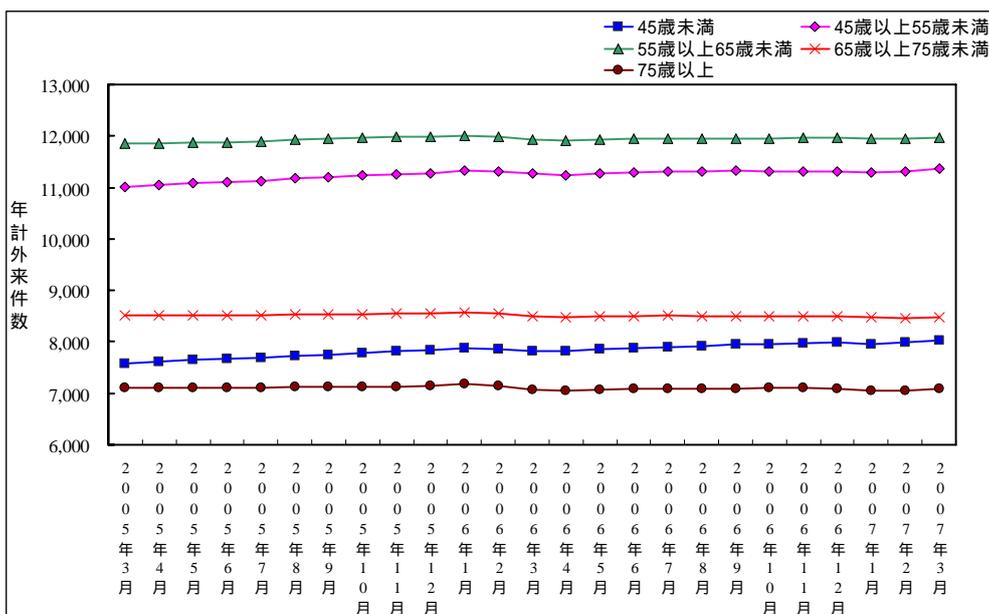
外来日数は期間を通じて、すべての年齢階級で減少傾向であった。

図 5-18 年計外来日数



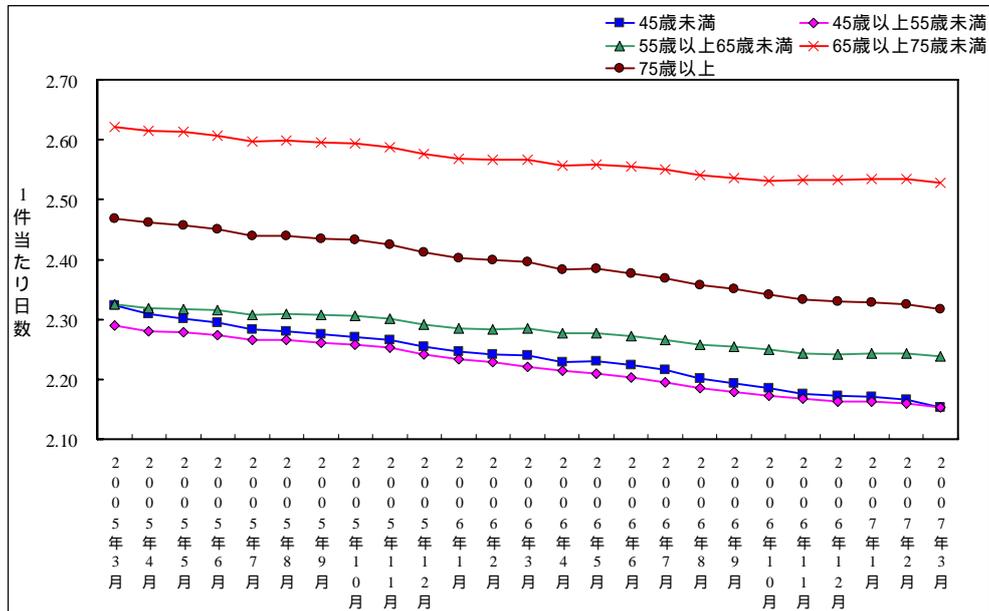
外来件数を見ると、65歳以上75歳未満では期間を通じて減少傾向、75歳以上では減少傾向から増加傾向に転じた。その他の年齢階級では期間を通じて増加傾向であった。特に45歳未満の増加率が高かった。

図 5-19 年計外来件数



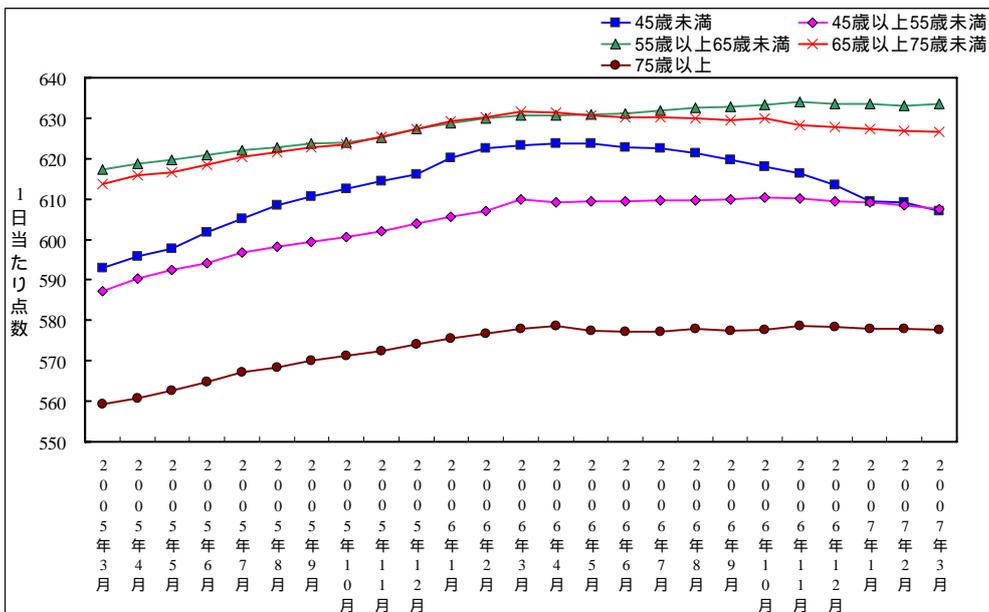
1 件当たり日数はすべての年齢階級で減少した。

図 5-20 1 件当たり日数



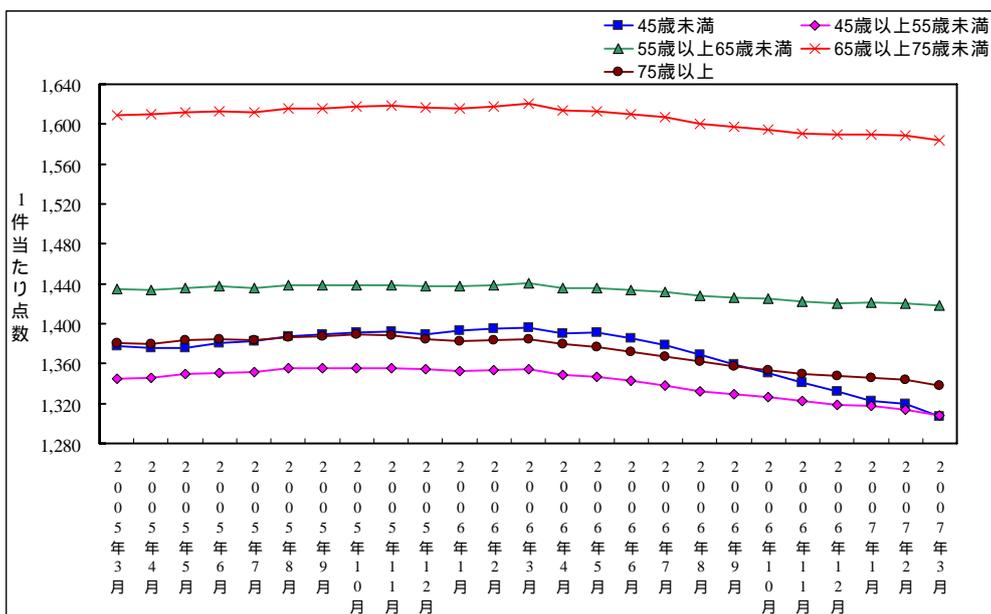
1 日当たり点数は、55 歳以上 65 才未満を除いた年齢階級において減少した。外来についても、45 歳未満の年齢階級が大きなマイナスの影響を受けた。

図 5-21 1 日当たり点数



すべての年齢階級において、1件当たり点数は増加傾向から減少傾向に転じた。

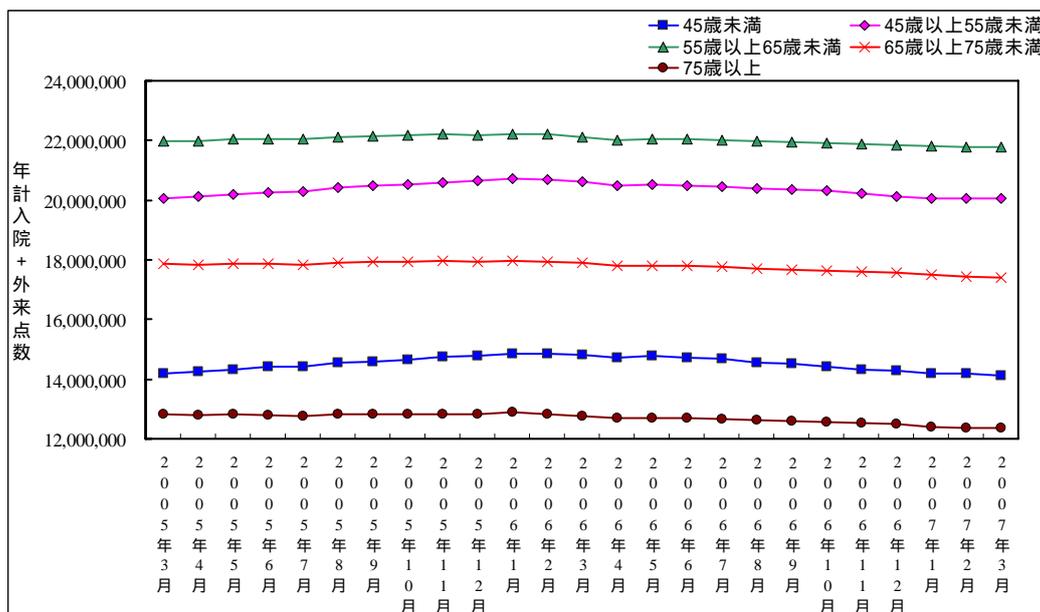
図 5-22 1件当たり点数



入院 + 外来

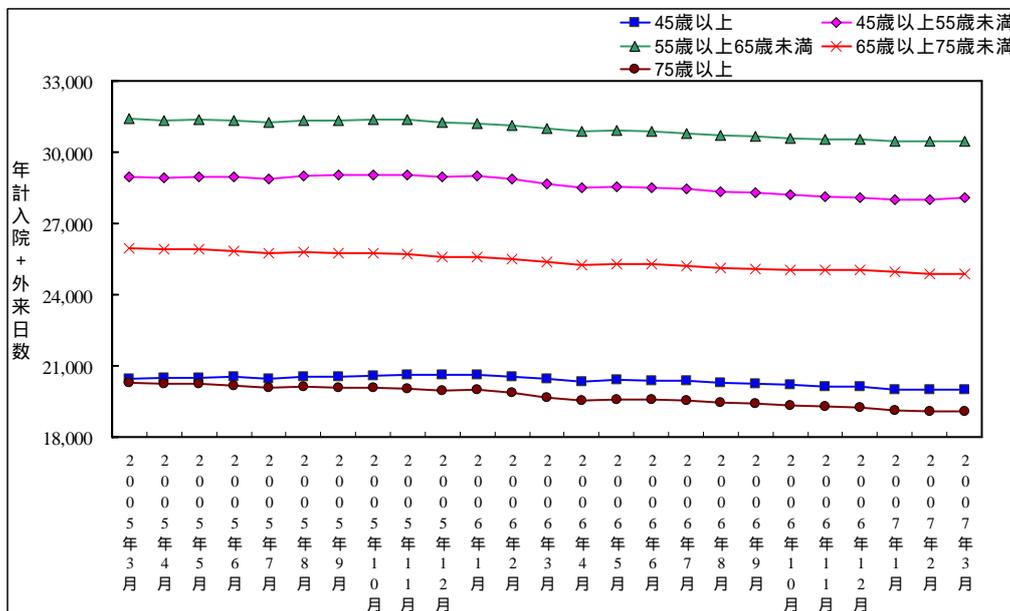
入院 + 外来点数を見ると、75 歳以上では期間を通じて減少傾向であった。その他の年齢階級では増加傾向から減少傾向に転じた。

図 5-23 年計入院 + 外来点数



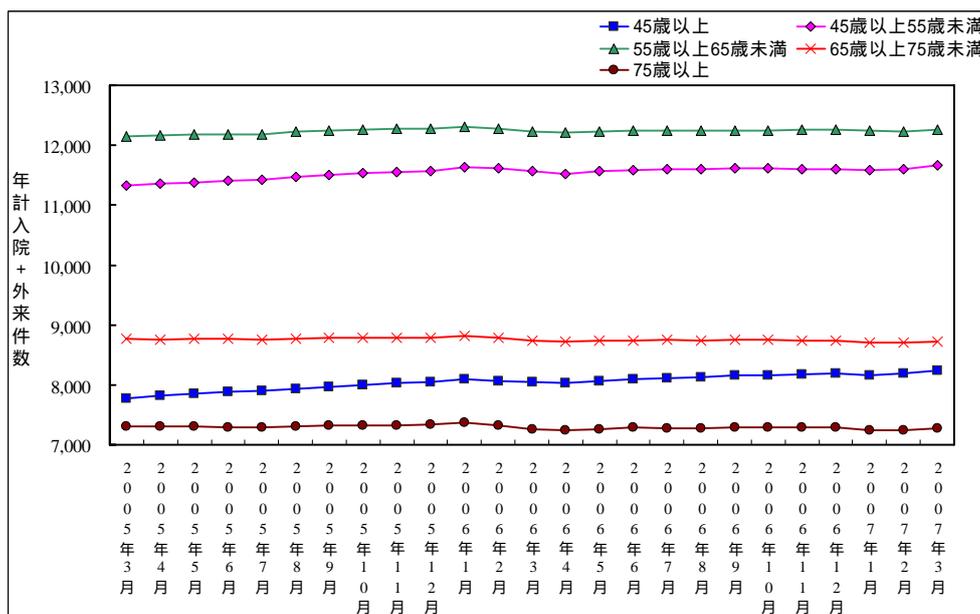
入院 + 外来日数を見ると、45 歳未満では横這いから減少傾向に転じた。その他の年齢階級では期間を通じて減少傾向であった。

図 5-24 年計入院 + 外来日数



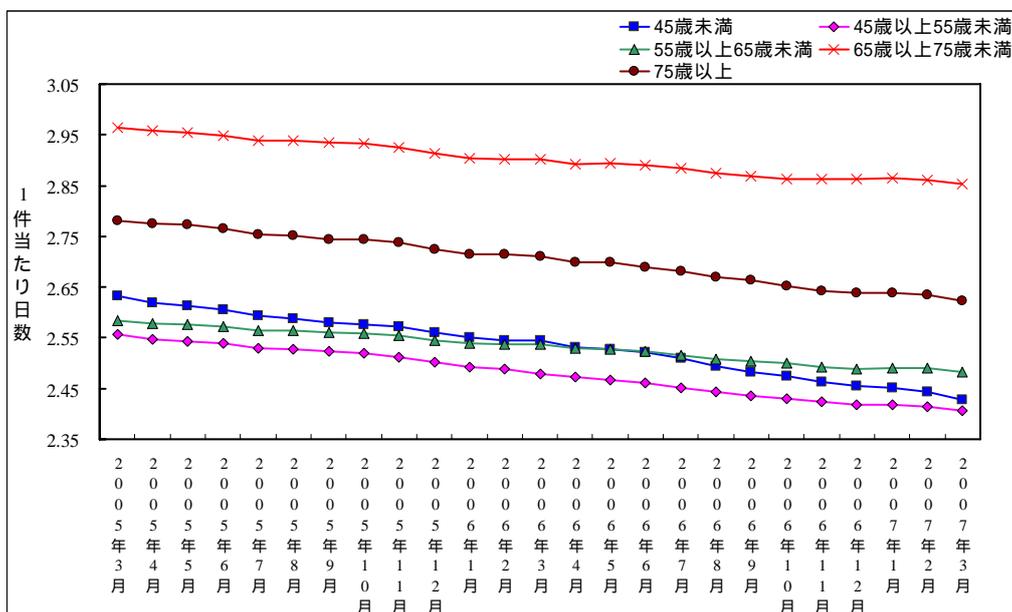
入院 + 外来件数を見ると、65 歳以上 75 歳未満では期間を通じて減少傾向であり、75 歳以上では減少傾向から増加傾向に転じた。その他の年齢階級では期間を通じて増加傾向であった。

図 5-25 年計入院 + 外来件数



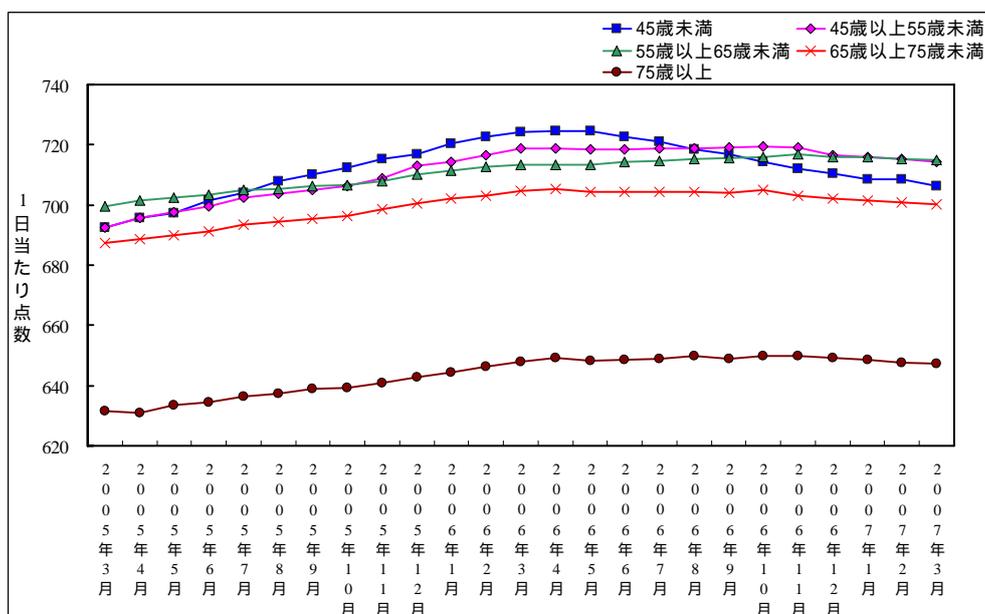
すべての年齢階級において、1件当たり日数は期間を通じて減少傾向であった。

図 5-26 1件当たり日数



1日当たり点数を見ると、55歳以上65歳未満では期間を通じて増加傾向であった。その他の年齢階級では増加傾向から減少傾向に転じた。

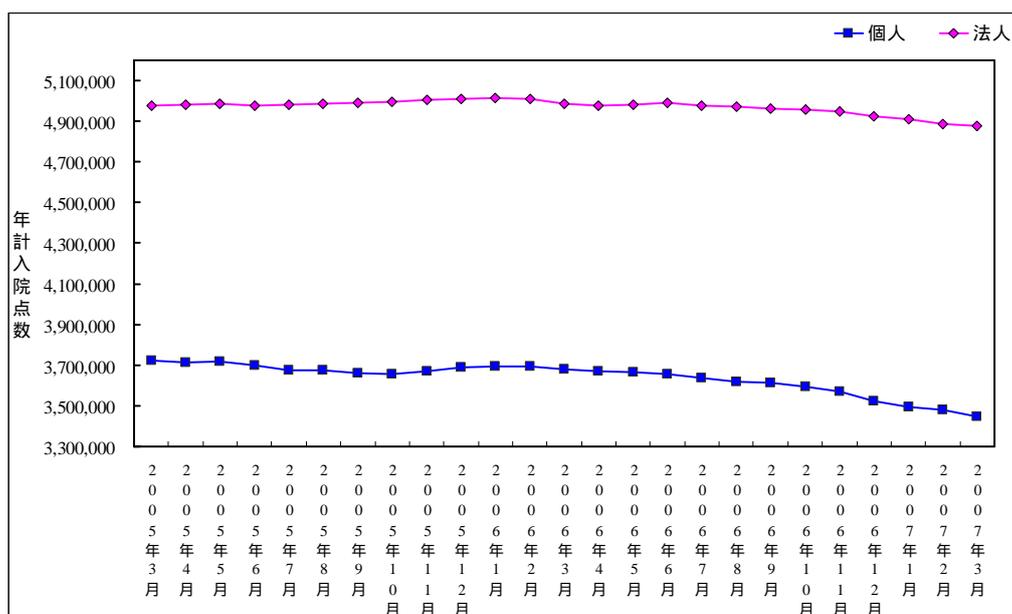
図 5-27 1日当たり点数



開設者別 入院

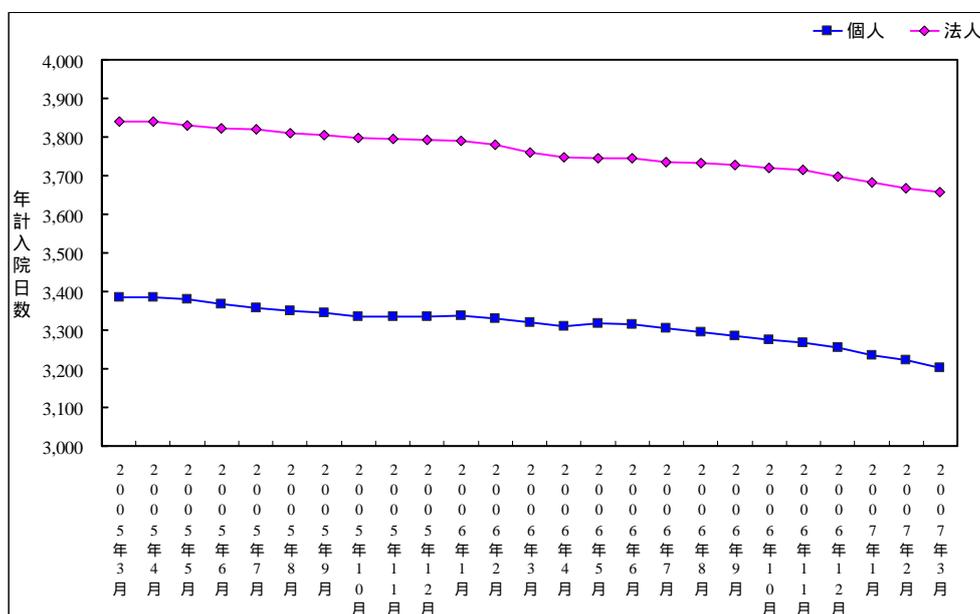
入院点数を見ると、個人では期間を通じて減少傾向であり、法人では増加傾向から減少傾向に転じた。また、個人における減少率が法人よりも高かった。

図 5-29 年計入院点数



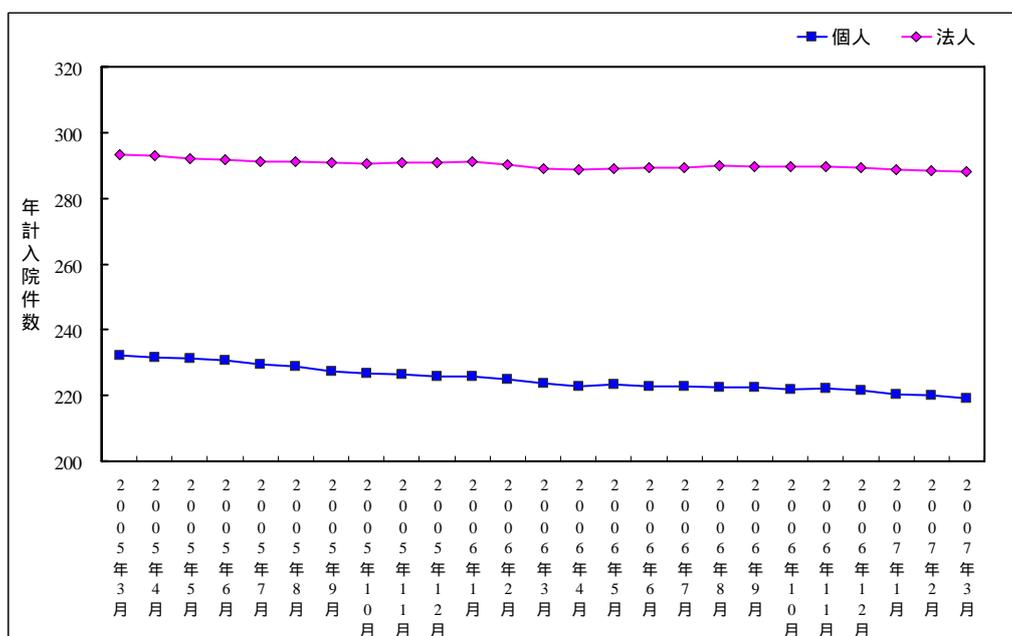
個人、法人ともに入院日数は期間を通じて減少傾向であった。

図 5-30 年計入院日数



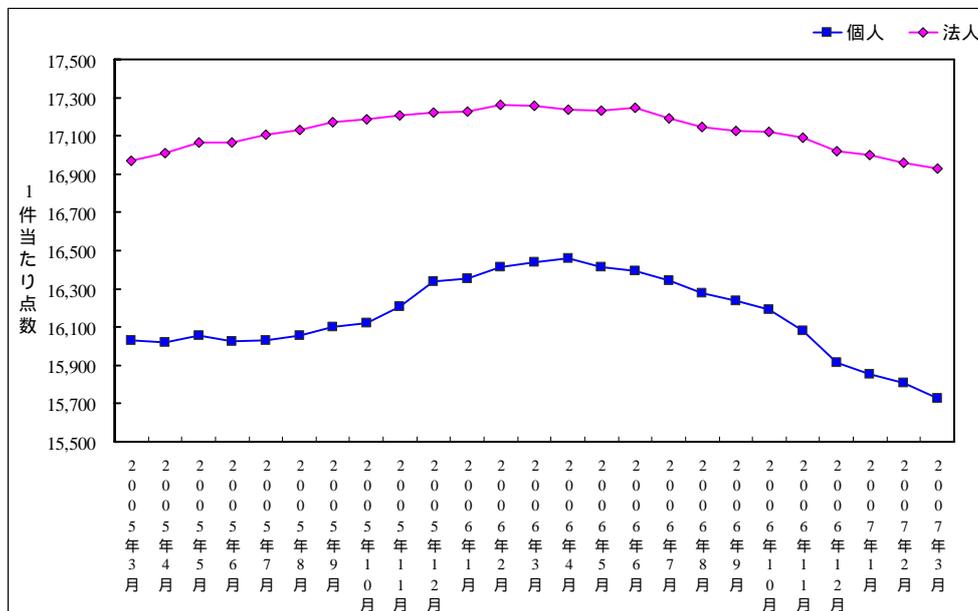
個人、法人ともに入院件数は期間を通じて減少傾向であり、個人における減少率が高かった。

図 5-31 年計入院件数



1 件当たり点数を見ると、個人、法人ともに増加傾向から減少傾向に転じた。また、個人における減少率が法人より高かった。

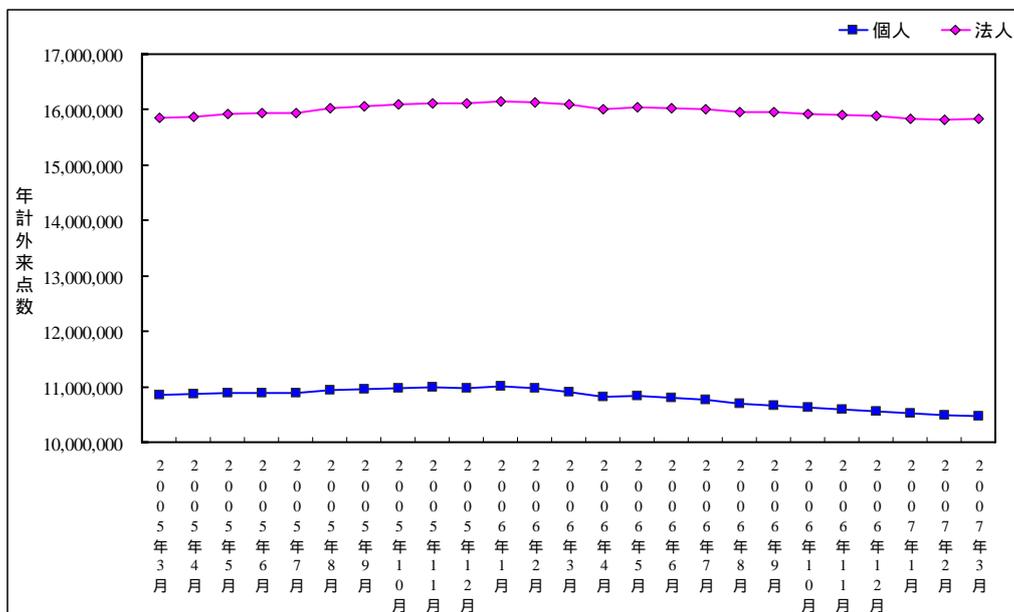
図 5-34 1 件当たり点数



外来

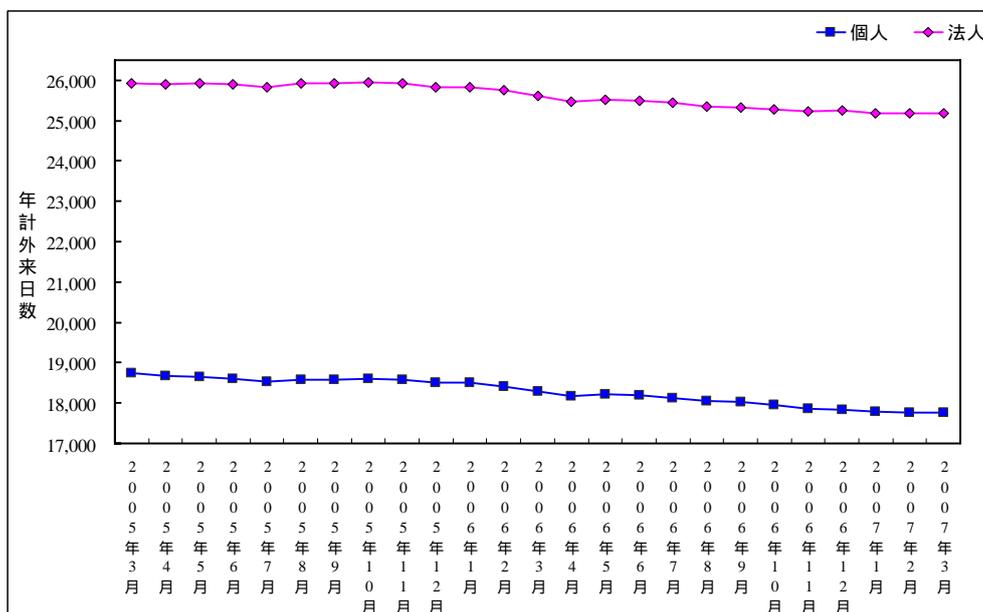
外来点数を見ると、個人、法人ともに増加傾向から減少傾向に転じた。

図 5-35 年計外来点数



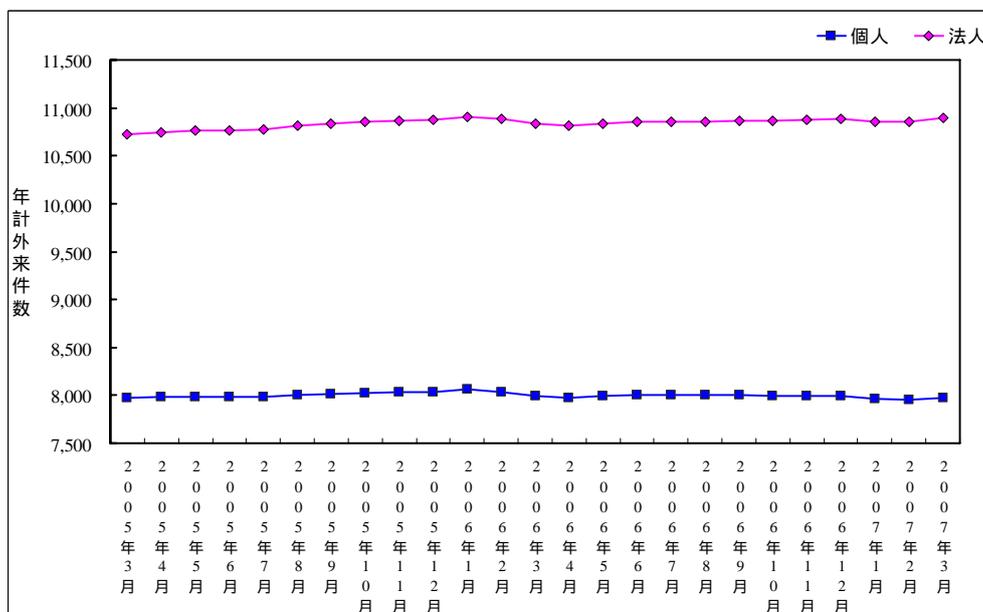
個人、法人ともに期間を通じて外来日数は減少傾向であった。

図 5-36 年計外来日数



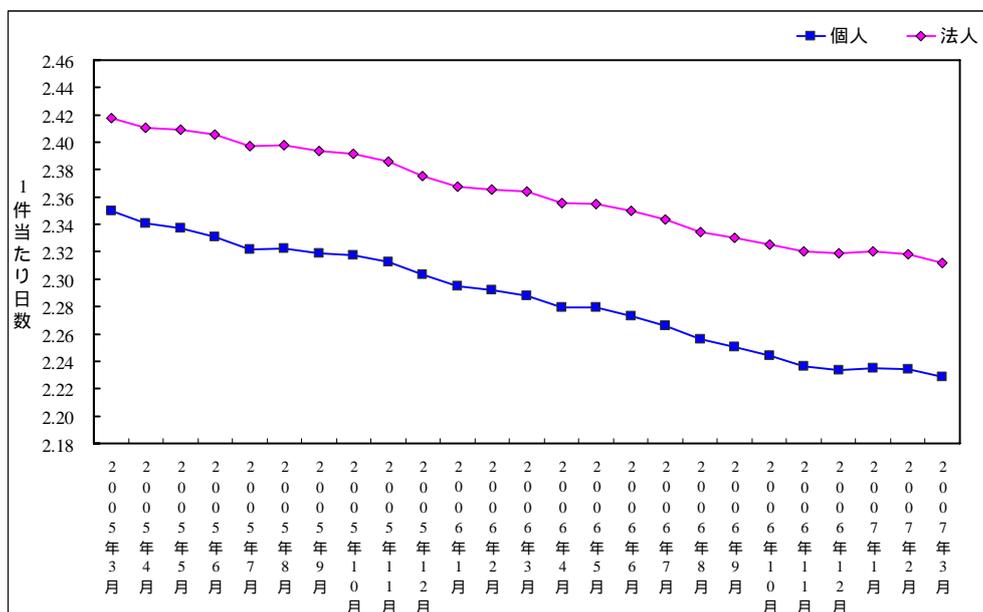
外来件数を見ると、法人では期間を通じて増加傾向であった。一方、個人では増加傾向から減少傾向に転じた。

図 5-37 年計外来件数



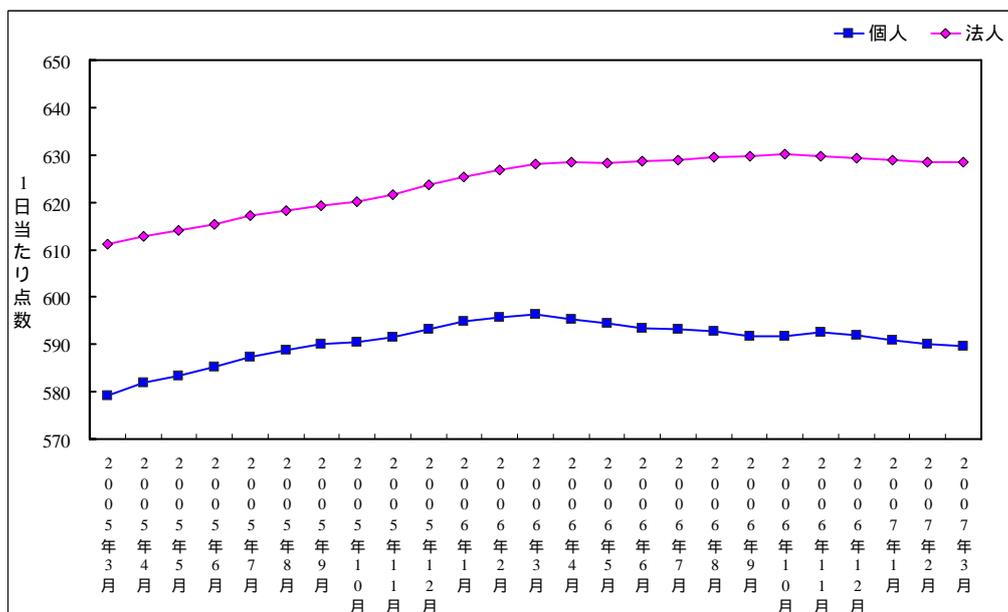
個人、法人ともに期間を通じて1件当たり日数は減少傾向であった。

図 5-38 1件当たり日数



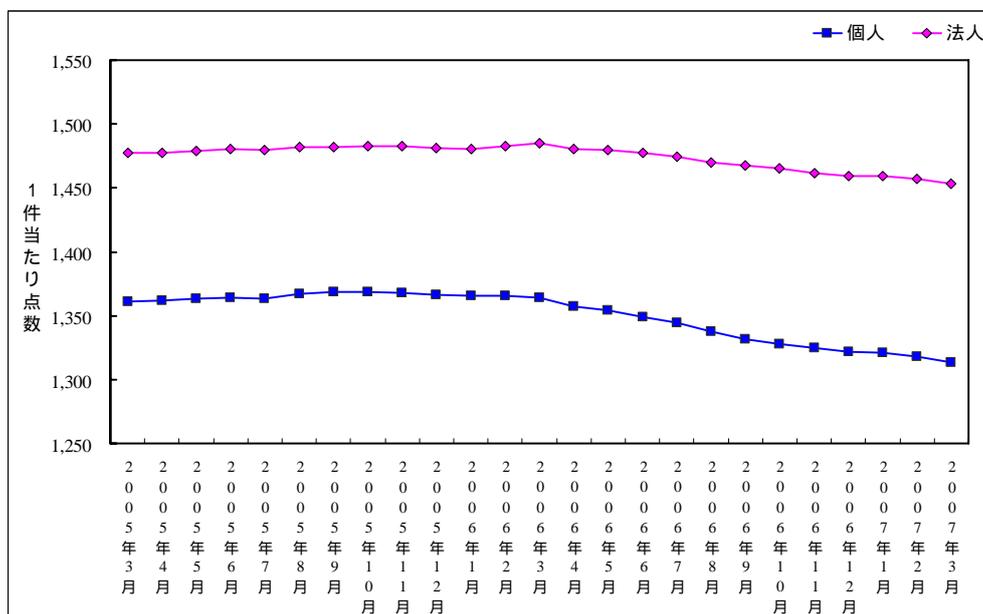
1日当たり点数を見ると、個人では増加傾向から減少傾向に転じた。一方、法人では増加傾向から横這いへと転じた。

図 5-39 1日当たり点数



1 件当たり点数を見ると、個人、法人ともに増加傾向から減少傾向に転じた。

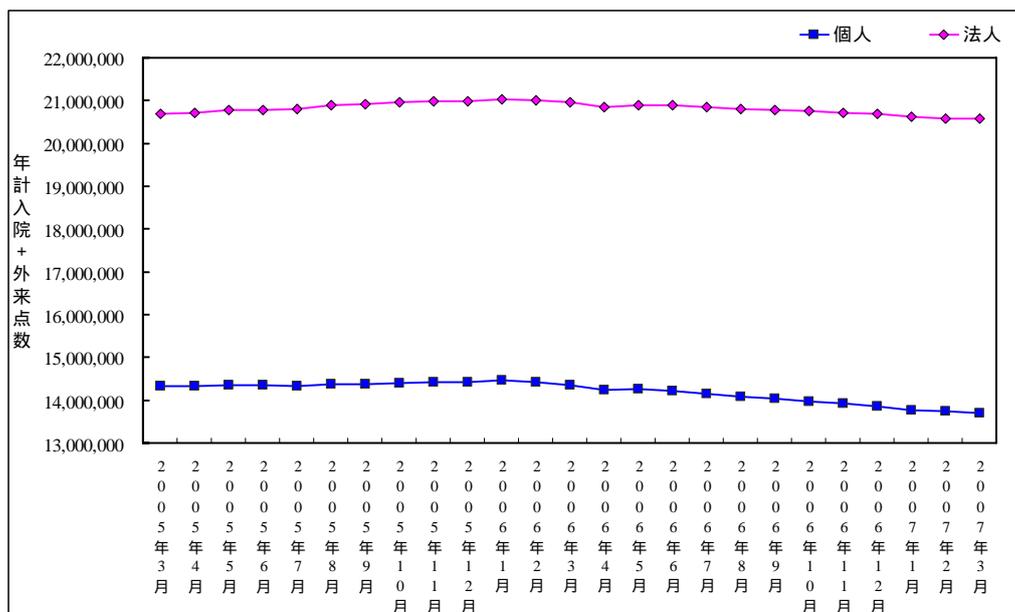
図 5-40 1 件当たり点数



入院 + 外来

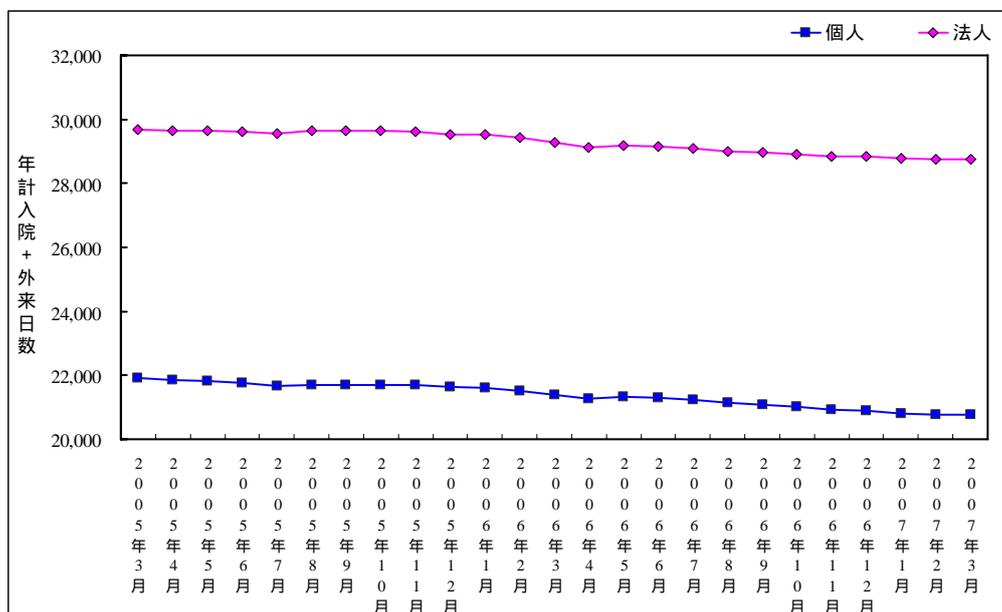
入院 + 外来点数を見ると、個人では横這いから減少傾向に転じた。一方、法人では増加傾向から減少傾向に転じた。

図 5-41 年計入院 + 外来点数



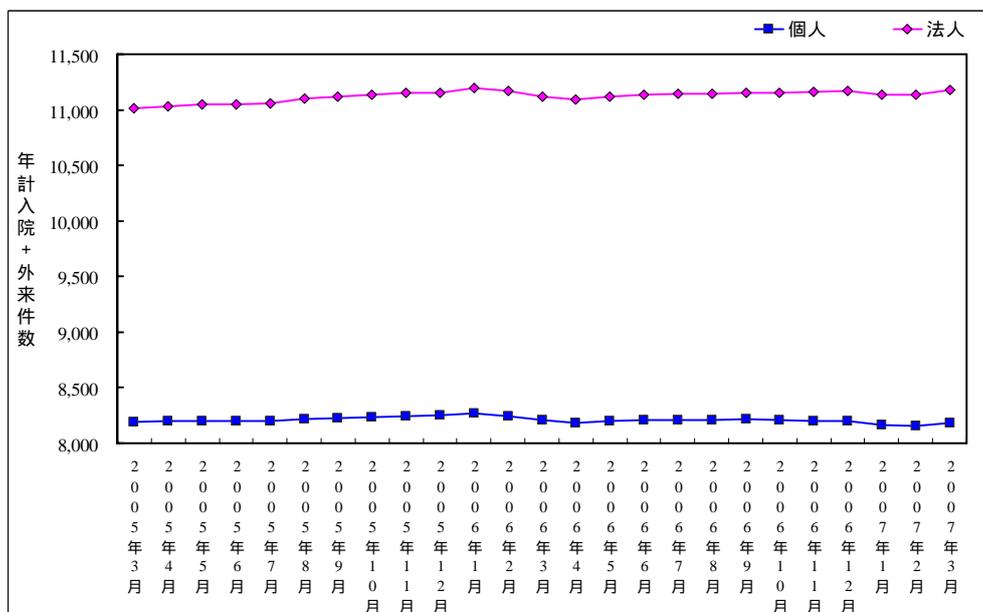
個人、法人ともに、期間を通じて入院 + 外来日数は減少傾向であった。

図 5-42 年計入院 + 外来日数



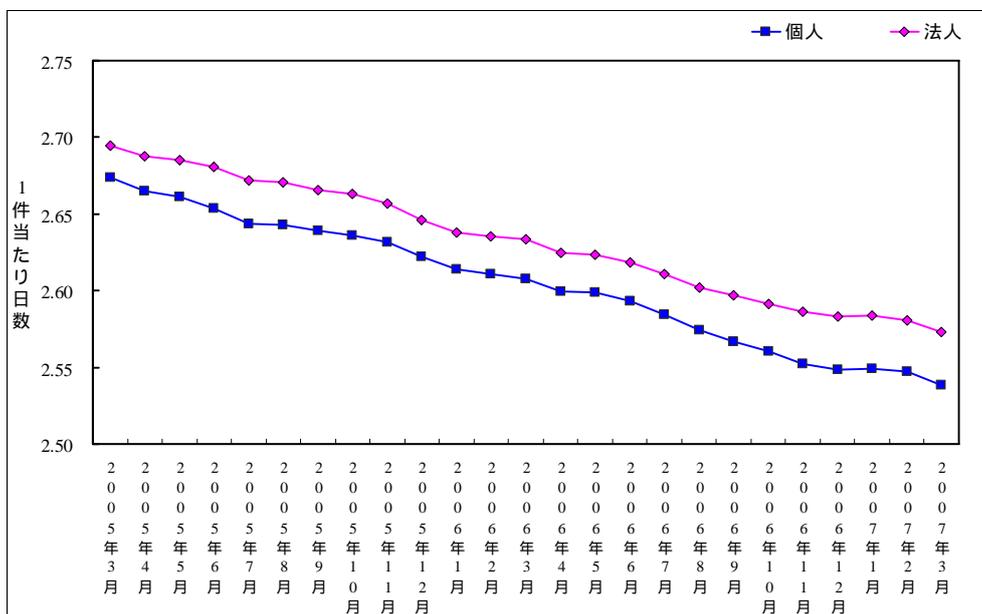
入院 + 外来件数を見ると、個人では増加傾向から減少傾向に転じた。一方、法人では期間を通じて増加傾向であった。

図 5-43 年計入院 + 外来件数



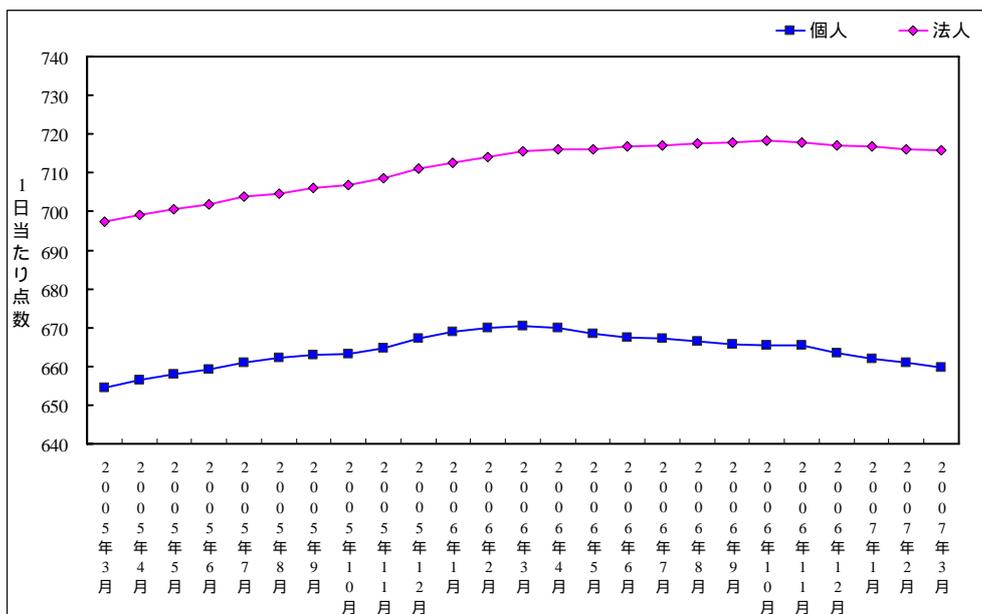
個人、法人ともに、期間を通じて1件当たり日数は減少傾向であった。

図 5-44 1件当たり日数



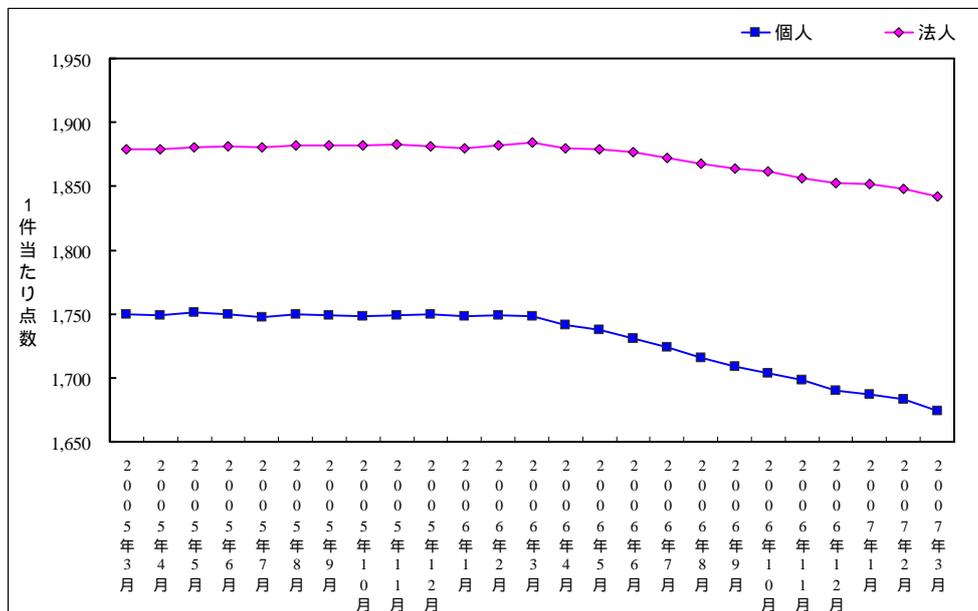
1日当たり点数を見ると、個人では増加傾向から減少傾向に転じた。一方、法人では増加傾向から横這いに転じた。

図 5-45 1日当たり点数



1 件当たり点数を見ると、個人では期間を通じて減少傾向であった。一方、法人では増加傾向から横這いに転じた。また、個人における減少率が高かった。

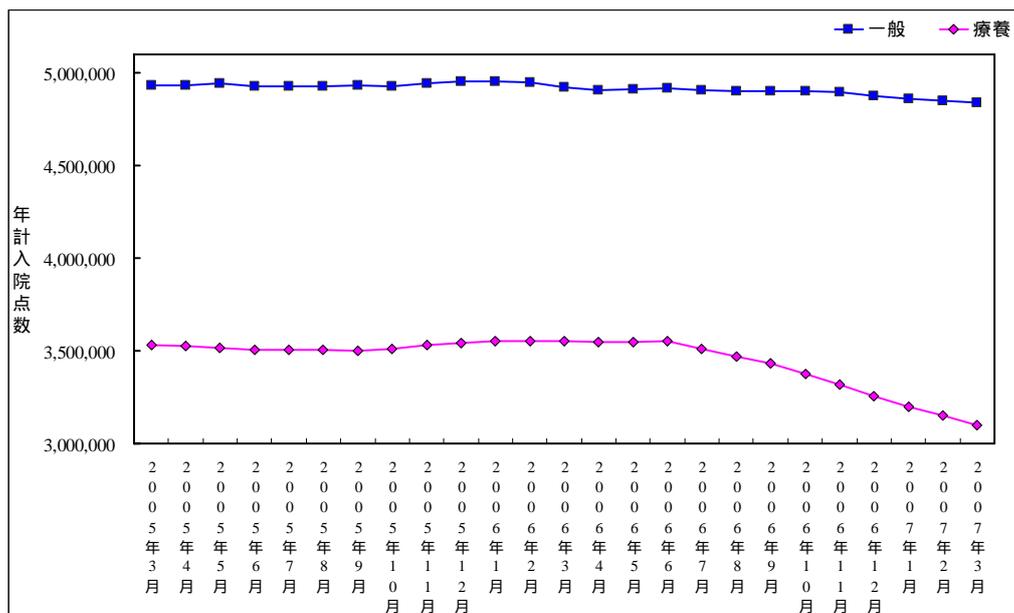
図 5-46 1 件当たり点数



主病床別 入院

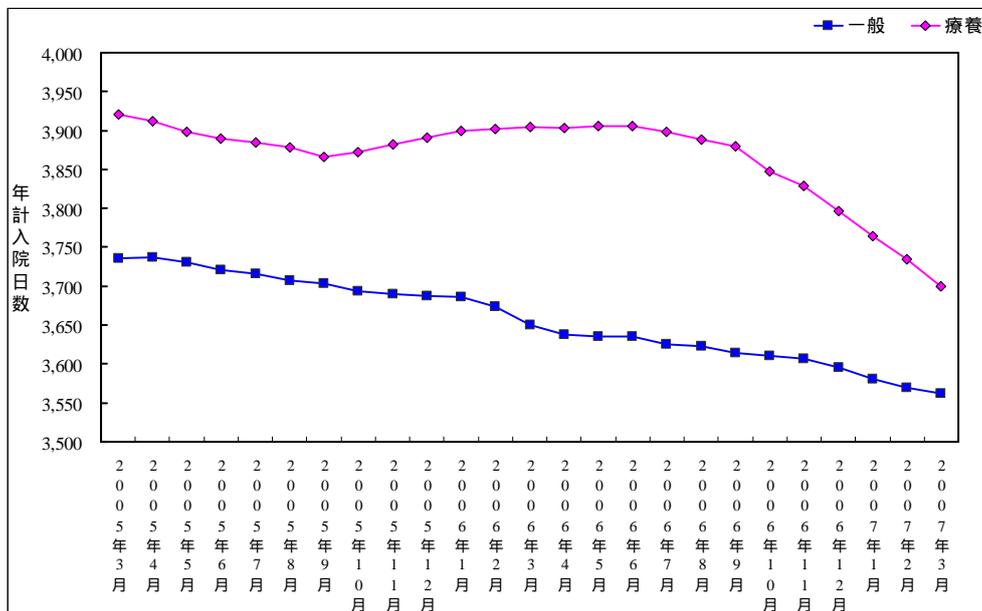
入院点数を見ると、一般では期間を通じて減少傾向であった。一方、療養では増加傾向から減少傾向に転じた。また、療養における減少率が高かった。

図 5-47 年計入院点数



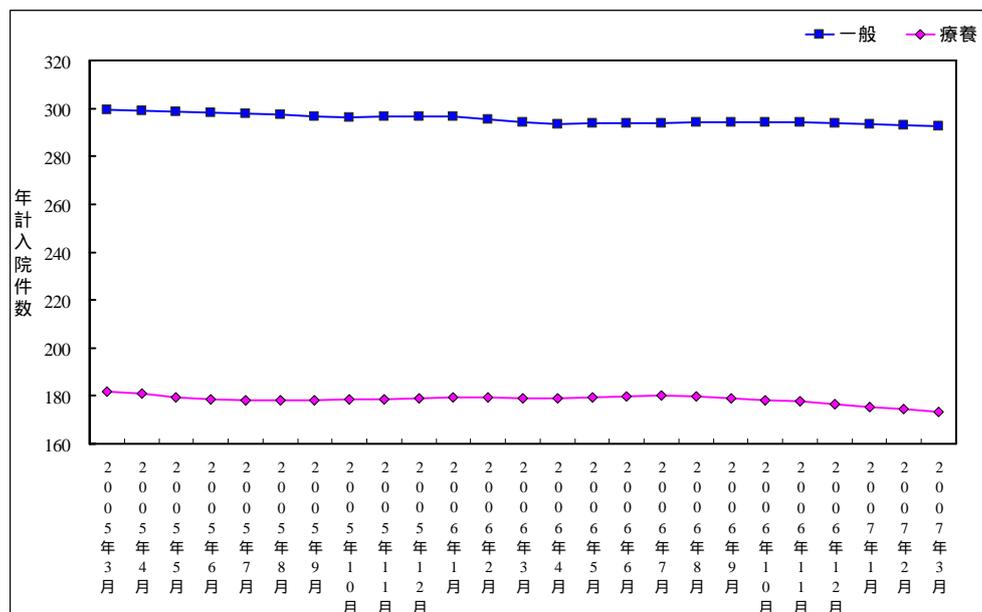
療養において、減少傾向と増加傾向が交互に訪れているが、期間を通じて見ると、一般、療養ともに入院日数は減少傾向であった。

図 5-48 年計入院日数



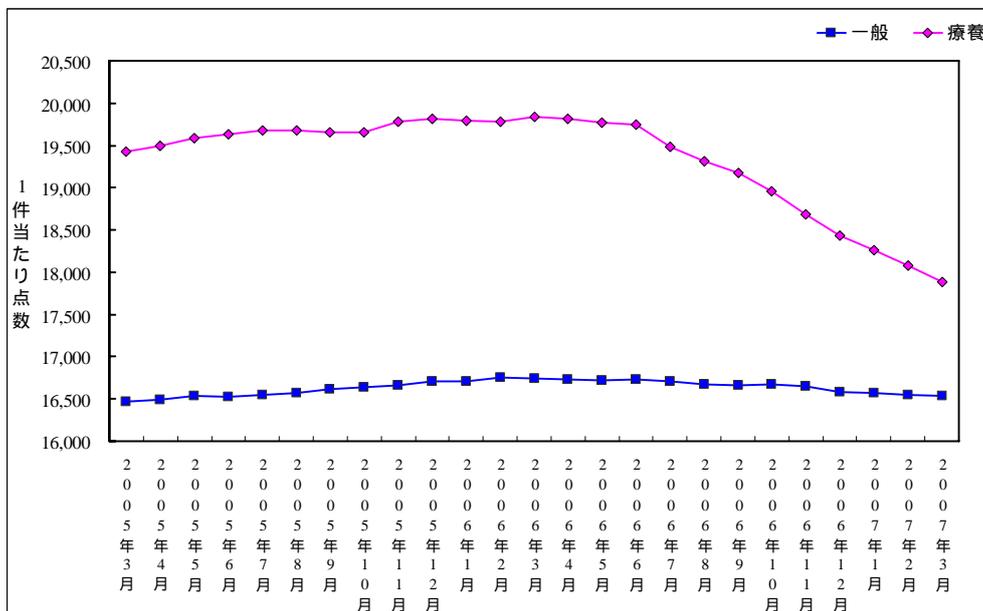
一般、療養ともに、期間を通じて入院件数は減少傾向であった。

図 5-49 年間入院件数



1 件当たり点数を見ると、一般、療養ともに増加傾向から減少傾向へと転じた。特に療養における減少率が高かった。

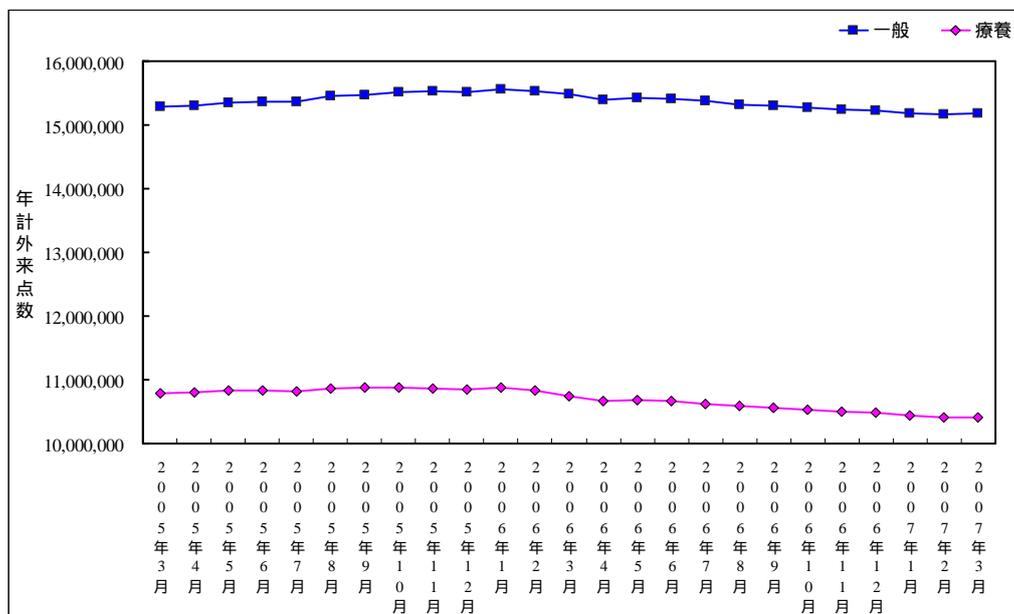
図 5-52 1 件当たり点数



外来

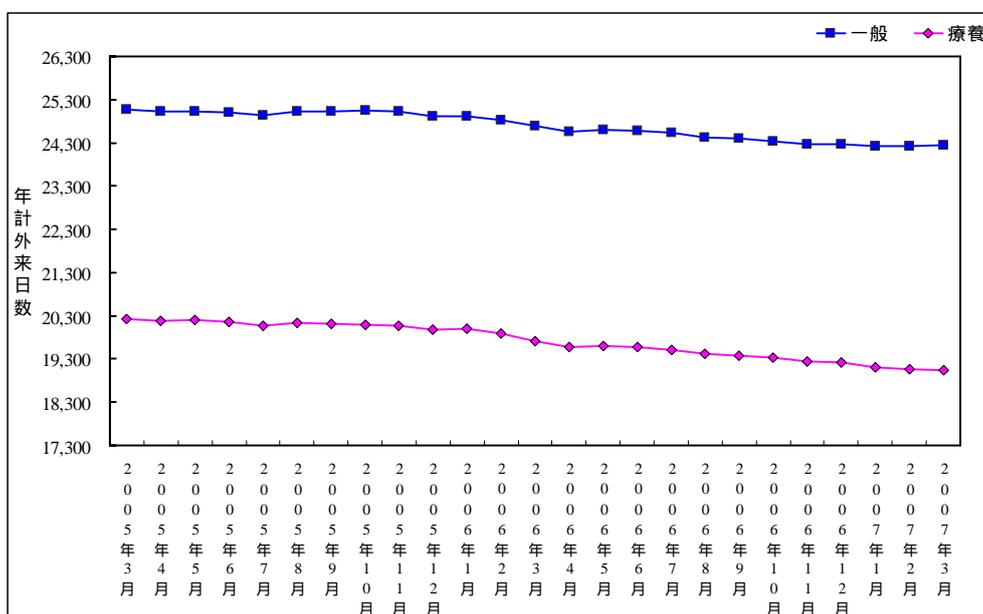
外来点数を見ると、一般では増加傾向から減少傾向に転じた。一方、療養では期間を通じて減少傾向であった。

図 5-53 年間外来点数



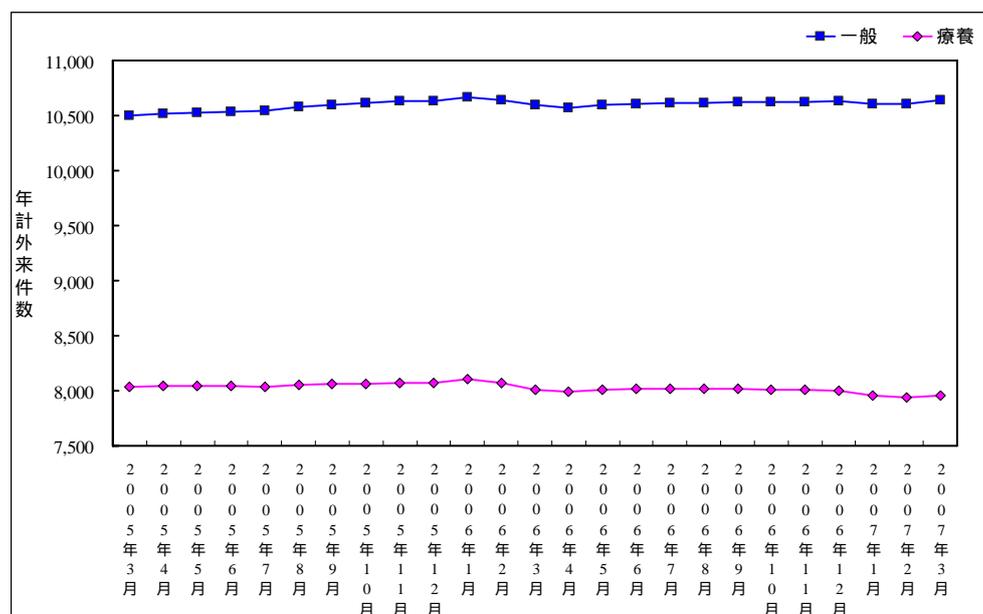
一般、療養ともに期間を通じて外来日数は減少傾向であった。

図 5-54 年間外来日数



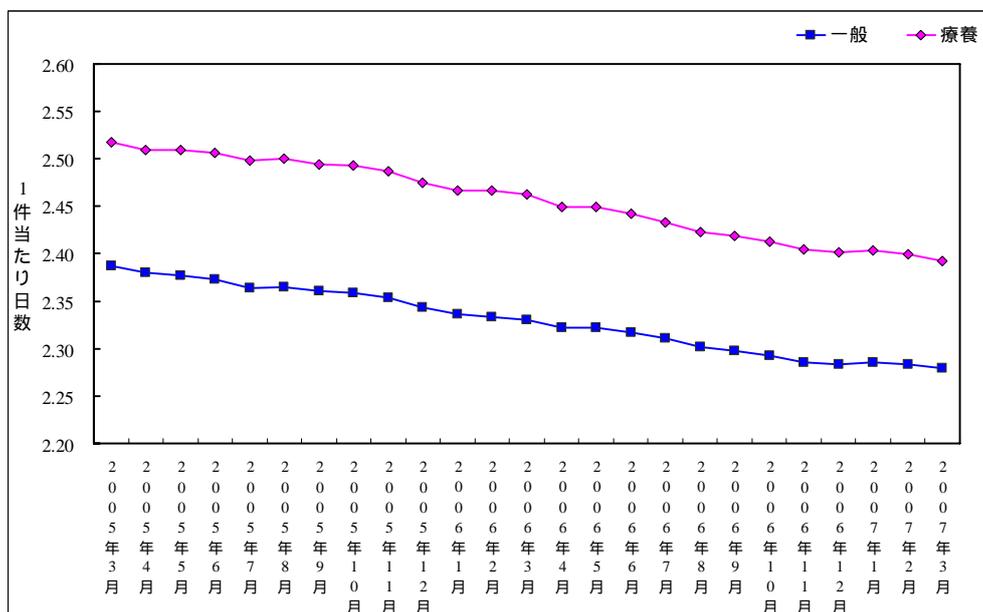
外来件数を見ると、一般では期間を通じて増加傾向であり、療養では期間を通じて減少傾向であった。

図 5-55 年間外来件数



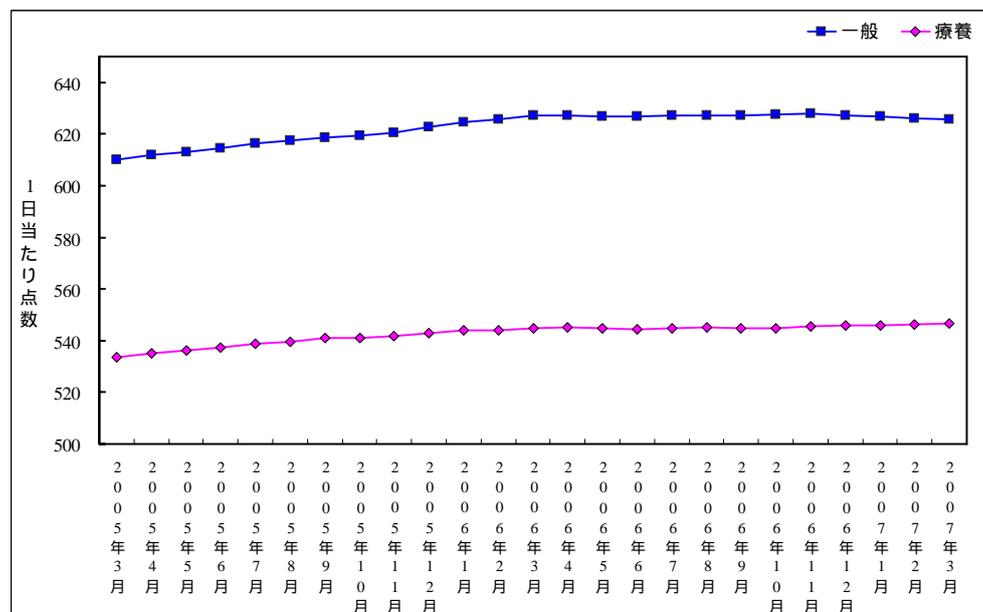
1件当たり日数は、期間を通じて一般、療養ともに減少傾向であった。

図 5-56 1件当たり日数



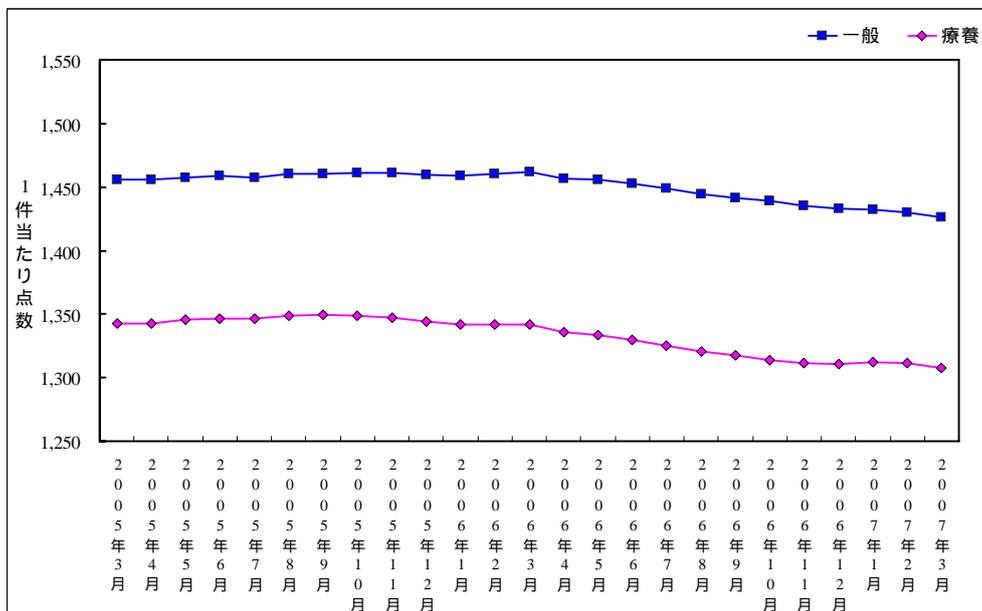
1日当たり点数を見ると、一般では増加傾向から減少傾向に転じた。一方、療養では期間を通じて増加傾向であった。

図 5-57 1日当たり点数



1 件当たり点数を見ると、一般では増加傾向から減少傾向に転じた。一方、療養では期間を通じて減少傾向であった。

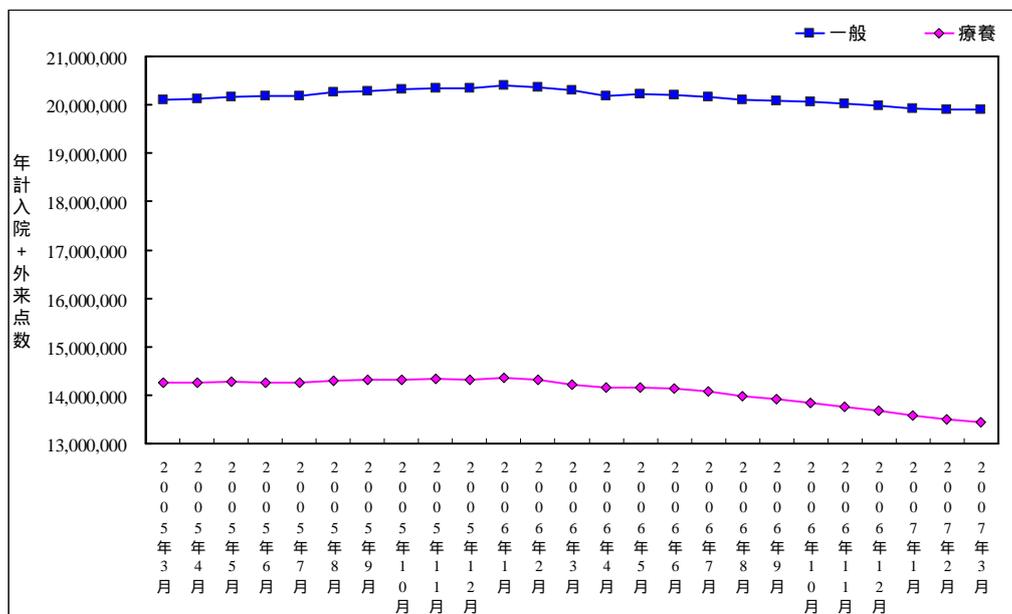
図 5-58 1 件当たり点数



入院 + 外来

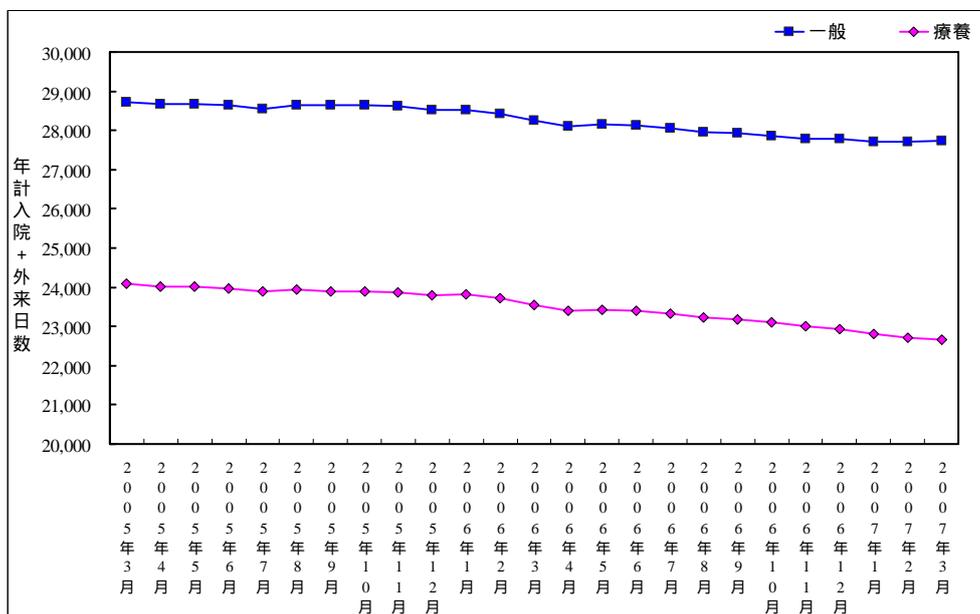
入院 + 外来点数を見ると、一般では増加傾向から減少傾向に転じた。一方、療養では期間を通じて減少傾向であり、減少率が高かった。

図 5-59 年計入院 + 外来点数



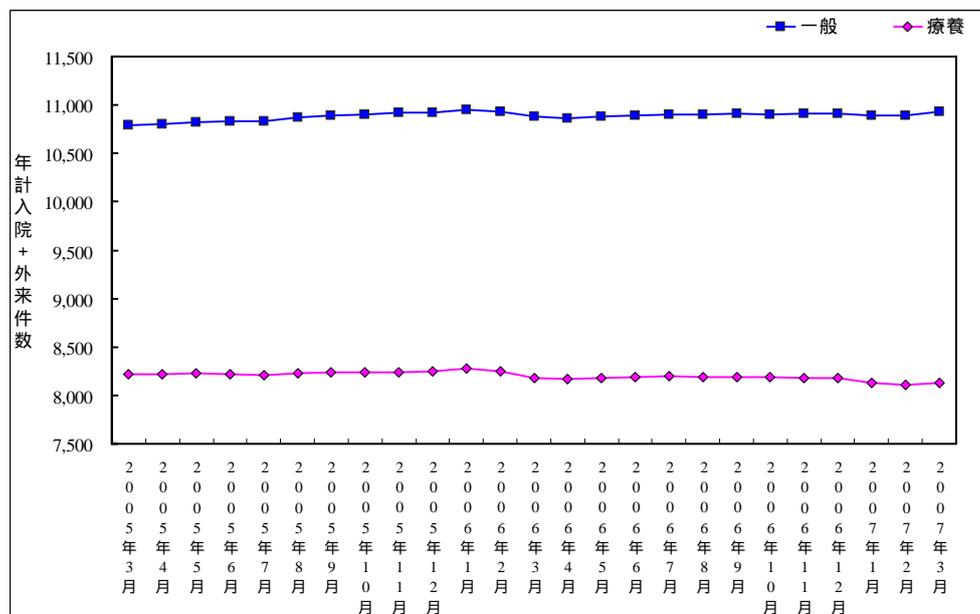
一般、療養ともに入院 + 外来日数は期間を通じて減少傾向であった。

図 5-60 年計入院 + 外来日数



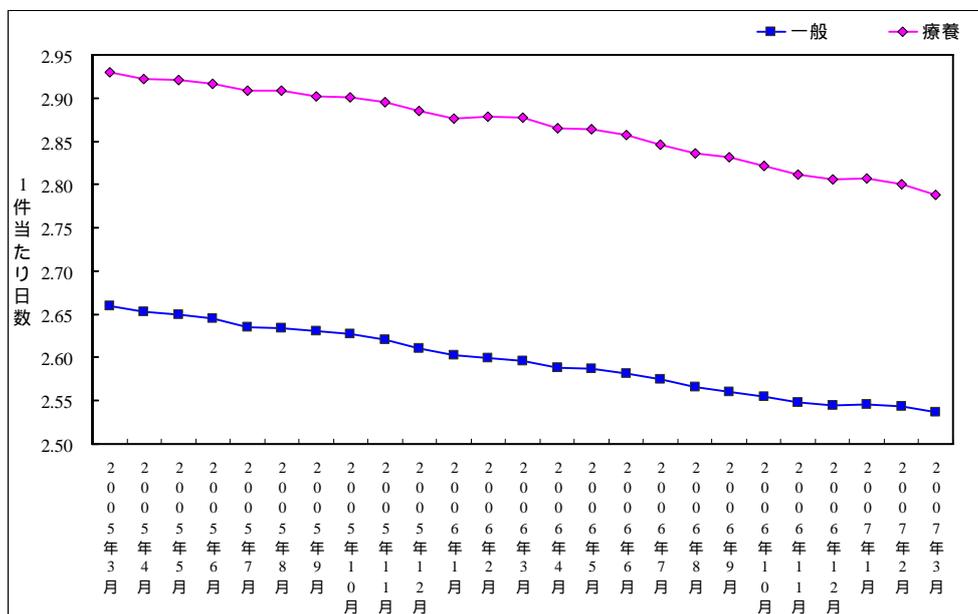
入院 + 外来件数を見ると、一般では期間を通じて増加傾向であった。一方、療養では期間を通じて減少傾向であった。

図 5-61 年計入院 + 外来件数



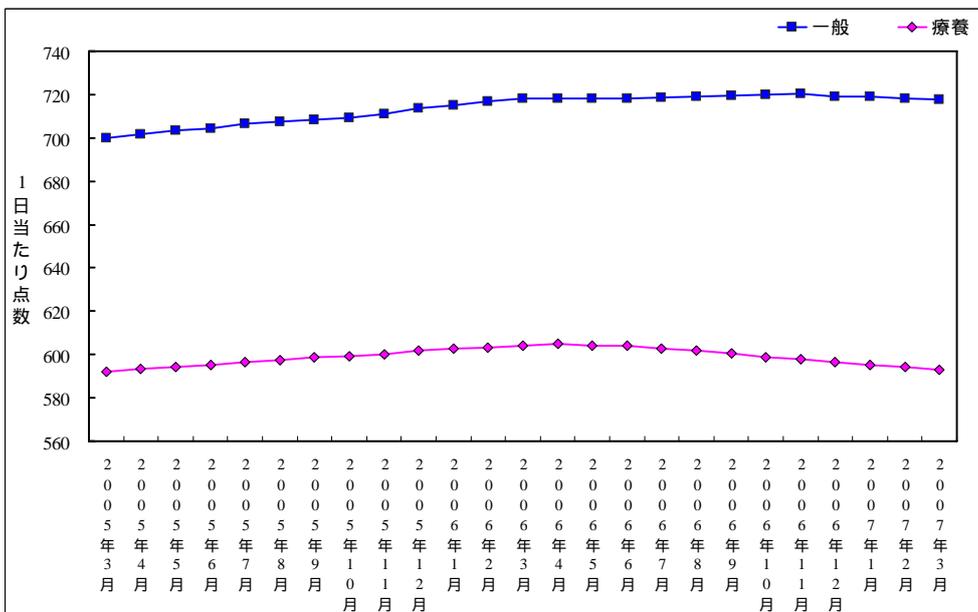
1 件当たり日数は、一般、療養ともに期間を通じて減少傾向であった。

図 5-62 1 件当たり日数



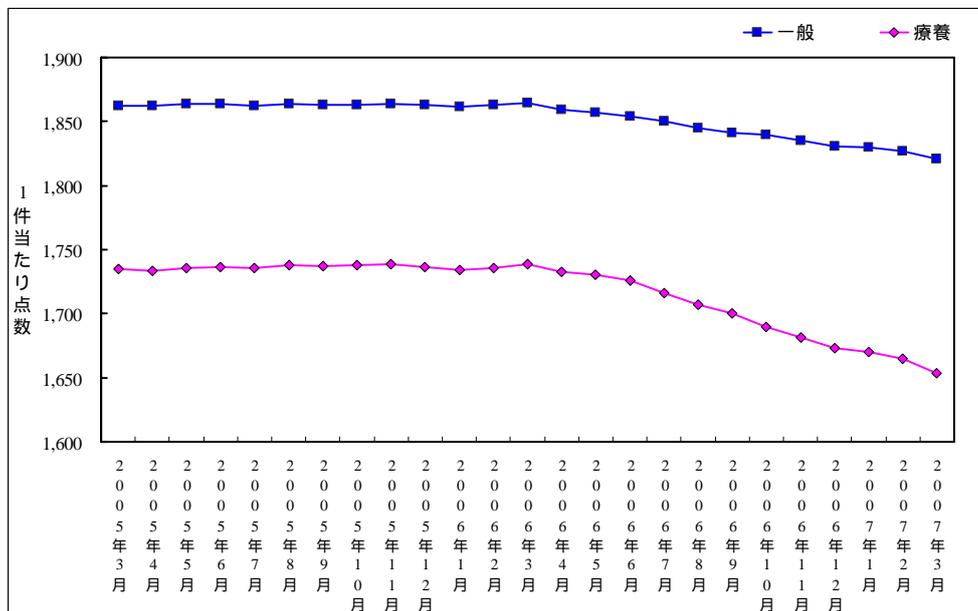
1 日当たり点数を見ると、一般、療養ともに増加傾向から減少傾向に転じた。また、療養における減少率が高かった。

図 5-63 1 日当たり点数



1 件当たり点数を見ると、一般、療養ともに増加傾向から減少傾向に転じた。また、療養における減少率が高かった。

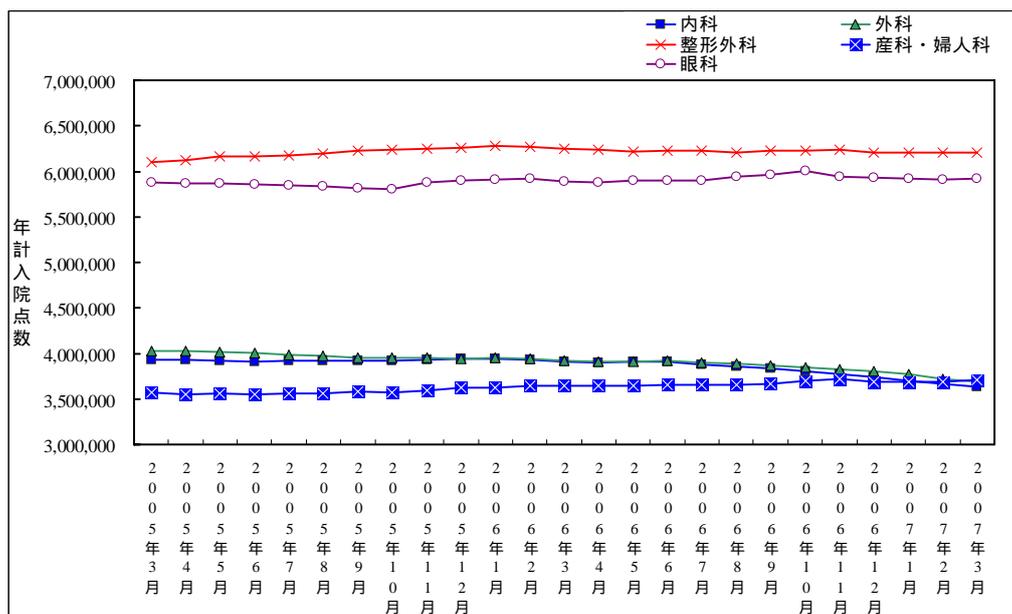
図 5-64 1 件当たり点数



診療科別 入院

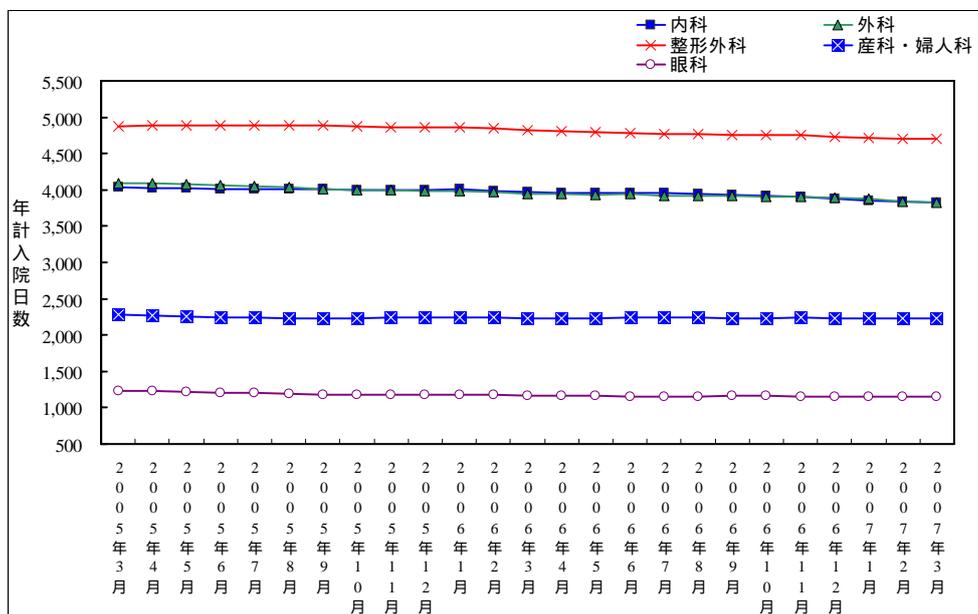
入院点数を見ると、内科と外科では期間を通じて減少傾向であった。一方、産科・婦人科、眼科では期間を通じて増加傾向であった。また、整形外科では増加傾向から減少傾向へと転じた。

図 5-65 年計入院点数



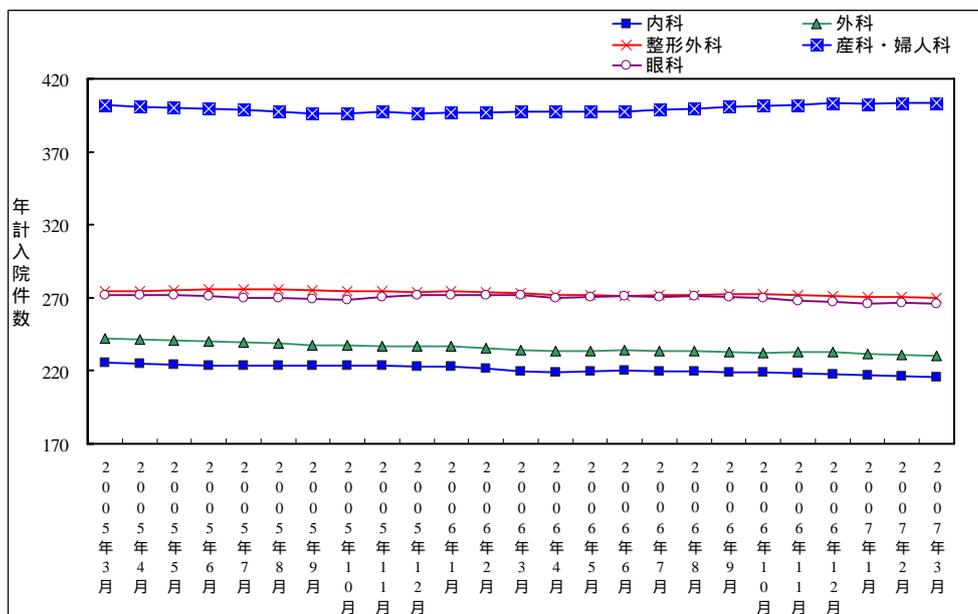
すべての科において、入院日数は期間を通じて減少傾向であった。

図 5-66 年計入院日数



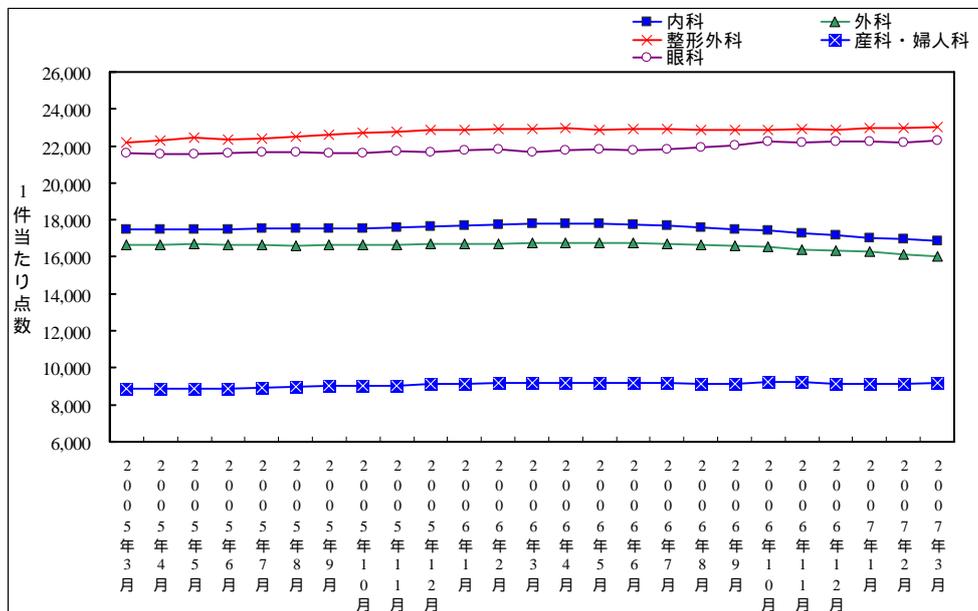
入院件数を見ると、産科では減少傾向から増加傾向に転じたが、その他の科では期間を通じて減少傾向であった。

図 5-67 年計入院件数



1 件当たり点数を見ると、内科と外科では増加傾向から減少傾向に転じた。その他の科では期間を通じて増加傾向であった。

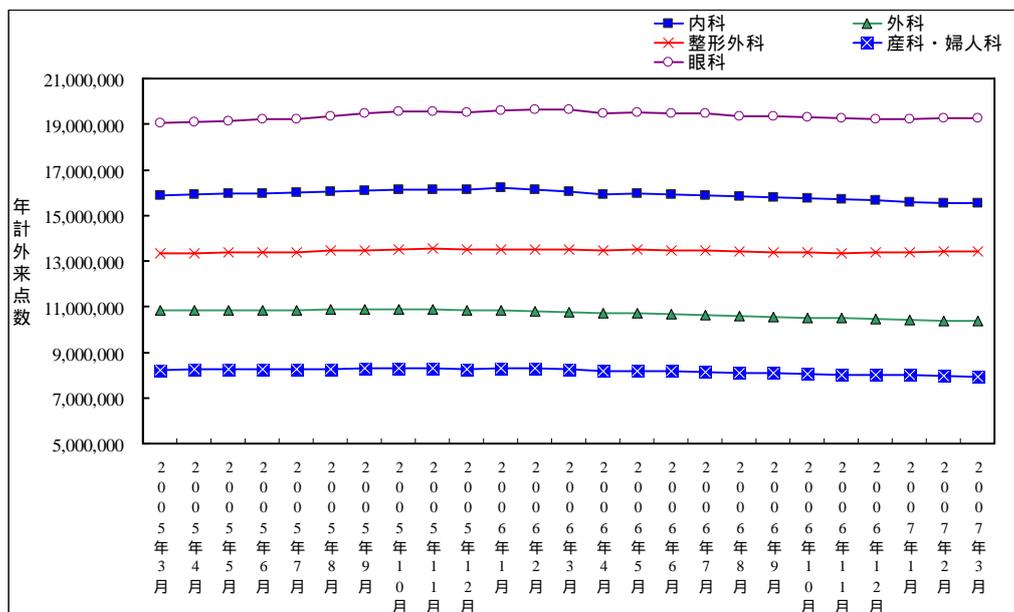
図 5-70 1 件当たり点数



外来

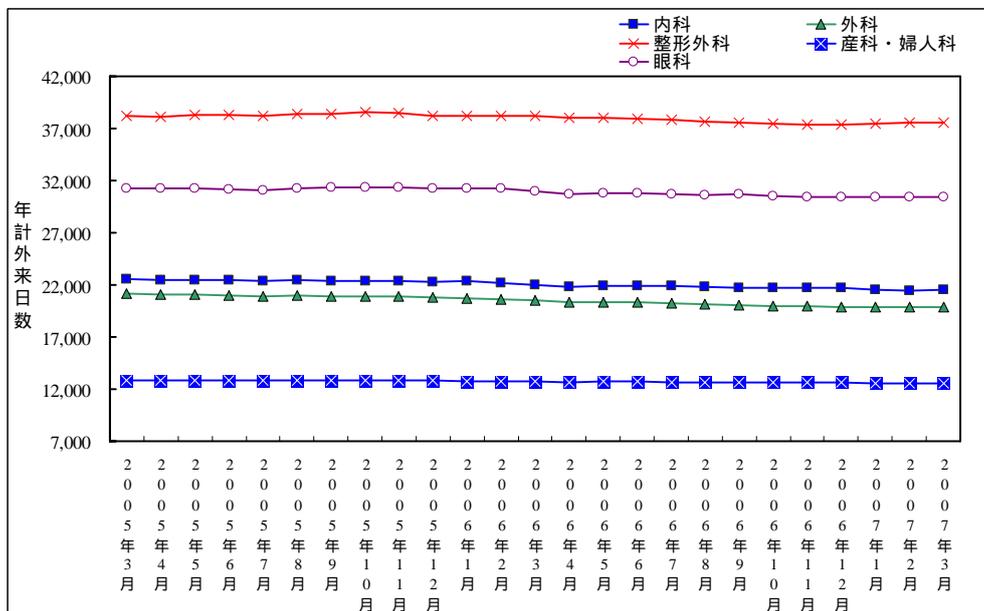
外来点数を見ると、外科では期間を通じて減少傾向であり、その他の科では増加傾向から減少傾向に転じた。

図 5-71 年計外来点数



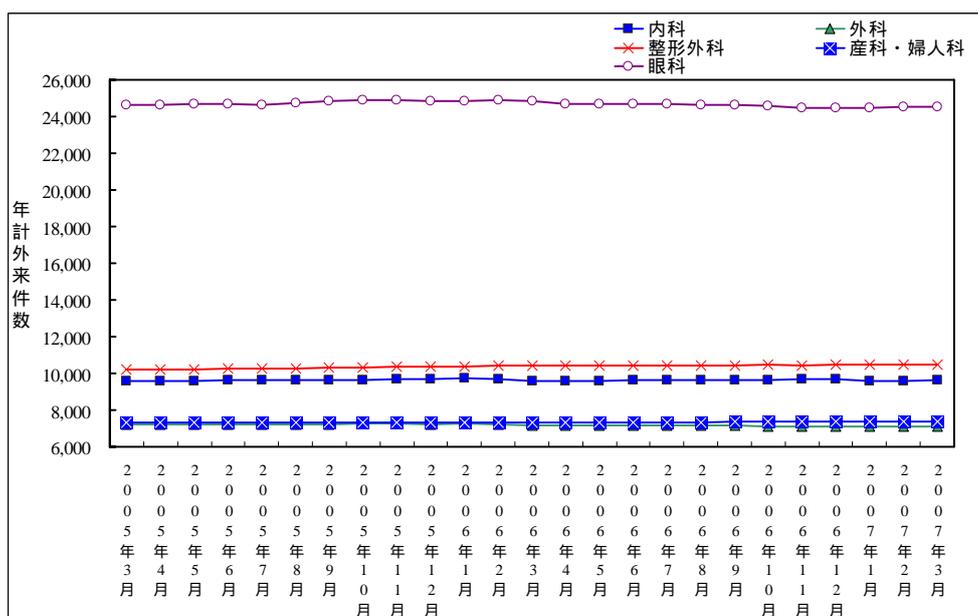
外来日数を見ると、整形外科で横這いから減少傾向に転じたのを除き、その他の科では期間を通じて減少傾向となった。

図 5-72 年計外来日数



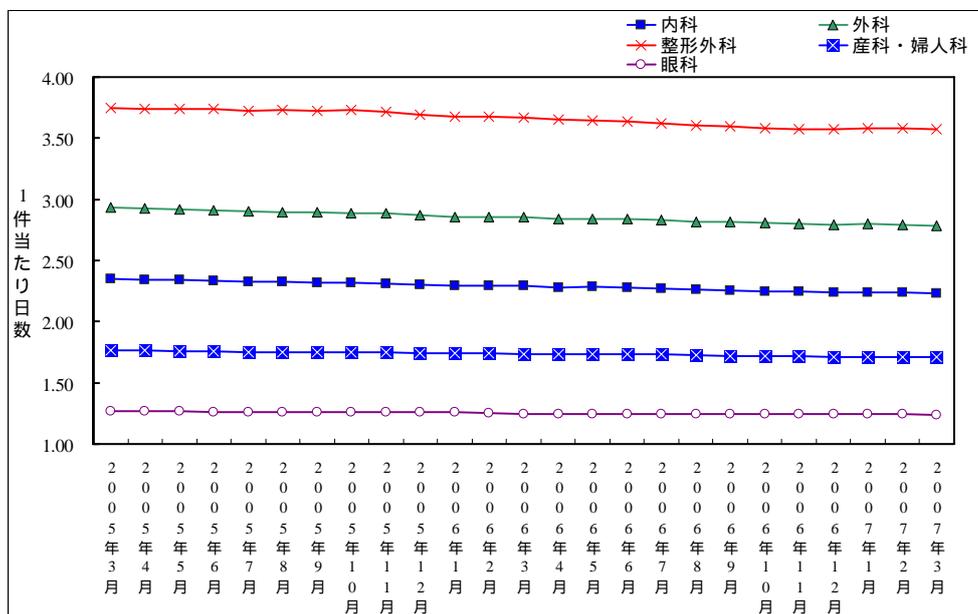
外来件数を見ると、眼科では増加傾向から減少傾向に転じた。内科、整形外科、産科・婦人科では期間を通じて増加傾向であり、外科では期間を通じて減少傾向であった。

図 5-73 年計外来件数



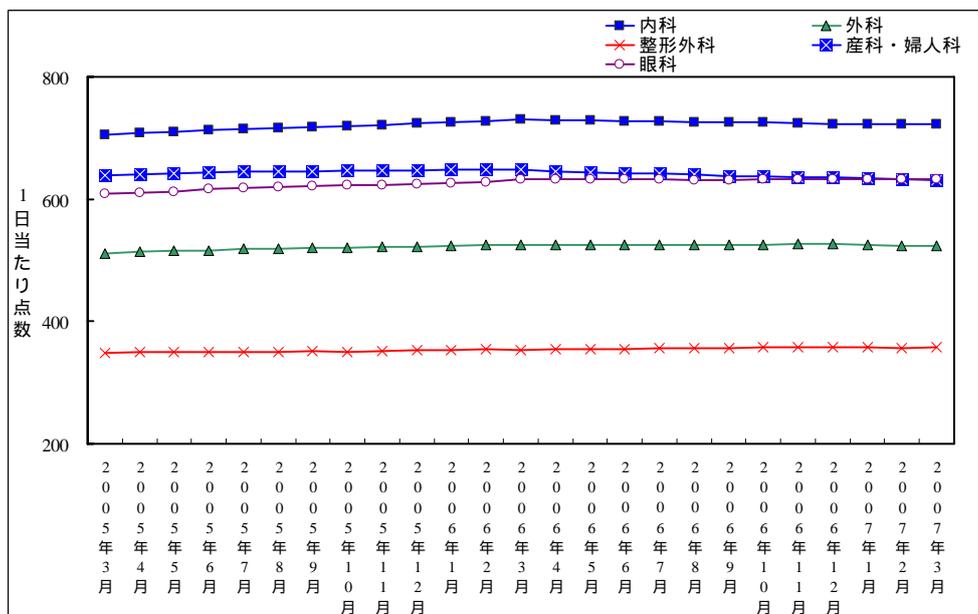
すべての科において、1件当たり日数は期間を通じて減少傾向であった。

図 5-74 1件当たり日数



1日当たり点数を見ると、整形外科では期間を通じて増加傾向であった。その他の科では増加傾向から減少傾向に転じた。

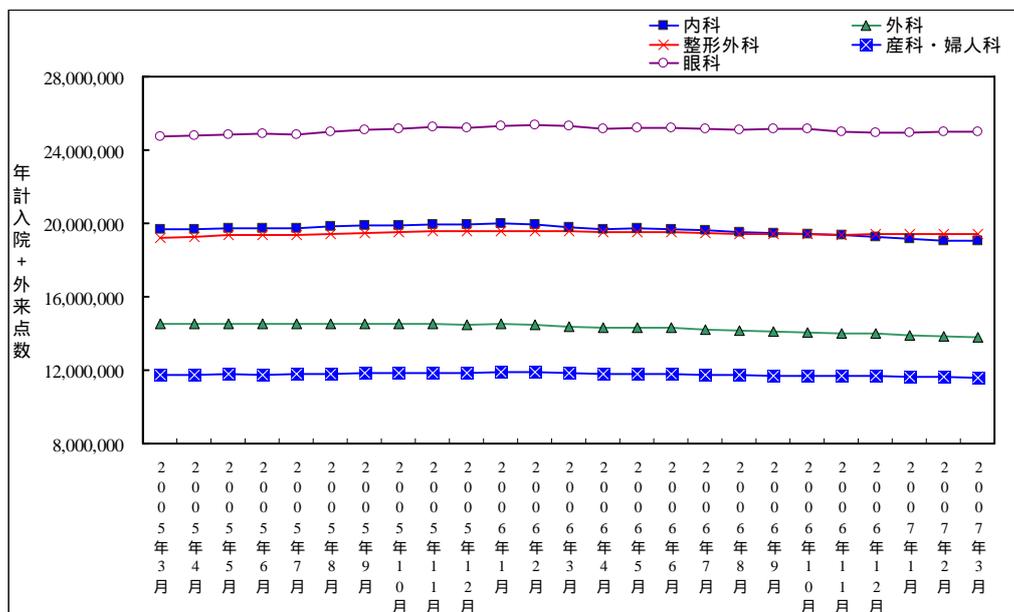
図 5-75 1日当たり点数



入院 + 外来

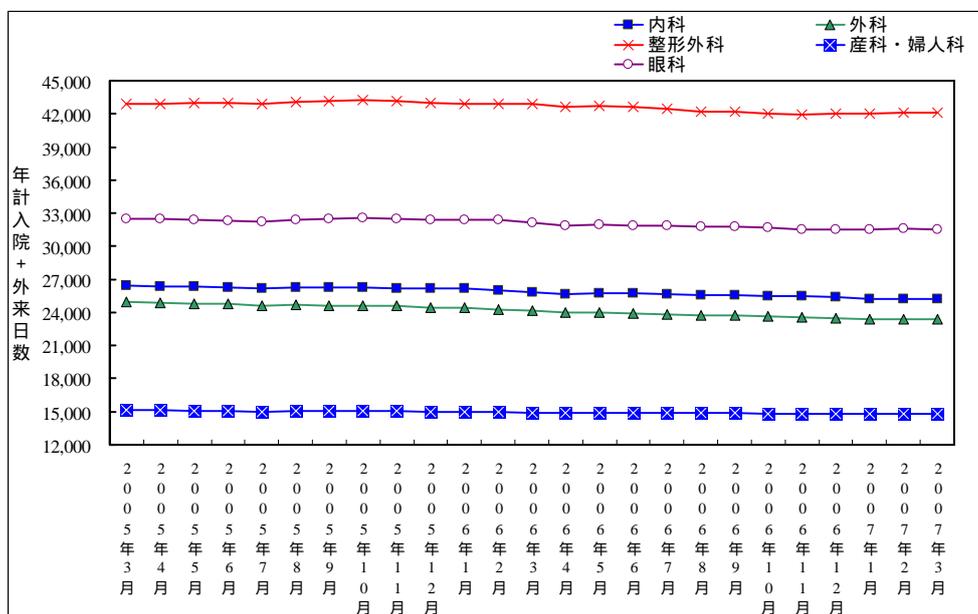
入院 + 外来点数を見ると、外科では期間を通じて減少傾向であった。その他の科では増加傾向から減少傾向に転じた。

図 5-77 年計入院 + 外来点数



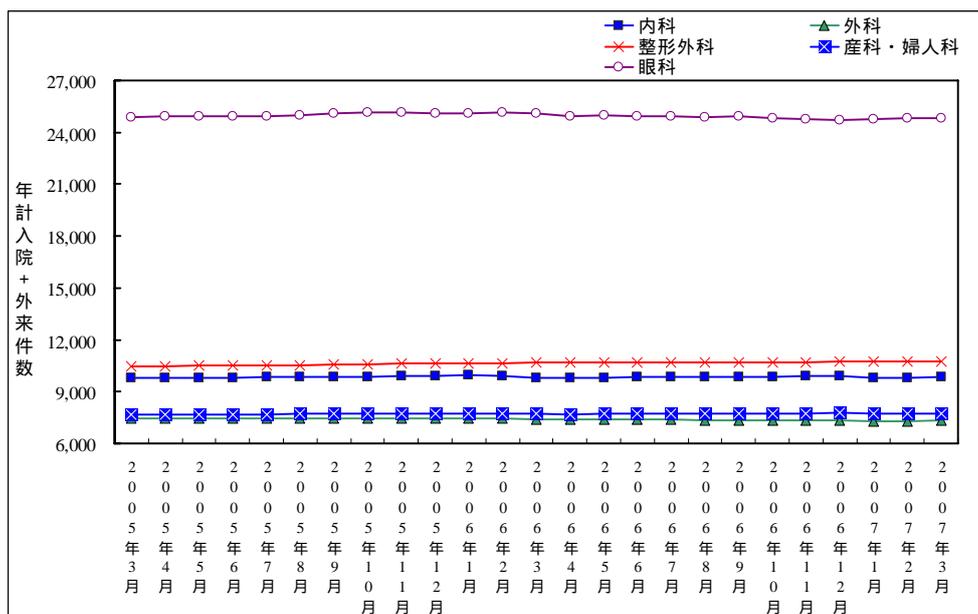
入院 + 外来日数を見ると、整形外科では横這いから減少に転じた。その他の科では期間を通じて減少傾向であった。

図 5-78 年計入院 + 外来日数



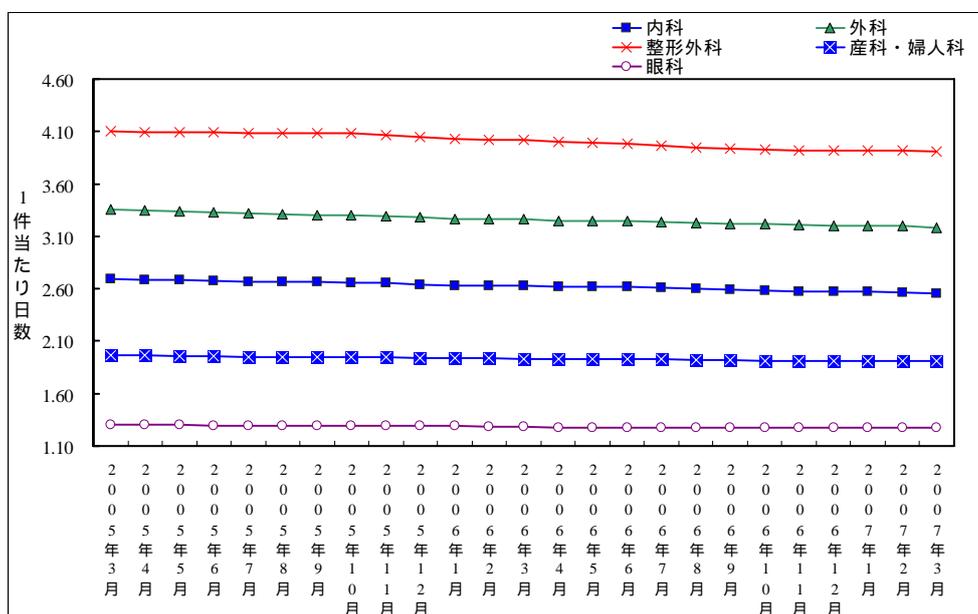
入院 + 外来件数を見ると、内科、整形外科、産科・婦人科では期間を通じて増加傾向であった。また、外科では期間を通じて減少傾向であり、眼科では増加傾向から減少傾向に転じた。

図 5-79 年計入院 + 外来件数



1件当たり日数は、すべての科において期間を通じて減少傾向であった。

図 5-80 1件当たり日数



1日当たり点数を見ると、内科、外科、産科・婦人科では増加傾向から減少傾向に転じた。また、整形外科と眼科では期間を通じて増加傾向であった。

図 5-81 1日当たり点数

